

新保田中村前遺跡Ⅲ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

掘立柱建物・ピット・土坑・墓等の調査
分析と調査成果

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

しん ぼ た なかむらまえ
新保田中村前遺跡Ⅲ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

掘立柱建物・ピット・土坑・墓等の調査
分析と調査成果

〈遺物観察表編〉

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

例言・凡例

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊「新保田中村前遺跡Ⅲ」(遺物観察表編)である。
2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に記載している。遺物の種類ごとに表の書式は異なっている。遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。
 - ①器種 《石器》UF=Used Flake(使用痕のある剥片)、RF=Retouched Flake(加工痕のある剥片)
 - ②法量 《土器・石器》口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大径
石器の厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。
なお、計測値に()をふしたものは復元値である。
《木器》単位：cm + a：測定値が復元値であることを示す ◆：芯持ち材の直径
 - ③胎土 《縄文土器》観察表中の縄文土器の胎土は以下のような5分類の設定に拠る。
 - A：凝灰岩礫を主体に石英等を多量に含む。
 - B：Aに類似するが、多量の赤色岩礫と結晶片岩を含む。
 - C：多量の石英砂礫と雲母粒を主体に、少量の円礫を含む。
 - D：粒径が細かく、砂粒状となった石英・凝灰岩等の扶雑物を多量に含む。
 - E：Dに類似するが、赤色岩礫を多量に含む。
 - ④色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。
《ガラス器》の色調は高学図書編集「色の手帳」小学館1987に拠る。
実体顕微鏡による機体観察の記号は次のとおりである。
 - A：表面にきずがある。縦方向に細かな筋が入り、内側には気泡が縦方向に連なる。
 - B：気泡が表面と内面に多数見られる。鉱物が含まれており、半透明である。
 - C：気泡が表面に多数見られる。
 - ⑤樹種 《木器》観察表中の樹種の同定は高橋利彦氏の26科37分類群の設定に拠っているが、詳細は本書第1・2分冊《遺物観察表編》もしくは本文編14章の同氏同定結果報告を参照願いたい。

目 次

1. ビット群の出土遺物	3
2. 土坑の出土遺物	4
3. 墓塚の出土遺物	17
4. 周溝墓の出土遺物	21
5. 裸床墓の出土遺物	31
6. 遺構外の出土遺物	32
7. 表面採集の遺物	52
8. 第1分冊補遺	55

1. ビット群の出土遺物

ビット群出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図7

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
724	弥生土器 壺	口縁部破片	Ⅳ面ビット87 埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色 10YR7/2	中位から外反する大形の壺の口縁部。外面は横方向、内面は横方向の下窄な捲き整形。口縁部外面は面とり。	口縁部外面上半に1cmおきに縦位の棒状付文が貼付される。付文の上には斜方向の縦向状工具による刷み目6本。刷み目の方向は、 \swarrow と変化する	断面の実測
723	弥生土器	底 7.9cm 高 3.4cm残	Ⅳ面ビット85 埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③緑5YR6/6	小形の甕形土器の胴部下位から底部の破片。底部は横へ張り出す。底部外面には本業痕が残る。内面は艶まで。	外面に細かな縄文施文。	

ビット群出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図7

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
716	土師器 鉢	底部破片 底(6.1cm)	Ⅳ面ビット21 埋没土中	①微細砂を含む。 ②酸化焰焼成 ③にぶい赤褐色5YR 4/4	右回転クトロ整形後、回転台切り難し。付高台		
719	土師器 S字壺	口縁部破片 口(12.8cm)	Ⅳ面ビット68 埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐色10YR 6/2	口縁部は二段とも斜方へ湾曲して開く。 胴部外面には調整がめぐる。 口縁部は外面目コナデ。		
721	土師器 S字壺	口縁部破片 口(15.4cm) 高 3.6cm残	Ⅳ面ビット73 埋没土中	①細砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐色 7.5YR6/3	口縁部は下平、上半とも斜方へ開く。胴部外面には調整がめぐる。体部外面刷毛目(6本/1cm)整形。口縁部内外面横まで。内面横方向艶まで。		
720	土師器 高杯	胴部上半片残 高 6.8cm残	Ⅳ面ビット67 埋没土中	①細砂、雲母鱗片を含む。 ②硬質。 ③にぶい緑2.5YR 6/4	胴部外面タテ方向捲き。内面斜方向刷毛目の後、指などで調整。杯部との接合面には刷毛目が残る。		

2. 土坑の出土遺物

56号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図20

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2015	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (11.8cm) 高 4.2cm残	底面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白10YR5/1	内外面丁寧なで調整。	

59号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図21

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2017 54	須恵器 高台付鉢	4ば定形 口 12.4cm 底 5.9cm 高 4.3cm	底面上3cm	①砂粒・小塵を多く含む。 ②燻元焰。軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。付高台。内外面回転で調整。成形はややいびつである。	
2018	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.5cm) 高 4.5cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②燻元焰。やや軟質。 ③黒褐5YR3/1	内外面にて調整。	
2019 54	須恵器 高台付鉢	口縁部一底部 高台部欠損 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②燻元焰。軟質。 ③灰白2.5YR/2	大形の鉢。ロクロ整形。付高台。	

62号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図21

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2020	土師器 杯	口縁部一底部写 残存 口 (10.5cm) 高 3.5cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②燻化焰焼成。 ③にぶい黄橙10YR7/4	内外面回転で調整。	

72号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図21

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2028 54	土師器 杯	口縁一底部写残 口 11.0cm 高 3.5cm残	埋没土中	①微砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向削削り。内面にて調整。口縁部内外面横なで。	

65号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図22

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2021	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.4cm) 高 3.1cm残	西縁 底面上8.5cm	①夾雑物をほとんど含まず。精選された胎土。 ②硬質。③橙5YR6/8	内外面にて調整。	

66号土坑出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図22

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2022	土師器 杯	口縁部破片 高 3.2cm残	埋没土中	①夾雑物が少なく。精選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/5	内外面横なで。底部外面削削り。	
2023	土師器 杯	体部中位破片	埋没土中	①微細砂を少量含むが。精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部外面横方向削削り。内面にて調整。口縁部内外面横なで。	

2. 土坑の出土遺物

67号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図22

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2024	土師器 高台付椀	底部破片 底（6.8cm） 高 1.7cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y6/1	右回転クロコ整形。底部回転糸切り難し。付高台。内外面にて調整。	

71号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図22

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2027	須恵器 杯	体部下位～底部 残 底（7.0cm） 高 2.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③灰白7.5Y4/1	右回転クロコ整形。回転糸切り難し。体部内外面にて調整。	

70・71号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図22

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2025	須恵器 羽釜	口縁部破片 口（26.2cm） 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒を含む。 ②酸化焙焼成。 ③橙7.5YR6/6	内外面回転にて調整。	
2026	須恵器 羽釜	口縁部破片 口（17.2cm） 高 5.9cm残	埋没土中	①細砂・砂粒・小礫を含む。 ②還元焙焼成。 ③灰白7.5Y7/1	内外面回転にて調整。	

57号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図23

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2016	須恵器 高台付椀	高台片破片 底（7.0cm） 高 1.9cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y6/1	はがれた付高台の破片。内外面丁寧などで調整。	

17号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図24

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2009 54	土師器 杯	片残存 口（14.5cm） 高 5.4cm残	底面直上	①細砂・砂粒を含む。 白色鉱物顆粒が目立つ。 ②硬質。③橙5YR6/6	丸底の杯。口縁部は上方につまみ上げられ、小さくつらわれている。外面荒削り。口縁部内外面にて調整。内面丁寧などで調整。	

17号土坑出土遺物観察表（瓦） 図24

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2010 697 54	瓦 女瓦	厚 2.5cm	北壁際 底面土2.5cm	①白色粘土含む。 ②硬質。③灰白2.5Y7/1	表面に草木灰痕があり、極巻作。裏面は回転の撫痕とその下に結文がわずかに見える。個部面取り3回。	吉井・藤岡

40号土坑出土遺物観察表（陶器） 図24

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2013 54	埴輪陶器 環鉢	口縁部～底部残 口（29.6cm） 底（14.0cm） 高 10.5cm残	底面土5cm	①礫を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	外面回転削り。口縁部内面に低い突帯がある。	堺・明石製 18世紀末～19世紀中頃。

74号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図27

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2032	土師器 壺	頸部から体部上位破片 胴 (21.5cm) 高 7.6cm残	底面上40cm	①微細砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	直立する頸部に球形胴部がつくと想定される。口縁部の形状は不明。体部外面は斜方向彫削りの後で調整。部分的に横方向彫削り。	

73号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図27

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2029 59	土師器 埴	口縁部残 口 13.9cm 高 8.9cm残	底面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③黄7.5YR7/6	頸部がやや内湾する。大形の埴。内外面とも丁寧な調整の後縦方向彫削り。口縁部横なで。	
2030	土師器 S字壺	脚部1/2残存 底 9.6cm 高 6.6cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③暗灰黄2.5YR5/2	中形のS字壺の脚部破片。外面斜方向刷毛目。内面指なで。	

73号土坑出土遺物観察表(弥生土器) 図27

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2031 59	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①砂質土であり小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄5YR7/3	頸部は大きく反する。口縁部は内外面とも横なで。肩部は斜方向の器面調整。		

73号土坑出土遺物観察表(木器) 図27

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	出土位置	木取り 種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
W1128	棒状木製品	23.0×1.9×1.7	中央やや北。 底面上5cm	芯持 ヤマグワ	両端欠損	表面がわずかに削られている。	

45号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図28

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2014 59	土師器 S字壺	口縁部一部份欠損 底 17.3cm 高 10.0cm 高 29.0cm	床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	口縁中段直立。口唇部面とり。頸部内面面とり。体部外面4段羽状刷毛目。内面なで。頸部直残る。脚部外面斜刷毛目後すりけし。内面なで調整。	

83号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図29

番号 PL	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2041 60	土師器 S字壺	体部下位一脚部残存 底 10.1cm 高 10.2cm残	底面直上	①微細砂・細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄7.5YR7/4	体部外面縦方向刷毛目(8本/1cm)。脚部外面斜方向刷毛目(6本/1cm)。体部内面横方向彫削り。脚部内面指削り。	
2047 60	土師器 壺	体部下位一底部残存 底 7.6cm 高 10.5cm残	底面上6cm	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄7.5YR7/3	円盤状の底部にやや下膨れの球形体部がのる。斜・横方向刷毛目(5本/1cm)整形後なで調整。部分的に彫削りが施されている。底部内面彫削り。	
2046	土師器 壺	口縁部一頸部破片 口 (14.8cm) 高 4.5cm残	底面上9.0cm	①砂粒・小礫を多量に含む。 ②硬質。 ③浅黄褐色7.5YR8/3	くの字に開く。壺形土器の口縁部。外面部には、面とりがされ、磨面状工具による削削が施されている。外面縦方向刷毛目(5本/1cm)整形後、横なで。内面横なで。	

83号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図29

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2045	土師器 器台	器受部3/4残 口 11.0cm 高 2.8cm残	底面上14cm	①胎土 ②焼成 ③色調	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白5YR7/1	口縁部外面端部に面とりをする小形器台の器受部。やや丸く上方に開く。内外とも細かな縦方向施磨き。
2048	土師器 壺	口縁部1/2 口 (17.6cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①胎土 ②焼成 ③色調	①細砂・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部外面に折り返し口縁状に肥厚させた複合口縁。頸部は、ほぼ直立し、球形の胴部がつくと思われる。頸部外面には、斜刷毛目 (10本/1cm) 整形が残るが内外ともよくなられている。

80号土坑出土遺物観察表（弥生土器） 図30

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2040	弥生土器 壺	口縁部破片	底面上10cm	①胎土 ②焼成 ③色調	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。 ②やや軟い。 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部には横線波状文。	

86号土坑出土遺物観察表（弥生土器） 図30

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2049	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①胎土 ②焼成 ③色調	①緻細砂であり黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや軟い。 ③灰白7.5YR6/2	頸部は大きくくびれ、内面には輪槽目と横なでがのこる。	頸部は右面側の横線波状文、直下に1単位7条の横線波状文を施した彫刻状工具により縦横文を描き斜交縦横文を充満させる。

81号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図31

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2042	土師器 S字壺	口縁部一体部中位1/2残存 口 (17.0cm) 高 13.0cm残	底面直上	①胎土 ②焼成 ③色調	①細砂・砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中位は、ほぼ直立し、口縁部内面端部は凹縁がある。体部は肩の張る丸い胴部を呈する。体部外面、羽状の刷毛目整形 (5本/1cm)。中位には横方向刷毛目整形。内面は、横方向で調整後、縦方向なで。口縁部内外面横なで。
2043	土師器 S字壺	口縁部一体部上位 口 (15.8cm) 高 11.9cm残	底面直上	①胎土 ②焼成 ③色調	①細砂を多量に含む。黒色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は、ほぼ直立し、口縁内面端部には、ゆるやかな面とりがある。体部外面羽状の刷毛目 (4本/1cm) 整形。内面横方向で調整後、縦方向なで。
2044	土師器 高杯	頸部破片 底 (14.2cm) 高 2.0cm残	底面上10cm	①胎土 ②焼成 ③色調	①緻細砂・細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	胴部が大きく広がる。高杯の頸部部。外面斜方向刷毛目 (17本/1cm) 整形。内面なで調整。胴部内外面横なで。下位に1孔が残る。

75号土坑出土遺物観察表（弥生土器） 図32

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2033	弥生土器 壺	口縁部1/4 口 (15.8cm) 高 12.7cm残	底面上32cm	①胎土 ②焼成 ③色調	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含む。 ②硬い。 ③橙7.5YR7/6	胴部は僅かに丸みをもつ。頸部は僅かにくびれる。口縁部は外反。口縁部は横なで。	
2034	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①胎土 ②焼成 ③色調	①白色鉱物粒・石英砂を含む。 ②良好 ③灰黄褐10YR6/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反し、口縁端部付近に引き受け口状を呈す。内外とも横なで。	口縁部は刷毛目、受け口部外面は横線波状文。

77号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2038 59	土師器 壺	口縁部破片 口 (18.0cm) 高 8.6cm残	埋没土中	①砂粒・微細砂を含む。 ②焼質。 ③明赤銅5YR6/8	口縁部下位を肥厚させる複合口縁。頸部はほぼ直立し、断面四角形の突帯が付される。複合部外面には深い沈線が数条施され、頸部は丁寧になでられている。頸部内面は横方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。口縁内面縁部には磨削状工具による羽状の削突文を施している。	

77号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2038 59	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑物粒・石英砂・小礫を含む。 ②やや穢い。 ③明赤鉄7.5YR7/2	胴部は僅かに丸みをもつ。胴部下下部は腹方向の亀裂き。内面は磨削見れ。	磨削波状文。	

77号土坑出土遺物観察表《石器》 図32

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S741 59	磨石	9.4・4.7 2.7	横粒安山岩 200.0	東縁 底面上43cm	両端及び表面に顕著に嵌打痕を残す。	

76号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図33

番号 PL	器種	残存 法 容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2035 59	弥生土器 壺	体部破片	底面上19cm	①白色・黒色・砂質土・小礫を含む。 ②良好 ③黒銅2.5Y3/2	胴部は丸みをもつ。内面は横方向の器面調整。	頸部には右回りの等間隔止塵状文。直下に1単位8条の磨削状工具により2段の磨削波状文があり、胴部中位から下位には羽状文が入る。	
2037 59	弥生土器 壺	肩部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑物粒・石英砂を含む。 ②穢い③にぶい黄緑10YR8/2	肩部は丸みをもつ。内外面とも器面寛れ。	肩部上位より胴部にかけての文様は磨削波状文の後空間があり瓶状工具による横線文、瓶状工具による磨削文、この中を斜向沈線文で充塞。	
2036 59	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑物粒・小礫・輝石を含む。 ②穢い③にぶい橙5YR7/3	頸部はくびれる。口縁部は外反内外面とも器面寛れ。	頸部には左回りの等間隔止塵状文。	

91号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2050	弥生土器 壺	口縁部1/4残存 口 (17.0cm) 高 5.5cm残	埋没土中	①砂粒を含む。 ②やや穢い ③灰白10YR8/1	頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反する。	頸部には左回りの磨削状文がみられる。	

91号土坑出土遺物観察表《石器》 図34

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S747 60	スタレイ パー	4.15・4.9 1.1	黒色頁岩 35.5	埋没土中	横長割片素材、確認残存、確認打面周縁部分に加工痕が認められる。	
S762 60	未製品	3.45・2.5 0.15	珪質準片岩 1.6	埋没土中	研削工程の段階である。	

52号土坑出土遺物観察表(弥生土器) 図36

番号 PC	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1959 59	弥生土器 甕	胴部破片	埋設土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや硬い。③に ぶい黄橙10YR7/3	胴部は丸みをもつ。内外面とも 横方向の器面調整。	横溝波状文。	
1960 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋設土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	口縁部は外反する。内外面とも 横方向の器面調整。	胴部には左回りの等間隔止線 状文。口縁部および肩部に縄 文。	
1961 59	弥生土器 甕	胴部破片	埋設土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	肩部は丸みをもつ。口縁部はく びれる。内面は横方向器面調整。	胴部には左回りの等間隔止線 状文。肩部は縄文。	
1963 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋設土中	①白色・黒色・夾 雑物粒・石英砂を 含む。 ②やや硬い。 ③灰褐色7.5YR4/2	胴部はくびれる。口縁部は外反 する。内外面とも口縁部付近は 横なで。	外面肩部は縄文。	
1962 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋設土中	①白色・夾雑鉱物 粒・輝石を含む。 ②やや硬い。 ③にぶい黄7.5YR 6/3	口縁部は外反し、肩部付近で外 面は立つ。内面は横方向器面調 整。内外面とも器面荒れ。	胴部は右回りの溝状文。胴部 →口縁部は横溝波状文で充填。	

52号土坑出土遺物観察表(石器) 図36

番号 PC	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
5740 59	敲石	10.2・4.9 3.7	粗粒安山岩 195.0	埋設土中	一端に敲打痕、一端に端による割痕を残す。	

52号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図37

番号 PC	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1933 54	土師器 S字壺	ほぼ完形 口 17.0cm 底 9.5cm 高 30.5cm	埋設土中	①細砂。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は直立する。体部外面はほぼ5段の斜方向 刷毛目(7本/1cm)整形。肩部上位には横方向刷毛 目整形が高る。内面まで調整。指痕が残る。	刷毛目
1934 54	土師器 S字壺	口縁部-体部下 位写残存 口 15.8cm 高 21.0cm残	埋設土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は直立し、肩部は凹縁がひかれている。頸 部内面にも整形による面ができています。肩部に張り のあるS字壺。外面4段の羽状刷毛目(6本/1cm)整 形後、横方向刷毛目整形。胴部には屈曲調整が通る。 内面下位横方向調整なで。上位指痕さえ。	胴部最大径付 近帯付着
1944 54	土師器 S字壺	胴台部・口縁- 体部上半写欠損 口(14.6cm) 高 23.0cm残	埋設土中	①細砂を含むが器面 にはあまり目立たない。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は直立する。最大径が上位にあるS字壺。 体部外面斜方向刷毛目(6本/1cm)整形。肩部横方 向刷毛目整形。内面まで調整。指痕が残る。口縁部内 外面横なで。	
1956 54	土師器 S字壺	体部写欠損 口(12.1cm) 底 7.85cm 高 19.75cm	埋設土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③明褐色7.5YR7/1	体部外面3段に分けて刷毛目(7本/1cm)整形後、 横方向刷毛目整形。内面まで調整。胴部外面斜方向刷 毛目整形口縁部中段は直立する。	
1954 54	土師器 S字壺	口縁部-体部下 位写残存 口(13.2cm) 高 12.4cm残	埋設土中	①細砂・砂粒を多量に 含む。 ②硬質。 ③赤褐色10R5/4	小形S字壺。口縁部中段は垂直に立つ。上段は外反す る。胴部下位には丸く整形されている。体部外面斜方向 刷毛目(6本/1cm)整形。横方向刷毛目整形。下位 斜方向刷毛目整形2段。	
2006	土師器 S字壺	体部中位写残存 高 10.0cm残	埋設土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③明褐色5YR7/2	外面肩部上位横方向刷毛目(8本/1cm)整形。内面 指なで、なで調整。肩部横方向刷毛目整形。体部下 位斜方向刷毛目整形。	

52号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図37-39

番号 凡	器 種	残 存 状 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色澤	器 形・装 形 の 特 徴	備 考
2004	土師器 S字壺	口縁部写残存 口 14.0cm 高 5.4cm残	埋没土中	①細砂を多く含む。赤色鉱物粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は直立し、内面端部に面とりをする。外部外面斜方向朝毛目（5本/1cm）整形。肩部には横方向朝毛目整形。内面にて調整。指痕が残る。口縁部内外面横なで。	
1998 54	土師器 S字壺	口縁部一肩部残 口 15.6cm 高 4.8cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段はほぼ直立し、鋭い稜をつつて、口縁内面端部は、巾3～5mmの面とりをする。外面端部横なで。外部斜および横方向朝毛目（7本/1cm）整形。内面指押さへ。	
1997 54	土師器 S字壺	口縁部一底部残 口 11.2cm 高 4.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は短く、上段は外湾する。外面斜方向朝毛目（7本/1cm）整形。横方向朝毛目整形。肩部屈曲部調整。	
1995 54	土師器 S字壺	口縁部のみ残存 口 16.0cm 高 3.1cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 白色鉱物粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は外反する。内面端部には鋭い沈溝。外部外面斜方向朝毛目（9本/1cm）整形。内部内面横方向なで後、部分的に指痕が残る。	
1996 54	土師器 S字壺	口縁部残存 口 16.0cm 高 4.5cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は外反する。外部外面斜方向朝毛目（7本/1cm）整形。内部内面横方向なで後、部分的に横方向指押なで。	
1937 55	土師器 S字壺	口縁部から肩部残 口 15.1cm 高 21.7cm残	埋没土中	①微細砂・細砂・小礫を含む。②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	肩部のはるS字壺。口縁部中段は直立。上段は外反する。外部外面5段に斜方向朝毛目（7本/1cm）整形。内面横方向指押なで、横方向指押なで。口縁部横なで。	
2008 55	土師器 S字壺	口縁部一底部下位写残存 口 15.0cm 高 23.4cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	長柄のS字壺。口縁部中段、上段は一進で外湾する。外面上位横方向朝毛目（5本/1cm）整形。下位3段に分けて、右下斜方向朝毛目整形。内面横方向なで。指痕が残る。	
1935 55	土師器 S字壺	口縁部一底部残 口 12.5cm 底（8.6cm） 高 25.5cm	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/3	外部外面羽状に4段朝毛目（5本/1cm）整形。内面上半指押なで、下半横方向指押なで。	
1938 55	土師器 S字壺	体部写欠損 口 13.0cm 底 8.1cm 高 21.2cm	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	肩部が膨らむ小形のS字壺。口縁部中段は外反し、頂部には屈曲部調整が回る。外部外面は4段の朝毛目（7本/1cm）整形。内面上半縦方向指押なで、下半横方向指押なで指押さへ。	
1945 55	土師器 S字壺	体部写肩部欠損 口 10.8cm 底 7.4cm 高 19.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	やや長柄の小形S字壺。口縁部中段は外反する。外部外面斜方向朝毛目整形（5本/1cm）整形。外部外面斜方向朝毛目整形。磨り消し。内面横なで。肩部指押なで。外部外面下手には一次調整の痕跡がみえる。	
1942 55	土師器 S字壺	体部写肩部欠損 口 21.7cm 高 29.7cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	山際水の口縁部をもつS字壺。外部外面上半斜方向、下半縦方向朝毛目（6本/1cm）整形。肩部屈曲部調整。内部内面、巾広横方向指押なで。口縁部から頂部まで調整。	
1941 55	土師器 S字壺	体部一肩部一部欠損 口 27.2cm 高 33.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄7.5Y6/3	中段から外方向へ、高く伸びたタイプのS字壺。肩部は外反する。外面斜方向4段に分けた朝毛目（5本/1cm）整形。外部外面斜方向朝毛目整形。内面横方向指押なで後、横方向指押なで調整。口縁部内外面横なで。	
1939 55	土師器 S字壺	ほぼ完形 口 15.2cm 底 9.4cm 高 28.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙10YR7/3	口縁部中段は直立し、内面端部に面とりをする。外部外面の屈曲部調整。外部外面斜方向朝毛目（6本/1cm）整形4段の羽状。内面横なで。指押さへ。外部外面斜方向朝毛目整形後、磨り消し。	
1943 55	土師器 S字壺	体部一部欠損 口 15.4cm 底 11.4cm 高 22.6cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄10YR5/3	口縁部中段は外反する。肩部横なで。外部外面4段に分けて斜方向朝毛目（7本/1cm）整形。内面下半斜方向指押なで。上半にて調整。	
2005 55	土師器 S字壺	口縁部一肩部残 口 18.5cm 高 4.2cm残	埋没土中	①微細砂を含む。小礫も含まれている。 ②硬質。 ③浅黄2.5Y7/3	口縁部中段は外反する。外部外面斜方向朝毛目（5本/1cm）整形。口縁部下に、鋭な頸部調整。内面にて調整。指痕が残る。	

52号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図39-40

番号 FL	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1988 55	土師器 S字壺	口縁部一底部残 口 13.9cm 高 9.9cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	やや肌硬化したS字壺。口縁中段は外反する。体部外面縦、斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。頸部には調整が入る。内面横方向直線で、指頭直残る。	
1940 54	土師器 S字壺	口縁部破片 口 13.0cm 高 6.5cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部外面横方向刷毛目(6本/1cm)整形後、斜方向刷毛目整形。頸部外面には屈曲部調整。内面直なで。	
2000 55	土師器 S字壺	口縁部一底部残 口 15.0cm 高 23.0cm残	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y6/2	口縁中段は外反する。頸部外面には屈曲部調整が深る。体部4段に分け斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。内面指押さえ。下半直なで。	
1999 55	土師器 S字壺	口縁部一底部上 位与残存 口 15.5cm 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁中段が外反する。S字口縁端部は丸い。頸部には屈曲部調整が深る。内面直なで。外面斜方向刷毛目(8本/1cm)整形。部分的に刷毛目の下の横方向刷毛が見える。	
2003 55	土師器 S字壺	口縁部一底部中 位与残存 口 18.2cm 高 16.1cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰黄7.5YR4/2	口縁中段は垂直に、上段は外反する。内面端部は凹縁が付けられている。外面肩部右上り刷毛目(7本/1cm)整形。体部下平下り刷毛目整形。内面直なで後、横方向直なで。口縁部内外面直なで。屈曲部調整が施されている。	
1994 55	土師器 S字壺	口縁部一底部上 位残存 口 13.5cm 高 12.0cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部上段は直立し、内部端部に面と面とする。頸部外面まで直なでが及ぶ。外面横方向直線の後、まばらな縦方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面縦方向直なで。	
2001 56	土師器 S字壺	体部下位一底部 残存 底 10.5cm 高 12.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	大形のS字壺脚部。体部一脚部外面斜方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面斜方向直なで。	
1980 56	土師器 S字壺	体部下位一底部 残存 底 9.6cm 高 8.2cm残	埋没土中	①砂粒・小礫を多量に 含む。②硬質。 ③浅黄褐10YR8/3	体部外面縦方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面斜方向直なで、脚外面斜方向刷毛目整形。内面縦方向直なで。	
1955	土師器 S字壺	体部下平部破片 高 10.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄7.5YR6/2	外面三段に分けて刷毛目(7本/1cm)調整。内面直なで調整。指頭直残る。	
1976 56	土師器 S字壺	体部下位一底部 残存 底 8.7cm 高 15.5cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面縦方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面横方向直なで。脚部外面斜方向刷毛目整形。下半磨り消し。内面指押さえ後、直なで調整。	
1984 56	土師器 S字壺	体部下位一脚部 残存 底 7.3cm 高 11.6cm残	埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5YR/2	小形のS字壺。体部外面縦方向刷毛目(5本/1cm)整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。内面直なで調整。	
2002 56	土師器 S字壺	体部下位残存 高 12.1cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面下位3段に分け、斜方向刷毛目(10本/1cm)整形。内面斜方向直なで。	
1986 56	土師器 S字壺	体下部一脚部 残存 底 7.6cm残 高 13.5cm残	埋没土中	①細砂を含む。赤色鉱 物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	広い刷毛目(5本/1cm)整形のS字壺。外面縦、斜方向刷毛目整形。内面直なで。脚部内面直なで。端部の粘土接合部は直なで消している。	脚部接合部より3-4cm上方のライン以上に煤付き。
2007 56	土師器 S字壺	体部下位一脚部 残存 底 8.7cm 高 12.6cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	体部外面縦方向2段の刷毛目(4本/1cm)整形。脚部外面斜方向刷毛目後、磨り消し直なで調整。脚部内面直なで。体部内面直なで。	
1977 56	土師器 S字壺	体部下位一脚部 残存 底 9.2cm 高 9.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄7.5YR4/2	体部外面縦方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面直なで調整。指頭直残る。脚部内面斜方向刷毛目整形。内面直なで調整。指頭直残る。	

52号土坑出土遺物観察表(土器器・須恵器) 図40-41

番号 PL	器種	残法 残存	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1985 56	土師器 S字壺	体部下位→脚部 残存 底(6.5cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面縦方向刷毛目(11本/1cm)整形。体部内面縦方向指などで底部まで。脚部内面縦方向指まで。	
1981 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 9.7cm 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	脚部外面斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。内面指まで。体部内面指まで。	
1982 56	土師器 S字壺	脚部破片 底(9.3cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰白10YR7/2	深く鋭い刷毛目(6本/1cm)整形。外面斜方向刷毛目整形。内面縦方向指などで、横方向は削り。	
1992 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 8.8cm 高 7.8cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③浅黄2.5Y7/3	体部外面縦方向刷毛目(4本/1cm)整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。体部内面まで調整。脚部内面縦方向指まで。	
1983 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 10.0cm 高 7.8cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄7.5YR6/2	外面斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。内面まで調整。指頭痕が残る。	
1987 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 9.5cm 高 7.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白10YR8/2	体部→脚部上半刷毛目(6本/1cm)整形。下半まで調整。脚部内面中位横方向指まで。下位斜方向指まで。上位は指まで。	
1991 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 11.0cm 高 7.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。③黄灰2.5Y5/1	大形のS字壺。外面斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。磨り消しなどで調整。内面縦方向指まで。	
1979 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 10.6cm 高 7.6cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	脚部外面斜方向刷毛目(5本/1cm)整形。内面指まで。	
1978 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 10.7cm 高 7.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	大形のS字壺。外面斜方向刷毛目(9本/1cm)整形。内面まで調整。	
1990 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 8.5cm 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	脚部外面斜方向刷毛目(8本/1cm)整形。まで調整。内面縦方向指まで。	
1989 56	土師器 S字壺	脚部残存 底 7.5cm 高 5.6cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	小形のS字壺。脚部外面斜方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面まで調整。	
1993 56	土師器 S字壺	脚部破片 高 2.6cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部と脚部の接合部。接合部の凹みが残る。外面斜方向刷毛目(8本/1cm)整形。内面指まで。	
1953	土師器 甔	底部破片 底(2.7cm) 高 3.1cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	一孔を底部に穿つ甔。外面縦方向丸彫り。内面横方向丸彫り。	
1922 56	土師器 甔	口縁部一体部残 口(23.6cm) 高 13.0cm残	埋没土中	①砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	広口の甔。体部→口縁部斜方向刷毛目(11本/1cm)整形後、縦方向指まで。体部内面斜方向刷毛目整形後、縦方向丸彫り。口縁部まで調整。	
1927	土師器 甔	体部下位→底部 残存 底 7.4cm 高 11.6cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③淡黄5YR8/3	球形胴部は蓋形土器。外面横方向丸彫り。内面削り後下平横方向刷毛目(5本/1cm)整形。最下部指まで。	
1923 56	土師器 甔	口縁→体部1/4 残存 口(15.8cm) 高 18.7cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	やや広口の甔。外面口縁部に刷毛目(13本/1cm)整形が残るが、全体によくなでられている。内面刷毛目整形後、上半丸彫り。下半は丁寧なで。	
1920 56	土師器 甔	体部下位欠損 口 20.6cm 高 19.1cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	やや広口の甔。口縁部は外反する。体部外面は胴部縦方向刷毛目(11本/1cm)整形。中位右下刷毛目整形。下位右より刷毛目整形後、中位を中心になで調整。内面上半横方向刷毛目整形後、横方向指まで。縦方向丸彫り。下半横方向指まで。口縁部横まで。	

52号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図41・42

番号 凡	器種	残 存 量	出土位置	①粘土 ②地成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1921 57	土師器 壺	口縁部欠損 高 20.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③紺7.5YR7/6	胴部中位の張った箕蓋玉形の胴部の壺。口縁部の形態は不明、外面斜方向刷毛目(9本/1cm)整形。指などで、内面底部指押さえ。体部内面横方向寛なで。接合痕あり。	
1968 57	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(16.8cm) 高 5.5cm残	埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③紺7.5YR4/3	ごく短く外反する口縁部を付する壺。外面斜方向で調整。内面横方向寛なで。	
1967	土師器 広口壺	口縁部一部份破片 口(12.4cm) 高 7.8cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい紺7.5YR7/3	広口の壺。内外面ともで調整。口縁一部份上位は磨かれていた。内面寛なで。	
1957	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(16.0cm) 高 6.0cm	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③褐色10YR5/1	幅広い折返し口縁部を付す口縁。頸部縦方向刷毛目(8本/1cm)整形後、横なで調整。口縁部内面横方向刷毛目整形。上半なで調整。	
1952	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(15.4cm) 高 6.2cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③浅黄2.5Y7/3	受け口状の口縁。口縁部下は指押さえ。内面なで調整。	
1919 57	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(14.0cm) 高 14.4cm	埋没土中	①細砂・小礫を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい紺7.5YR5/4	やや広口の小型の壺。体部縦方向刷毛目(10本/1cm)整形。横削りの後、上半斜方向磨き。最大横方向磨き。口縁部一部份なで。内面横方向寛なで。	
1965 57	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(11.8cm) 高 7.5cm残	埋没土中	①細砂を含む。白色鉱物粒がやや目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい紺7.5YR6/3	やや口縁部が内湾する小型の壺。頸部縦方向刷毛目(12本/1cm)整形後、横方向なで。下半縦方向磨り。内面なで口縁部内外面横なで。	
1930 57	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(15.0cm) 高 7.1cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③紺7.5YR6/6	厚での蓋形土器。口縁部内面は端部が凹んで内湾する。口縁部一部份、斜方向刷毛目(6本/1cm)整形後、なで調整。口縁部内面横方向刷毛目整形後、横方向なで調整。体部内面なで調整。	
1973 57	土師器 壺	口縁部残存 口(12.8cm) 高 3.0cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 石英・白色鉱物粒が目立つ。②やや軟質。 ③にぶい赤黄2.5YR5/4	外面磨かな刷毛目整形後、縦方向磨り。内面横なで。	
1974	土師器 壺	頸部破片 高 4.2cm残	埋没土中	①微細砂を含むが顕著な粘土である。②硬質。 ③にぶい紺5YR7/3	長く前曲する蓋の頸部。口縁部下位一頸部下に細かい刷毛目整形後、横方向磨き。内面磨かな磨き、なで調整。	
1966 57	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(9.5cm) 高 7.5cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	短い直立する口縁部の壺。体部外面は斜方向刷毛目(13本/1cm)整形。頸部はなでているが、刷毛目の単位は残って見える。内面横方向なで調整。頸部直下には刷毛目整形が残る。口縁部内外面横なで。	
1966	土師器 壺	口縁部破片 口(12.8cm) 高 5.9cm残	埋没土中	①砂粒・細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい紺5YR7/4	やや外方に開く直立口縁部の壺。外面斜方向刷毛目(7本/1cm)整形後、斜方向なで調整。口縁部内面横方向刷毛目整形。体部内面横方向磨り。口縁部内外面横なで。	
1975	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(9.8cm) 高 4.2cm残	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄緑10YR7/2	口縁部外面中段に段を有する小型壺。体部外面縦方向刷毛目(12本/1cm)整形。下半磨り。口縁一部份横なで。体部内面横方向磨り。	
1932 56	土師器 台付壺	体部一底部1/2残 底(7.0cm) 高 4.3cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。赤色鉱物粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい紺7.5YR6/4	内面なで調整。外面縦方向なで調整。	
1926	土師器 壺	口縁部一部份破片 口(9.0cm) 高 28.0cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい紺10YR7/3	球形刷部の蓋形土器。外面なで調整。斜方向刷毛目(7本/1cm)整形。内面斜方向刷毛目整形。	

52号土坑出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図42

番号 PL	器 種	残 存 残 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1924 57	土師器 壺	口縁部下位一部欠損 底 5.6cm 高 23.9cm残	埋没土中	①砂粒・小礫・塵を多く含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR6/8	球形胴部の壺形土師器。小形な平底。外面上半横方向指まで。下半まで調整。口縁部下位内外面横なで。	
1925 57	土師器 壺	口縁部と体部の一部欠損 口 (15.2cm) 底 (5.2cm) 高 24.7cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③明赤耀2.5YR5/8	細くしまった頸部から外湾する。口縁部内面肩部はやや内湾する。体部外面斜方向刷毛目 (6本/1cm) 整形後などで調整。横方向差磨き。内面などで調整。口縁部内面横なで。	
1929 57	土師器 壺	口縁部一頸部残 口 20.0cm 高 7.0cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	短い直立した頸部に段をもって外反する口縁部。外面縦方向差磨き。頸部内面には横方向刷毛目 (6本/1cm) 整形が残る。口縁部内面横。縦方向差磨き。	
1928 57	土師器 壺	口縁部一頸部残 口 22.45cm 高 9.2cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ直立する頸部に段をもって、大きく外反する口縁部がついた壺。頸部中位には櫛歯状工具による刺突文のついた凸帯が回り、口縁部外縁にも刺突文が走る。頸部外面縦方向刷毛目 (13本/1cm) 整形。内面縦方向刷毛目整形。口縁部外面横なで。	
1964 57	土師器 小形壺	口縁部下位一 体部中位1/3残存 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂・塵砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/4	口縁部が大きく外反する壺。肩部形状は不明。体部は球形。外面縦方向差磨き。口縁部内面縦方向差磨き。体部内面下位斜方向刷毛目 (13本/1cm) 整形後。斜方向指まで。	
1972	弥生土器 壺	口縁部一頸部残 口 (14.0cm) 高 5.2cm残	埋没土中	①砂質・夾雑物粒を含む。 ②やや硬い。 ③にぶい橙7.5YR7/4	頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部は横なで、外面は縦方向の器面調整。内面は斜方向の器面調整。	外面頸部付近に塗彩。
1931 57	土師器 壺	口縁部4/5残存 口 16.7cm 高 3.8cm残	埋没土中	①微細砂を含む。精整された胎土。 ②硬質。 ③淡黄2.5YR/3	幅広い複合口縁を付した短い外反する口縁部。頸部内面縦方向刷毛目 (6本/1cm) 整形。口縁部外面は複合部をおさえた後、横なで、口縁部内面縦方向差磨き。	
1958	土師器 壺	口縁部破片 口 (12.4cm) 高 3.3cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰緑7.5YR4/2	ハレス窓の口縁部。口縁外面部に幅広い面をつくり、3本の凹線文に斜方向に刺突文がはいった棒状付文をつけている。	
1969	土師器 小形丸底 土器	体部一底部1/2 残 底 (2.5cm) 高 4.3cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	小さなやや上げ底の底部をもつ小形壺。体部は筆毛が著しく、整形はよくわからない。外面は横方向に丁寧に。内面は縦方向差磨き。内面下位は横方向指まで。上位は横方向差磨き。	
1951	土師器 罎	口縁部破片 口 (16.5cm) 高 5.5cm残	埋没土中	①細砂・砂粒が残る。 ②やや軟質。 ③明褐色7.5YR7/2	口縁部の大きく開く罎形土器。整形は良く、全面がなで調整されているが複合面が残る。	
1948	土師器 罎	口縁部破片 口 (12.2cm) 高 6.6cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。器面はザラザラしている。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	大きく外反する口縁部。口縁部下位は縦方向差磨き。口縁部横方向指などで調整。内面など。上位は縦方向差磨き。下位は縦方向差磨き。	
1950	土師器 罎	口縁部下位一 体部破片 高 6.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部一口縁部外面縦方向刷毛目 (10本/1cm) 後。横方向差磨き。内面縦方向指まで。	
1949	土師器 罎	上位破片 高 3.8cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面丁寧に調整。	
1971	土師器 鉢	口縁一底部破片 口 (16.0cm) 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい赤耀5YR5/4	口縁部が大きく開く鉢形土器。口縁部は粘土帯が外側に重ねられている。	
1970 58	土師器 鉢	口縁一底部1/3 残 口 (16.7cm) 高 5.4cm	埋没土中	①砂粒を多量に含む。ザラザラしている。長石雲母が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい黄7.5YR5/3	丸底の浅い鉢。口縁部は外方へ開く。外面は横方向差磨き。内面口縁部差磨き。肩部横なで。体部縦方向差磨き後。横方向指まで調整。	

52号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図42・43

番号 No.	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1947	土師器 鉢	体部1/4残存 高 4.1cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	丸い体部に外反する口縁部がつく。内面などで調整の後縦方向跑磨き。外面直削り後、手で調整。	
1918 58	土師器 高杯	口縁部破片割一部欠損 口 (25.5cm) 高 17.1cm残	埋没土中	①細砂を少量含むが、 精整された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	杯部下位に接をもら、大きな杯部をのせた高杯。脚部は裾部がやや外反する。2段3孔の杯部は内外面跑磨き。脚部は外面縦方向跑磨き。内面直削り。指などで調整。裾部は横削り。	
1946	土師器 高杯	杯部1/2残存 口 (12.4cm) 高 3.7cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	筒形の杯部。口縁部内面端部に面とり。内外面とも丁寧な調整。	
1915	土師器 器台	杯部1/2残存 口 (7.5cm) 高 4.9cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	丸い筒形の杯部。内外面丁寧な調整。外面には跑磨きが見えるが、磨耗により判然としない。	
1916 58	土師器 高杯	口縁部～台部中位4/5残存 口 (20.8cm) 高 9.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む、 ザラザラしている。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	杯部下位に接のある高杯。口縁部はやや内湾する。内外面丁寧な調整の後、縦方向跑磨き。脚部内面横方向跑磨り。	
1917 58	土師器 高杯	体部～脚部残存 高 7.4cm残	埋没土中	①細粒を多く含む。雲母片、赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部下位に緩やかな接をもつ高杯。脚部はラッパ形に開く。杯部内面縦方向跑磨き。外面縦方向跑磨き。脚部外面跑磨き。内面縦方向直削り。	
1913 58	土師器 高杯	杯部。脚部破片 高 7.6cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR5/3	杯部内面縦方向跑磨き。外面横方向直削り後、縦方向跑磨き。脚部外面縦方向跑磨き。内面縦方向直削り。	
1901 58	土師器 高杯	受部上位、脚部一部欠損 底 13.3cm 高 8.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ザラザラしている。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部下位緩やかな接をもつ高杯。脚部裾部は小さく開く。杯部内外面、脚部外面縦方向跑磨き。外面直削り。脚部内面横方向刷毛目(5本/1cm)整形後、横方向直削り。	
1912 58	土師器 高杯	脚部残存 底 (18.8cm) 高 8.4cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y8/1	上位が細く、裾部で大きく開く高杯。外面縦方向跑磨き。内面横方向刷毛目(11本/1cm)整形。	
1911 58	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 16.6cm 高 5.5cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 雲母片が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5Y5/3	大きく裾部が開く高杯。杯部との接合部は小孔が貫通しているが、全対称形状からすれば、高杯と考えられる。脚部外面縦方向跑磨き。裾部横削り。内面上位直削り。中位刷毛目(5本/1cm)整形。下位横削り。	
1903 58	土師器 器台	脚部残存 底 (13.3cm) 高 6.1cm残	埋没土中	①細砂を含むが精整された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄褐10YR7/2	裾部がやや開く器台形土器。脚部外面縦方向跑磨き。内面上半直削り。下半横方向直削り。	
1906 58	土師器 高杯	脚部上位残存 高 6.3cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	接合部がすばまり、裾部が大きく開く脚部をもつ。脚部外面縦方向跑磨き。裾部などで調整。内面上位縦方向直削り。中位斜方向刷毛目(8本/1cm)整形。裾部などで調整。同じ分製で2段3孔を穿つ。	
1902 58	土師器 高杯	脚部1/2残存 高 7.2cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	接合部が細くくびれる高杯。裾部は大きく開く。脚部外面縦方向跑磨き。上端・下端横削り。内面上位縦方向直削り。中位斜方向刷毛目(14本/1cm)整形。下位横削り。	
1904 58	土師器 高杯	脚部残存 底 12.3cm 高 7.0cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/3	接合部が細くくびれる高杯。外面縦方向跑磨き。内面上半横方向直削り。下半横方向直削り。中位よりやや上へ一段3孔を穿つ。	
1914	土師器 高杯	杯底部～脚上平残存 高 4.2cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面縦方向跑磨き。杯部内面直削り。脚部内面縦方向直削り。	
1907 59	土師器 器台	脚部下平1/2欠口 9.0cm 底 (13.9cm) 高 9.15cm	埋没土中	①砂粒・細砂を多く含む。長石・雲母が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	下半に緩やかな接をもつ器受指。脚部は外反する。脚部には上部2孔。下部2孔を穿つ。器受部内外面などで調整。脚部内面横方向直削り。脚部外面縦方向直削り。	

52号土坑出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図42・43

番号 凡	器種	残 法 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1508 59	土師器 器台	脚部1/2欠損 口 8.7cm 底 (12.6cm) 高 9.2cm	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい縹SYR6/4	脚部外面縦方向磨き。裾部横なで。内面横方向磨なで。器受部内外面なで。	
1899 59	土師器 器台	完形 口 7.6cm 底 10.7cm 高 8.4cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい縹SYR7/4	口縁部が大きく外反する小さな器受部。脚部はラッパ状に開く。脚部に1段4孔を穿つ。1孔は小孔である。器受部内外面なで調整。外面上平縦方向磨き。下半横方向磨き。脚部内面横方向磨なで。	
1900 59	土師器 器台	脚部一部欠損 口 7.6cm 底 10.3cm 高 9.1cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③縹SYR6/6	丸みのある小さな器受部をもつ。脚部はラッパ状に開く。脚部には一段3孔を穿つ。器受部内外面なで調整。脚部内面なで調整。脚部外面縦、斜方向磨き。	
1909 59	土師器 器台	脚部、杯部一部欠損 口 (8.4cm) 底 (12.6cm) 高 8.8cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③縹2.5YR6/8	器受部中に轂をもち、脚部部は大きく開く脚部のついた器台形土師。器部内外面、脚部外面磨き。脚部内面横方向磨なで。	器受部内外面 脚部外面赤色 塗彩。
1898	土師器 小形器台	脚部1/2残存 底 (11.6cm) 高 7.1cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	上半はやや膨み、下半が大きく開く脚部。外面後縦方向なで調整。接合部なで調整。内面上平横方向磨り。下半横なで。	
1910	土師器 器台	脚部1/3残存 底 (12.5cm) 高 6.2cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR 5/4	瓶部がやや屈曲して開く脚部。杯部は不明。思曲部近くに一段3孔を穿つ。脚部外面縦方向磨き。内面なで調整。指頭痕残る。	
1905	土師器 器台	杯部残存 口 (9.4cm) 高 3.5cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい縹7.5YR7/3	やや内湾して開く器受部をもつ器台。内外面縦方向磨き。接合部外面なで調整。	

土坑出土骸骨一覽表

番号	出土遺構	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
322	81号土坑	ニホンシカ	角片			♂				
323	76号土坑	ニホンシカ	角片			♂			○	第一分岐以上

3. 墓城の出土遺物

1号墓城出土遺物観察表〈金属器〉 図53

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M41 60	金属器 南唐銭	径 2.4cm 重 1.9g	東縁 底面上4cm	完形。(割れている)。錆が進行している。	唐国通宝 (985年)
M40 60	金属器 金 銭	径 2.3cm 重 1.5g	中央部骨上 底面上4cm	一部欠損。割れている。錆が進行している。	正隆元宝 (1158年)

2号墓城出土遺物観察表〈金属器〉 図54

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M34 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.6g	中央部骨上 底面上2cm M34～36は重 なり付着して いた。	完形。良好な残存。	景徳元宝 (1044年)
M35 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 2.8g		完形。良好な残存。	熙寧元宝 (1068年)
M36 60	金属器 北宋銭	径 2.3cm 重 2.7g		完形。良好な残存。	熙寧元宝 (1068年)
M37 60	金属器 北宋銭	径 2.45cm 重 2.6g	中央部骨上 底面上2cm M37～39は重 なり付着して いた。	完形。良好な残存。M-38裏面が表面に錆付いて出土。	熙寧元宝 (1068年)
M38 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.49g		一部欠損。裏面は錆が進行している。M-37表面が裏面に錆付いて出土。	政和通宝 (1111年)
M39 60	金属器 明 銭	径 2.55cm 重 2.58g		完形。(割れ)。錆が進行している。	永楽通宝 (1408年)

8号墓城出土遺物観察表〈金属器〉 図50

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M23 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 3.21g	埋没土中	完形。裏面は変れている。	熙寧元宝 (1068年)
M24 60	金属器 明 銭	径 2.5cm 重 2.05g	埋没土中	完形。良好な残存である。裏面は錆が進行している。	永楽通宝 (1408年)
M25 60	金属器 明 銭	径 2.4cm 重 2.78g	埋没土中	完形。良好な残存である。	永楽通宝 (1408年)
M26 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 3.28g	埋没土中	完形。表面は錆がひどく文字が判読しにくい。	熙寧元宝 (1068年)
M27 60	金属器 北宋銭	径 2.3cm 重 2.87g	埋没土中	完形。裏面は錆が進行している。	皇宋通宝 (1039年)
M28 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 3.21g	埋没土中	完形。良好な残存である。	元祐通宝 (1088年)
M29 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.85g	埋没土中	完形。錆が進行している。	元豊通宝 (1068年)

8号基壇出土遺物観察表 (金属器) B59

番号 FL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M30 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 2.8g	埋没土中	完形。良好な残存である。裏面は錆がひどく荒れている。	皇宋通宝 (1039年)
M31 61	金属器 北宋銭	径 2.35cm 重 2.6g	埋没土中	一部欠損。錆が進行している。	聖宋口宝 (1101年)
M32 67	金属器 明 銭	径 2.4cm 重 3.52g	埋没土中	良好な残存である。	永樂通宝 (1408年)
M33 61	金属器 北宋銭	径 2.45cm 重 4.06g	埋没土中	良好な残存。	天聖元宝 (1023年)

6号基壇出土遺物観察表 (弥生土器) B61

番号 FL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
2052	弥生土器 甕	口縁一部 1/5残存 口 (7.6cm) 高 6.3cm残	南壁部 底面直上	①白色磁物粒・黒色 磁物粒・夾雑磁 物粒・小塵を含む。 ②良好。 ③にぶい黄緑 10YR6/3	胴部は僅かに丸みをもつ。 頸部はややくびれ。口縁部は外反す る。内外面とも横なで。	胴部には7余1単位の2連止 右回り縞状文を施文。直下に 1単位の縞縞波状文。	
2054	弥生土器 ミニチュ ア	体部1/3残存 胴 (3.0cm) 高 2.3cm残	中央部 底面直上	①白色磁物粒・夾 雑磁物粒・石英砂 を含む。 ②良好 ③にぶい黄緑 10YR7/2	薄く、丸みをもつ。		
2053 61	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色磁物粒・黒 色磁物粒・夾雑磁 物粒を含む。 ②良好 ③にぶい濁7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。内面は鈎面 荒れ。	胴部は縞縞波状文。	

6号基壇出土遺物観察表 (石器) B61

番号 FL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S737 61	有蓋石皿	2.6・9.05 0.5	チャート 0.99	埋没土中	有蓋で基部は挿入せず基部に脱く。平面形は魚形を呈する。 先端部を欠損している。	

6号基壇出土遺物観察表 (ガラス器) B62

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔径mm	重量g	鏡体観形(実体顕微鏡8-40倍)
G54	完形	シアン	丸玉状小玉	3.9	3.3	円形	1.3	0.08	C
G55	小破片	ナイルブルー	小玉	—	1.9	円形?	—	0.00+*	C
G56	完形	シアン	管玉状小玉	4.55	4.0	円形	2.1	0.10	C
G57	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.35	2.2	円形	1.35	0.06	C
G58	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.85	2.4	円形	1.4	0.05	C
G59	完形	ターコイズブルー	玉状小玉	3.9	3.0	円形	1.3	0.06	C
G60	完形	シアン	管玉状小玉	4.75	3.9	楕円形	1.9	0.12	C
G61	一部欠損	シアン	管玉状小玉	4.3	3.5	楕円形	1.7	0.07	C
G62	完形	シアン	管玉状小玉	4.1	3.3	円形	1.8	0.07	C
G63	割れ	ビーコックブルー	管玉状小玉	4.3	3.1	円形?	1.7	0.03+*	C
G64	完形2分割	ビーコックブルー	丸玉状小玉	3.4	2.4	円形?	1.9	0.05	C
G65	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.65	2.8	楕円形	1.85	0.09	C
G66	完形	ビーコックブルー	丸玉状小玉	4.7	3.1	円形	1.9	0.07	C
G67	完形	シアン	丸玉状小玉	4.15	2.6	円形	1.35	0.03	C

3. 墓儀の出土遺物

6号墓儀出土遺物観察表《ガラス器》 図62

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8-40倍)
G68	完形ひび有	シアン	白玉状小玉	4.6	2.4	歪円形	1.75	0.03	C
G69	完形	シアン	丸玉状小玉	4.45	2.9	円形	1.35	0.06	C
G70	完形	シアン	丸玉形小玉	4.35	2.65	歪円形	1.25	0.05	C
G71	完形	ビーコックブルー	白玉状小玉	4.1	2.5	円形	0.95	0.04	C
G72	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.3	1.7	円形	0.8	0.04	C
G73	完形	シアン	白玉状小玉	4.1	3.0	円形	1.3	0.06	C
G74	完形	シアン	白玉状小玉	4.8	3.3	円形	1.6	0.09	C
G75	完形	シアン	白玉	6.0	3.75	楕円形	1.6	0.15	C
G76	完形	ブルシアンブルー	丸玉	6.9	5.2	歪円形	2.3	0.34	A
G77	完形・接合	ウルトラマリン	管玉状丸玉	5.75	6.0	歪円形	2.2	0.24	A
G78	完形	群青色	丸玉	5.7	3.9	円形	1.9	0.16	A
G79	完形	コバルトブルー	管玉状丸玉	4.8	3.9	楕円形	1.4	0.12	A
G80	完形	群青色	管玉状丸玉	5.55	4.8	楕円形	1.3	0.21	A
G81	完形ひび有	ターコイズブルー	管玉状小玉	4.15	3.4	楕円形	1.4	0.06	B
G82	完形	群青色	丸玉	5.4	4.85	円形	1.7	0.18	A
G83	完形	群青色	管玉状丸玉	4.25	4.75	円形	1.5	0.11	A
G84	完形3分割	コバルトブルー	管玉状丸玉	5.4	5.3	円形	1.3	0.19	A
G85	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	7.3	6.65	楕円形	2.5	0.41	A
G86	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.0	2.4	歪円形	1.1	0.03	B
G87	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.7	2.0	円形	1.4	0.04	B
G88	完形	シアン	丸玉状小玉	5.1	3.15	円形	2.0	0.09	B

9号墓儀出土遺物観察表《ガラス器》 図63

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8-40倍)
G3	完形	ウルトラマリン (7.5PB3.5/12)	丸玉	6.5	5.0	円形	2.15	0.21	A
G4	完形	ブルシアンブルー (5PB3.5/9)	丸玉	7.0	5.25	円形	1.7	0.29	A
G5	完形	群青色 (7.5PB3.5/11)	管玉状丸玉	5.4	5.8	円形	1.0	0.26	A
G6	完形	ネービーブルー (6PB2.5/4)	管玉状丸玉	4.6	5.7	円形	1.35	0.18	A
G7	完形2分割	ウルトラマリン	不正丸玉	5.5	3.6	歪円形	2.3	0.10	A
G8	完形	コバルトブルー (3PB4/10)	不正丸玉	4.7	3.7	円形	1.2	0.11	A
G9	完形2分割	ネービーブルー	不正丸玉	8.2	5.95	円形	2.2	0.45	A
G10	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	8.2	6.1	楕円形	2.0	0.48	A
G11	完形	群青色	丸玉	6.2	5.9	円形	2.1	0.26	A
G12	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	6.25	6.4	円形	1.55	0.31	A
G13	完形	群青色	丸玉	6.2	5.6	円形	1.9	0.27	A
G14	完形	ブルシアンブルー	丸玉	8.0	5.15	楕円形	3.0	0.42	A
G15	完形	ウルトラマリン	丸玉	6.5	5.2	円形	2.4	0.22	A
G16	完形	ネービーブルー	丸玉	6.7	5.6	円形	2.6	0.30	A
G17	完形	群青色	丸玉	5.1	4.8	円形	1.35	0.16	A
G18	完形	ブルシアンブルー	白玉	7.2	3.65	円形	1.1	0.23	A
G19	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	4.0	4.55	円形	0.8	0.09	A
G20	完形	群青色	丸玉	4.8	4.15	円形	1.55	0.13	A
G21	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	6.55	4.55	楕円形	3.55	0.23	A
G22	完形	ブルシアンブルー	丸玉	6.45	5.25	楕円形	1.4	0.21	A
G23	完形	シアン	不正丸玉	5.7	3.6	円形	1.8	0.12	C
G24	完形	ウルトラマリン	不正丸玉	5.4	4.4	円形	1.8	0.13	A
G25	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	5.7	5.35	円形	2.1	0.17	A
G26	完形	ブルシアンブルー	丸玉	5.9	5.1	円形	2.2	0.18	A
G27	完形	ウルトラマリン	丸玉	5.1	4.7	円形	1.5	0.14	A
G28	破損2分割	ブルシアンブルー	丸玉	7.5	5.1	円形?	2.6	0.25+*	A
G29	完形	ネービーブルー	管玉状丸玉	5.3	4.75	円形	2.1	0.18	A
G30	完形	群青色	管玉状丸玉	6.25	5.5	円形	2.35	0.22	A

7号墓出土土物観察表(弥生土器) 図66

番号 FL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2065 61	弥生土器 壺	口縁部～底部 残存一部欠損 口 (26.6cm) 底 (11.5cm) 高 68.5cm	中央部 底面直上	①白色灰物粒・夾雑鉱物粒・雲母・小礫・輝石を含む。 ②良好。 ③によい焼7.5YR6/3	胴部は大きく張る。頸部は大きくくびれる。口縁部は大きく外反する。内外面とも口縁部は横なでであり、外面は横方向器面調整。内面は横方向器面調整。	胴部中位から上位にかけて横波状文。頸部は12条1単位の3連止線状文が右回りに施文される。連続して下位には縦線状文1段、横線文1条下に縦線文が施文され、文様帯部分は未整形である。	肩部塗彩赤10R4/8
2067 61	弥生土器 壺	体部上位～底部3/4残存 底 7.6cm 高 21.0cm残	2058内部	①白色灰物粒・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。外面胴部中位は斜方向器面調整。下位は縦方向器面調整。胴部下位には炭素付着。内面は横なで。	胴部中位から上位にかけて横波状文。	
2066 61	弥生土器 壺	ほぼ完形 口 17.8cm 底 8.9cm 高 35.9cm	中央部 2055の上層に 破片が集中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②やや鈍い。 ③によい黄橙10YR7/4	胴部は大きく張る。最大幅はここにあり、頸部に向かいくびれる。口縁部は大きく外反する。内外面とも器面調整している。口縁部内外面とも塗彩。外面胴部上半は塗彩が濃い。	頸部から肩部にかけて上位より下位に右回り縦線文、横波状文、棒状工具による横線文と縦線文が施文される。	塗彩。

4. 周溝墓の出土遺物

2号周溝墓出土遺物観察表（土師器・須恵器） 図72

番号 PL	器種	残存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1822	土師器 埴	胴部及び底部から 体部下部破片	南岡溝 底面上3cm	①細砂を含む。白色紅 物粒子が目立つ。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	やや大形の埴形土器。体部下位、外面横焼けずり。肩 部外面横焼けずり後、縦焼け。内面横方向指まで。	
1817 61	土師器 器台	口縁部～胴部 1/2残 口(17.4cm) 高 12.8cm	周溝北東溝 埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR5/3	器受部下端に突出部のある器台。器受部には一段干孔 があり、胴部は一段干孔が回るものと推定される。器 受部は、丁寧に作られた後、横方向に焼ける。胴部外 面は刷毛などで後縦方向に焼ける。内面横方向に焼ける。	
1818	土師器 壺	口縁部～体部上 位破片 口(19.3cm) 高 8.5cm残	周溝北東溝 埋没土中	①砂粒を多量に含む。 白色粒子・赤色粒子が 目立つ。 ②軟質。 ③黒褐7.5YR3/1	丸い胴部の壺形土器。体部外面斜刷毛目。口縁部横な で。胴部から肩部焼けずり。頸部指まで。内面横方向 に焼ける。部分的に横方向まで。	

2号周溝墓出土遺物観察表（弥生土器） 図72

番号 PL	器種	残存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1816	弥生土器 壺	体部下平部残 高 11.5cm残	北岡溝 底面上15cm	①白色紅物粒・黒色 紅物粒・夾雑紅 物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は大きく張る。外面は縦方 向の器面調整。内面は斜方向器 面調整。		
1819	弥生土器 壺	底部破片 底 4.6cm	南岡溝東溝 埋没土中	①白色紅物粒・黒色 紅物粒・夾雑紅 物粒・石英砂を含 む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部に向かい立ち上がる。 外面底部付近は縦方向の器面調 整。内面は横方向の器面調整。		
1820	弥生土器 壺	胴部破片 高 6.9cm残	南岡溝 埋没土中	①白色紅物粒・夾 雑紅物粒・雲母・ 小礫を含む。 ②良好。 ③浅黄橙7.5YR 8/6	胴部は大きくくびれる。外面は 縦方向の器面調整。内面は横方 向の器面調整。	1単位12条の2連止右回り縷 状文施文後、帯橋波状文が右 回り縷状文の一部を切って下 位に施文。	
1821 61	弥生土器 壺	体部破片	北岡溝外側斜 面基部 底面上10.0cm	①白色紅物粒・夾 雑紅物粒・小礫を 含む。 ②やや硬い。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	胴部は丸みをもつ。	胴部上半に帯橋波状文。	

2号周溝墓出土遺物観察表（石器） 図72

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S659 61	凹み石	15.3・17.4 12.2	粗粒安山岩 3337	埋没土中	一端に磨打による斜縁を残す。	
S658 61	磨石	15.3・8.85 4.6	びん岩 830	北岡溝方台部 斜面直上	上面と側面にくぼみ痕が認められる。	

3号周溝墓出土遺物観察表〈弥生土器〉 図76

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1826	弥生土器 壺	口縁部1/3残 口 25.3cm 高 6.2cm残	周溝南東隅 底面直上	①砂質である。僅かに小礫を含む。 ②良好。 ③赤褐色5YR5/6	口縁部は大きく外反する。口縁端部は折り返し。 内外面とも器面寛れ。	折り返し部と口縁部には縦方向の起み目がある。	
2269 62	弥生土器 鉢	口縁一部欠損 口 (11.2cm) 底 4.0cm 高 5.1cm	2号主体部 床面上12.5cm	①白色磁物粒・夾雑物物粒を含む。 ②良好。 ③内面赤10R5/8 外面橙2.5YR6/6	底部から口縁部に向け直線上に立ち上がる。口縁部は内外面とも横なで。外面は縦方向の起み目。外面底部を除き彫彫。		
1827	弥生土器 鉢?	底部残存 底 4.6cm 高 3.0cm残	周溝南西隅 埋没土中	①白色磁物粒・石英粒・小礫を含む。 ②やや横い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	底部は僅かにあげ底状を呈す。外面は縦方向の器面調整。内面は横方向器面調整。内外面とも器面寛れ。		
1869 62	弥生土器 甕	体部破片	周溝南西隅 埋没土中	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑物物粒を含む。①横い。③灰緑5YR6/2	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面寛れ。	8条1單位の聯状工具により櫛歯状文が充填。	
1870 62	弥生土器 甕	肩部破片	周溝北東隅 埋没土中	①白色磁物粒・夾雑物物粒・雲母を含む。②やや横い。 ③にぶい橙7.5YR 6/3	内外面とも器面寛れ。内面は縦方向に沈線が入る。	外面には梵状工具により櫛歯文の内に斜向沈線文。	

3号周溝墓出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図76

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1825	土師器 甕	口縁部1/4残存 口 (8.0cm)	周溝南西隅 埋没土中	①磁砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③純灰10YR5/1	薄手の口縁をもつ甕。口縁部外面横縞目毛(5本/1cm)整形後、下位から頸部縦掛けする。内面横方向縞目毛整形後横なで。		
1824 62	土師器 小形器台	口縁部・脚端部 欠損 底 18.8cm 高 8.3cm残	南西隅溝 埋没土中	①小礫・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	やや踵部が内湾する脚部をもつ小形器台。夾雑物が多いので外面は縦方向に磨いているが、あまり平滑になっていない。胴部内面横方向横なで。		
1823 62	土師器 高杯	口縁部一脚部 1/2残存 口 (14.4cm) 底 (9.8cm) 高 11.5cm残	南西隅溝 埋没土中	①砂粒を多く含む。赤色粒子が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	筒形の脚に、外方へ開く裾部がつく。杯部は幾のない丸形である。杯部内外面横なで。脚部外面縦方向起り。内面面に強い指なで。胴部内面横なで。		

4号溝墓出土遺物観察表〈弥生土器〉 図78

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1831 1832 62	弥生土器 壺	口縁部欠損 体部も広範囲欠損 胴 36.7cm 底 12.0cm 高 48.8cm残	東周溝 床面上7cm	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑物物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/3	胴部のはは中央に最大幅をもち、胴部上半は丸みをもつ。内外面とも器面寛れ。	胴部から胴部上位にかけて上から2連止櫛状文、櫛歯状文を2段横文下に沈線による横縞文を施文。これに縦縞文をふらさげ、この接点の一部にボタン状貼付文がある。沈線により三角文ができる。この中には円形刺突文が充填。	
1828 62	弥生土器 壺	口縁部一体部 下位3/4残存 口 (12.7cm) 高 30.0cm残	南周溝東端 床面上15cm	①砂粒であり、夾雑物物粒・小礫を含む。 ②やや横い。 ③浅黄橙10YR8/3	胴部の中央やや上位に最大径があり、丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部は外反する。胴部下半部は横方向器面調整。肩部は縦、頸部は斜方向器面調整。口縁部は内外面とも横なで。全体に器面寛れ。		

4号周溝墓出土遺物観察表(弥生土器)

図78

番号 FL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1829 62	弥生土器 壺	体部残存 高 35.2cm残	方台部南部 周溝壁底面上 6cm	①白色灰物粒・夾雑灰物粒・砂粒を含む。 ②やや縦い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は大きく張る。内外面とも器面寛れ。胴部中央付近は横方向器面調整。輪轡が僅かに残る。		1830と同一個体の可能性あり。
1830	弥生土器 壺	底部破片 底 (10.6cm) 高 16.7cm残	方台部南部 埋没土中	①白色灰物粒・夾雑灰物粒・砂粒を含む。 ②やや縦い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	平底。大きく張る胴部がつくと推定される。		1829と同一個体の可能性。
1871 62	弥生土器 壺	口縁部破片	南周溝 埋没土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・礫石を含む。 ②良好。 ③灰白2.5YR8/1	口縁部は大きく外反する。口縁部は僅かに立つ。口縁部付近は横なで。胴部付近は縦方向器面調整。		

4号周溝墓出土遺物観察表(石器)

図78

番号 FL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S662 62	敲石	11.8・8.0 3.65	ひん岩 445	埋没土中	一端に僅かに磨打痕を残す。 表面が焼熟している。	

5号周溝墓出土遺物観察表(弥生土器)

図85

番号 FL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1841 62	弥生土器 鉢	ほぼ完成 口 10.3cm 底 4.9cm 高 5.8cm	2号主体部 底面上30cm	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒を含む。 ②縦い。 ③にぶい橙10YR7/3	底部から口縁部に向け直線状に開く。内外面とも僅かに調整痕を残しているが、内外面とも器面寛れ。		
1842 63	弥生土器 鉢	口縁一部部下 位破片 口 (21.0cm) 高 9.2cm残	2号主体部 底面上44cm	①砂質であり、黒色灰物粒・白色灰物粒・夾雑灰物粒・小礫を含む。 ②やや縦い。 ③橙7.5YR6/6	内湾しながら立ち上がる。口縁部は内外とも横なで。体部は内外面とも多方向器面調整。		
1843	弥生土器 鉢	口縁一部部破片 口 (13.7cm) 高 4.1cm残	2号主体部 底面上50cm	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・石英砂を含む。 ②やや縦い。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部から口縁部に向け直線状に大きく開く。口縁部付近は内外面とも横なで。外面は僅かであるが縦方向磨き。		
1840 62	弥生土器 小形台付 壺	頸部以下一 部 部中央残 高 10.0cm残	2号主体部 底面上28cm	①白色灰物粒・砂粒を含む。 ②やや縦い。 ③灰橙5YR4/2	頸部と胴部の接合部は大きくくびれる。この付近は内外面とも縦方向磨き。頸部は開きはじめて欠損する。腰部は丸みをもつ。内面は横方向器面調整。	頸部は右回り簾状文。下位に2段の磨輪波状文。	
1838 62	弥生土器 壺	頸部～底部残 底 6.0cm 高 17.2cm残	2号主体部 底面上40cm	①白色灰物粒・夾雑灰物粒・小礫を含む。 ②やや縦い。 ③にぶい黄橙7/4	胴部は丸みをもつ。頸部は僅かにくびれる。口縁部は最大幅をもち、大きく外反する。胴部下位と口縁部は磨き。胴部中央は横方向磨き。内面は横方向器面調整。内外面とも器面寛れ。	頸部は2連止右回り簾状文。胴部上位は磨輪波状文。	体部外面赤色塗彩。

5号周溝墓出土遺物観察表(弥生土器)

B885・86

番号 PL	器種	残存 状態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
1839 62	弥生土器 鉢	口縁部～底部 1/2残存 口 12.2cm 底 5.2cm 高 6.1cm	2号主体部南 側 遺構確認面	①白色磁物粒・夾 雑磁物粒を含む。 ②良好。 ③④にぶい黄橙 10YR6/4	底部から口縁部に向けて直線上 に開く。口縁付近で僅かに内湾 する。外面は縦方向磨き。内面 は横方向器面調整。内外面と も口縁部は横撫であり、器面 は荒れている。外面に僅かに煤 付着。		
1837 62	弥生土器 甕	体部上位～底 部 底 (8.0cm) 高 15.1cm	2号主体部 遺構確認面	①白色磁物粒・夾 雑磁物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③④にぶい黄橙 10YR7/3	胴部は大きく張る。頸部は大き くくびれる。胴部中に隆影。 内面胴部下平部と、頸部から口 縁部方向に隆影。	1単位9条の帯状工具により 2連立右回り帯状文が頸部に あり、胴部上半に4段の帯状 波状文がある。	隆影。 赤10YR4/6
1834 62	弥生土器 甕	体部下位～底 部1/4残 底 13.0cm 高 19.0cm残	主体部 上位	①砂質であり、白 色の小礫・黒色磁 物粒・夾雑磁物粒 を含む。 ②良好。 ③④層7.5YR7/6	底部から体部にかけて直線状、 内外面とも器面荒れ。		土器帽の蓋 に転用され ている。
1833 63	弥生土器 甕	口縁部～頸部 欠損 底 13.4cm 高 48.5cm残	主体部 上位	①白色磁物粒・黒 色磁物粒・夾雑磁 物粒を含む。 ②良好。 ③④にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は丸みをもち、大きく張る。 胴部は内外面とも斜方向器面調 整。	頸部には右回り帯状文があり 多連立である。直下に帯状波 状文が5段、引き続き円形刺 突文を配したボタン状貼付文 が4ヶ所あり、棒状工具によ る鳥足文が1ヶ所に施される。	
1836 62	弥生土器 甕	体部1/3残存 高 30.0cm残	主体部 下位	①白色磁物粒・黒 色磁物粒・夾雑磁 物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③④明層7.5YR5/6	胴部は丸みをもち大きく張る。 外面下位は縦方向の器面調整。 内面は横方向器面調整。		
1835 63	弥生土器 甕	体部上位～底 部残存 底 15.0cm 高 43.5cm残	西周溝 底面上10cm	①白色磁物粒・黒 色磁物粒・夾雑磁 物粒を含む。 ②良好。 ③④にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は中位で大きく張る。胴部 は下半部に比し上半部は丸みを もつ。外面は器面荒れ。内面は 横方向器面調整。	胴部には帯状波状文があり、 帯状波状文下位には円形刺突 文をもつボタン状貼付文があ る。	
1872 62	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 (7.2cm) 高 5.5cm残	東周溝北端 底面上3cm	①白色磁物粒・夾 雑磁物粒・砂粒を 含む。 ②良好。 ③赤10R5/6	脚部は底部に向かい開く。端部 は平坦。外面は縦方向磨き。 内面は斜方向器面調整。		

5号周溝墓出土遺物観察表(石器)

B886

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S667	石鏃未製品	3.75・1.0 0.15	埴貫厚片岩 0.74	埋設土中	形削製片である。	
S668 62	スクレー パー	3.05・6.2 0.9	灰色安山岩 18.37	埋設土中	横長削片素材、打削縁と先端縁に加工痕が認められる。 表面は磨り痕が認められる。	
S666 62	スクレー パー	6.95・6.7 2.5	黒色頁岩 122.72	東周溝 底面上16cm	横長削片素材 先端縁に加工痕が認められる。	
S665 62	砥石	13.0・10.6 4.75	軽安山石 820	北周溝 底面上33cm	一端縁に敲打痕を残す。	

4. 周溝墓の出土遺物

5号周溝墓出土遺物観察表(ガラス) 図87

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	横断面(実体顕微鏡8~40倍)
G31	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.3	2.45	楕円形	1.4	0.02	C
G32	完形	ターコイズブルー	丸玉	3.2	2.85	円形	1.0	0.06	C
G33	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.1	3.0	円形	1.4	0.06	C
G34	完形	ナイルブルー(10BG5.5/5)	白玉状小玉	2.9	1.35	楕円形	1.6	0.03	C
G35	完形	ナイルブルー	白玉状小玉	3.2	1.75	円形	1.0	0.03	C
G36	完形	ナイルブルー	管玉状小玉	3.2	1.75	円形	1.55	0.02	C
G37	完形	シアン	管玉状小玉	3.45	1.96	円形	1.1	0.04	C
G38	完形	新橋色(2.SB6.5/5.5)	白玉状小玉	3.2	1.7	円形	1.35	0.02	C
G39	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	2.75	1.45	菱形	1.3	0.02	C
G40	完形	ナイルブルー	管玉状小玉	3.4	1.85	円形	1.5	0.03	C
G41	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.9	1.3	菱形	1.35	0.03	C
G42	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.2	1.3	円形	1.8	0.03	C
G43	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.3	2.15	円形	1.5	0.04	C
G44	完形	ビークタブルー(10BG4/8.5)	管玉状小玉	3.0	1.8	菱形	1.9	0.03	C
G45	完形	シアン	白玉状小玉	3.3	2.0	円形	1.7	0.03	C
G46	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.15	1.5	円形	1.3	0.02	C
G47	完形	新橋色	白玉状小玉	2.9	1.9	円形	1.3	0.02	C
G48	完形	新橋色	白玉状小玉	3.1	1.5	円形	1.75	0.02	C
G49	完形	ビークタブルー	管玉状小玉	2.8	1.7	円形	1.85	0.02	C
G50	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.6	3.5	円形	1.7	0.04	C
G51	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.4	3.3	円形	1.5	0.05	C
G52	一部欠損	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.3	2.8	円形	1.55	0.04	C
G53	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.5	2.65	円形	1.4	0.05	C

6号周溝墓出土遺物観察表(弥生土器) 図90

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1881 63	弥生土器 甕	口縁部欠損 底 8.5cm 高 34.8cm残	北周溝方台部 斜面直上	①白色紅物粒・黒色紅物粒・夾雑紅物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にふいぬ7.5YR 6/4	胴部は丸みをもち大きく張る。頸部は大きくくびれ、口縁部に向かい外反する。胴部下腹部と頸部から上位にかけては縦方向の器面調整。胴部上半は斜方向器面調整。	胴部には1単位8条の2連止右回り縷状文があり、引き続き数段の横溝状文を施文し、幾丈工具により横縷文で文様帯を区切り、縦縷文を施して内を斜向沈縷文で充填する。縦縷文の下位にボタン状貼付文がある。	
1873 63	弥生土器 甕	体部1/2残存 高 24.2cm残	北周溝方台部 斜面直上	①白色紅物粒・黒色紅物粒・夾雑紅物粒を含む。 ②やや細かい。 ③にふいぬ7.5YR 6/3	胴部は丸みをもち、頸部はくびれる。内外面とも器面荒れ。内外面の一部に調整痕が残る。	1単位8条の縷状工具による右回り縷状文を頸部に施文後、胴部には4~5段の横溝状文がある。	
1879 64	弥生土器 甕	体部2/3残存 高 28.5cm残	西周溝南端 底面上10cm	①白色紅物粒・黒色紅物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にふいぬ5YR 7/3	胴部は丸みをもち大きく張る。外面胴部中位と内面は横方向器面調整。外面胴部下位は縦方向器面調整。		
1880 63	弥生土器 甕	胴部一体部 1/3残存 高 25.9cm残	北周溝東端 底面上7cm	①砂質であり、夾雑紅物粒・石英砂・雲母を含む。 ②良好。 ③にふいぬ5YR 7/4	胴部は丸みをもち、頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。外面胴部上半は縦方向磨き。	胴部には1単位8条の縷状工具により横縷文が5単位施文された後、縦方向に縦縷文によりJ字文にしてある。(9区画)	

6号岡清墓出土遺物観察表(弥生土器) 図90-91

番号 凡	器種	残 状	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1883	弥生土器 壺	頸部破片		南畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・小礫を含む。 ②やや硬い。 ③靑7.5YR7/6	頸部は大きくくびれ、口縁部・胴部は大きく開きはじめる。内外面は横方向器面調整。外面磨面荒れ。		
1897	弥生土器 壺	胴部一休部 1/2残存 高 12.8cm残		南畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。内外面とも横方向器面調整。内面の一部に指おさえ。	胴部には右回りの等間隔止線状文、肩部には4段～5段の横溝状文、文様下部にボタム状付文。	
1875 63	弥生土器 壺	口縁一休部 2/3残存 口 17.7cm 高 13.2cm残		北畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・夾雑灰物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい靑7.5YR6/4	胴部上位は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は外反する。内面は横方向器面調整。	胴部は1単位9条の2連上右回り兼状文。胴部～口縁部までと、胴部上平には4～5段づつの横溝状文が入る。	
1878 64	弥生土器 壺	口縁～底部 1/2残存 口 13.3cm 底 9.0cm 高 29.5cm		東畑溝北端 斜面土13cm	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・小礫を含む。 ②やや硬い。 ③灰白10YR7/1	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。内外面とも口縁部は横なで。胴部は縦、斜方向器面調整。		
1877 64	弥生土器 壺	口縁～底部 1/2残存 口 19.5cm 底 8.7cm 高 30.7cm		北畑溝 底面土7cm	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい靑7.5YR7/4	胴部は丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反する。内外面とも器面荒れしているが、口縁部付近は横なで。胴部は外面縦方向の器面調整。内面は斜方向器面調整。	胴部は右回りの等間隔兼状文の下位に2段の横溝状文をもつ。	
1874 64	弥生土器 壺	口縁～底部下 位2/3残存 口 11.2cm 高 14.6cm		北畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒を含む。 ②やや硬い。①にぶい赤靑5YR4/4	胴部は僅かに丸みをもち大きく張る。頸部はくびれる。口縁部はやや外反する。	1単位9条の兼状工具により右回り兼状文施文後、口縁部～胴部と胴部上平に横溝状文を施文する。	
1890	弥生土器 壺	頸部破片 高 4.4cm残		西畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒・砂粒土を含む。 ②硬い。 ③浅黄靑7.5YR8/3	肩部は大きく張る。頸部は大きくくびれ、口縁部に向かい立ち上がる。内外面とも器面荒れ。	胴部と肩部とは1単位9条の左回りの等間隔止線状文、この間に横溝状文が施文される。	1894と同一個体と考えられる。
1892 64	弥生土器	口縁～底部破 片		西畑溝 埋設土中	①砂質であり、白色灰物粒・石英砂・小礫を含む。 ②良好。 ③赤灰2.5YR4/1	口縁部は大きく外反する。胴部は横方向器面調整。	口唇部は横文。1単位6条の細い兼状工具により口縁部上位は3段の横溝状文、下位には2段の横線文と、2単位合わせた横線文がこの下位に入る。また縦方向に2単位分の横溝文が入る。	
1876 64	弥生土器 片口土器	口縁片口部欠 損 口 10.0cm 底 5.0cm 高 7.4cm残		東畑溝外縁地 縁部土	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒を含む。 ②硬い。 ③靑5YR6/6	底部から外方に向け立ち上がり、上平に至り丸みをもち、大きく張る。口縁部は内湾する。片口部は底部から徐々に開く。器面は内外面とも横方向器面調整が主であり、外面下部は斜方向器面調整。内外面とも器面荒れしているが、造形が残る。		造形。
1886 64	弥生土器 高杯	杯部下位～脚 部 底 7.3cm 高 8.6cm残		北畑溝 埋設土中	①白色灰物粒・黒色灰物粒・夾雑灰物粒を含む。 ②やや硬い。 ③明靑7.5YR5/6	脚部は直線上に踵部まで開き、踵部は平坦。胴部は縦方向磨面する。杯部外面には造形が残る。		造形。

4. 周溝墓の出土遺物

6号周溝墓出土遺物観察表(弥生土器)

図90・91

番号 Pz	器種	残存 状態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1882 64	弥生土器 壺	頸部破片	方台部南西部	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②硬い。 ③明褐色7.5YR 7/2	頸部はくびれる。外面は斜方向器面調整。	頸部には右回り縞状文、直上を棒状工具による沈線文を入れた後、波状沈線文を入れる。	
1884 64	弥生土器 壺	頸部一部位上 位破片	周溝 埋没土中	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい褐色7.5YR 5/3	胴部上半は丸みをもつ。	頸部は左回りの縞状文。胴部上半は縞文。	
1885 64	弥生土器 壺	頸部破片	北西方台部 盛土	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑磁物粒・小礫を含む。 ②硬い。 ③灰黄褐色10YR5/2	頸部はゆるやかにくびれる。	頸部には縞状文と思われる文様がある。肩部には鐮状工具により縦溝文内に平行沈線文を充填させる。	
1887 64	弥生土器 壺	口縁・頸部上 位破片	周溝 埋没土中	①白色磁物粒・夾雑磁物粒・礫石を含む。 ②やや硬い。 ③灰白10YR7/1	頸部は大きくくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部付近は立ち上がる。外面は斜・内面は横方向器面調整。	口縁部端部付近に櫛波状文。	
1889 64	弥生土器 壺	頸部破片	北周溝 埋没土中	①砂質であり、夾雑磁物粒や小礫を含む。 ②硬い。 ③灰白2.5YR8/2	頸部はくびれる。	棒状工具による横縞文の上と下で、鐮状工具により羽状文。	
1891 64	弥生土器 小形壺	口縁部破片	西周溝 埋没土中	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②硬い。 ③にぶい褐色7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。	頸部には1単位6条の櫛状工具による右回りの等間隔止縞状文。	
1893 64	弥生土器 壺	体部破片	東周溝 埋没土中	①黒色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②硬い。 ③灰白2.5YR8/2	胴部の上位はわずかに丸みをもつ。内外面とも器面寛れ。	上位より櫛波状文を2段。下位の棒状工具による横縞文がこれを切り、下位に鐮状工具による斜向沈線文が入る。	
1894 64	弥生土器 壺	頸部一部位破 片	東周溝北隅 埋没土中	①白色磁物粒・黒色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②硬い。 ③灰白7.5YR8/2	胴部は大きく張る。	頸部と胴部には僅かに櫛波状文。左回りの等間隔止縞状文。下位に接して鐮状工具により縦溝文の中に斜格子目文を充填する。	
1895 64	弥生土器 壺	口縁部破片	東周溝北隅 埋没土中	①白色磁物粒・夾雑磁物粒を含む。 ②硬い。 ③灰白2.5YR8/2	口縁部は受け口状である。内外面とも器面寛れ。	口縁部は中に沈線文が横行し、この上下を細い斜向沈線文が入る。	
1896 64	弥生土器 壺	裾部破片	東周溝 埋没土中	①砂質であり、白色磁物粒・夾雑磁物粒・小礫を含む。 ②硬い。 ③にぶい褐色2.5YR 7/4	裾は大きく広がる。端部付近は円形孔が2つ穿ってある。内外面とも器面寛れ。	内面の一部に塗彩がみられる。	

6号周溝墓出土遺物観察表(石器) 図92・93

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S734 6f	有茎石鏃	1.9・1.4 0.5	黒曜石 0.66	北周溝 埋没土中	有茎で基部は直線的である。 茎部を欠損している。	
S733 6f	有茎石鏃	1.45・1.4 0.35	流紋岩 0.75	主体部 埋没土中	有茎で基部は直線的である。 先端部と茎部を欠損している。	
S680 6f	スクレーパー	3.9・4.4 0.9	黒色頁岩 111.95	西周溝 埋没土中	不定形削片素材 端部に使用痕を残す。縦面打面。	
S735 6f	磨製石斧	3.1・1.6 0.5	4.73	西周溝 埋没土中	小型の定角式である。 刀部に微細な刃こぼれが認められる。	
S676 6f	スクレーパー	4.0・5.4 1.4	塊頁岩 24.66	北周溝 埋没土中	不定形削片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S750 6f	スクレーパー	3.1・5.7 1.1	黒色頁岩 20.9	埋没土中	縦長削片素材、縦面残存、縦面打面二側縁に加工痕が認められる。	
S677 65	スクレーパー	4.8・4.75 1.4	凝灰岩 39.94	埋没土中	縦長削片素材 側縁部分に加工痕が認められる。	
S675 65	スクレーパー	3.8・5.1 0.95	黒色頁岩 25.97	西周溝 埋没土中	横長削片素材 打面部分に加工痕が認められる。	
S678 65	スクレーパー	4.45・6.8 1.6	黒色頁岩 43.27	西周溝 埋没土中	横長削片素材、縦面残存 打面部分に加工痕が認められる。	
S679 65	礫石	8.6・4.9 1.0	砂岩 61.20	東周溝 埋没土中	二面を砥き面としており、縦状痕を多数残す。	
S671 65	スクレーパー	7.8・7.5 1.6	黒色頁岩 114.56	方台部南東部	横長削片素材 側縁の一部に加工痕が認められる。	
S674 65	礫石	8.6・5.5 2.5	文象凝灰岩 170.11	西周溝 埋没土中	表面・裏面を磨り面として利用している。	
S672 65	台石	30.0・22.2 7.4	粗粒安山岩 7500.0	方台部南端	一端に敲打痕を残す。	
S673 65	礫石	22.2・9.9 8.9	浴材凝灰岩 3210.0	方台部南端	両端に敲打痕を残す。	
S765 65	礫石	15.6・5.3 4.5	石英閃緑岩 604.0	埋没土中	一端に敲打痕を残す。	

7号周溝墓出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図95

番号 PL	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・変形の特徴	備考
1852 65	土師器 高杯	脚部上位上半部 残存	北西周溝 床面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR7/6	脚部上半のみ遺存。残存部には凹孔は看取できない。 脚部外面縦磨き。内面横磨き。	
1844	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.1cm) 高 3.4cm残	北周溝方台部 斜面上3cm	①微細砂を含む。石英 や雲母を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	いわゆる内斜口縁の杯形土器。口縁の杯形土器。口縁 端部は受け口状に屈曲する。外面横磨きざりの後、部 分的に垂磨き。内面などで調整の後縦磨き。	

8号周溝墓出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図99

番号 PL	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・変形の特徴	備考
1855 65	土師器 罎	口縁部体部下位 1/3残存 口 (15.9cm) 高 17.0cm残	後方部南斜面 確認直上	①砂粒・凝砂と少量の 小礫を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	球形の胴部を呈する。口縁端部は内湾する。胴部外面 は面とり。体部外面上半は縦方向刷毛目(7本/ 1cm)の整形後、下半横方向指などで、口縁部内外面横 磨き。体部内面横方向に立てているが、輪横痕、指頭 痕を多く残す。	
1850 65	土師器 鉢	完形 口 11.7cm 底 丸底 高 6.6cm	前方部西北溝 周溝 底面直上	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部をやや傾り込んで平底を意図した深めの鉢である。 底部外面磨きざり。体部外面横方向磨きで。内面横、 斜磨きで。口縁部内外面横磨き。	

8号周溝墓出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図99

番号 PL	器 種	残 存 残 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	備 考
1851 65	土師器 埴	口縁部下位~底部1/2残存 底 丸底 高 5.8cm残	前方部西北隅 周溝 底面直上	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5YR6/2	体部下位外面斜方向刷毛目(8本/1cm)整形後、裏などで、底面外面磨けず。口縁部下位縦方向などで。体部内面斜方向磨きで。口縁部内面縦方向刷毛目。	
1849 65	土師器 器台	口縁~脚部中位 1/3残存 口(18.4cm) 高 10.5cm残	前方部 確認面上6cm	①細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	器受部下端に突出部のある特殊器台。突出部の上端はつまみ上げられている。器受部内外面は全て整形後、縦方向磨き。脚部外面縦方向磨き。内面上下縦方向指などで。下平横方向などで。器面は荒れており、整形単位は明確でない。	
1853 65	土師器 高杯	口縁~脚部下位 1/3残存 口(13.4cm) 高 9.0cm残	前方部 確認面上9cm	①細砂・砂粒を多く含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	杯部下位に接のある高杯の杯部は縁は小さく丸くつまみ上げられている。杯部下位外面は横磨けず。外面横などで、縦磨き。内面横などで、底面には磨きがある。脚部は縦磨き。内面横刷毛目(7本/1cm)	
1845 65	土師器 小形器台	2/3残存 口(7.5cm) 底 11.5cm 高 8.1cm残	前方部 確認面上13cm	①微細砂・細粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は小さく外湾する浅い器受部。脚部は縦磨き。内面横などで。器受部内外面丁事などで調整。	
245 65	土師器 高杯	口縁~脚部残存 口(6.5cm) 底(10.0cm) 高 7.5cm残	前方部 確認面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部が上方へ小さくつまみ上げられた形状を呈する。器受部に円孔はないが、器台と考えられる。脚部外面縦磨き。内面横などで。器受部内外面丁事などで調整。	
1848	土師器 器台	脚部上半部残存 高 5.6cm残	前方部 確認面上5cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	脚部上半(9本/1cm)の横刷毛目整形後、下方は縦磨き。内面上半縦指などで。下平横方向などで。1段3孔が看取できる。	
1847	土師器 高杯	杯部~脚部3/5 残存 底(13.2cm) 高 7.7cm残	前方部 確認面上8cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/3	脚部下半がラッパ状に開く小形の高杯。脚部中位に1段3孔の円孔を穿つ。脚外面縦磨き。内面斜方向刷毛目(10本/1cm)整形。	
1846 65	土師器 器台	1/3欠損 口 7.9cm 底 11.0cm 高 8.5cm残	前方部 確認面上11cm	①細砂を多く含む。白色泥状物が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部部が外反する浅い器受部に脚部がやや内湾する脚部が付く。器受部の円孔はやや一方にずれている。器面が見られているが、調整痕は明確でない。脚部には1段3孔が穿たれている。脚部外面縦磨き。内面横磨きなどで。器受部内外面などで調整後、内面縦方向磨き。	
1854	土師器 壺	頸部破片 高 2.9cm残	前方部周溝 埋没土中	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄橙7.5YR8/4	断面四角形の突帯を帯せた頸部破片。突帯には、磨削状工具により、斜方向の割突痕がついている。	

8号周溝墓出土遺物観察表(石器) 図99

番号 PL	器 種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形 状・調 整 加 工 の 特 徴	備 考
5731 66	ペンダント?	4.0 × 2.05 0.5	滑石 4.81	西側くびれ部 周溝 埋没土中	剣形石製製造品に類似するが、穿孔の位置が異なるために、器種は不明である。穿孔は片穴である。	
5682 66	スクレーパー	3.2 × 4.2 0.5	黒色頁岩 7.84	埋没土中	縦長切片素材。折断。一側縁に僅かな加工痕と、微細な使用痕を残す。断面残存。	
5732 66	スクレーパー	5.25 × 3.6 1.1	黒色頁岩 22.24	前方部トレンチ 内	縦長切片素材。断面残存。 先端部に加工痕が認められる。	
5736 66	打製石鏃	2.05 × 1.15 0.2	黒色安山岩 0.47	前方部周溝 埋没土中	先端部と平分を欠損している。 無茎で基部に挿入がある。	
5681 66	凹み石	8.85 × 10.6 3.8	縦紋安山岩 412.0	後方部周溝 外周確認面	裏面両面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	

9号岡清墓出土遺物観察表(弥生土器) 図101

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1856 66	弥生土器 甕	口縁—底部 1/2残存 口 18.7cm 底 9.7cm 高 32.0cm		主体部	①白色紅物粒・黒色紅物粒・夾雑紅物粒・小礫を含む。 ②やや緑い。 ③にぶい壁 7.5YR6/4	胴部は大きく張る。頸部はくびれる。口縁部は外反する。全体に至む。内外面とも僅かに器面荒れ。外面口縁部、底部付近と内面は横方向の荒れ。外面胴部縦方向荒れ。外周胴部縦方向荒れ。	頸部には右回りの等間隔止重状文。	

10号岡清墓出土遺物観察表(弥生土器) 図102

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1861 66	弥生土器 甕	頸部破片		北周溝 底面上13.0cm	①白色紅物粒・黒色紅物粒・夾雑紅物粒を含む。 ②やや緑い。 ③褐色5YR6/1	口縁部は大きく外反する。内外面とも横なで。	頸部には1単位5条の櫛歯状状文。胴部から下位には櫛状工具による羽状文。	
1862 66	弥生土器 甕	頸部破片		北周溝東端 底面直上	①白色紅物粒・夾雑紅物粒を含む。 ②やや緑い。 ③にぶい壁 7.5YR6/3	口縁部は外反する。内面は横なで。外面は器面荒れ。	頸部は1単位9条の2連右回り櫛状文。胴部上位には櫛歯状状文。	
1863 66	弥生土器 甕	頸部破片		北周溝 底面直上	①白色紅物粒・黒色紅物粒・夾雑紅物粒・小礫・輝石を含む。 ②やや緑い。 ③褐色10YR6/1	頸部は大きくくびれる。外面は縦方向の器面調整が主である。内面は横方向器面調整。	頸部には櫛状工具による平行沈線文が4条みられる。	

10号岡清墓出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図102

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
1859 66	土師器 甕	口縁—体部下位 1/4残存 口 (14.0cm) 高 14.3cm		北周溝 底面上12cm	①砂粒・小礫を多く含む。②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	体部の丸い広口の変形土器。体部外面磨けずりの後、横、斜方向荒なで。内面縦方向の指なで。口縁部—胴部内外面横なで。	
1860	土師器 甕	口縁—体部上位 破片 口 (19.0cm) 高 9.5cm残		西周溝 底面直上	①細砂・砂粒を多量に含む。②軟質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	口縁部がやや内湾する。広口の変形土器と推定される。磨耗が著しく、整形単位は不明瞭であるが、体部外面は横方向の磨けずり。内面横方向荒なで。口縁部内外面横なで。	

10号岡清墓出土遺物観察表(石器) 図102

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S684 66	石織未製品	4.15・1.5 0.4	陸奥標片岩 3.38	西周溝 底面直上	分割割片である。	
S683 66	スクレーパー	9.4・4.1 1.95	黒色安山岩 62.43	北周溝東部 埋没土中	横長割片素材、端面残存、端面打面、打面縁と先端縁に使用痕、一側縁に加工痕が認められる。	

11号岡清墓出土遺物観察表(弥生土器) 図104

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1865	弥生土器 高杯	脚部破片 底 (10.8cm) 高 3.0cm残		北周溝 底面上4cm	①白色紅物粒・黒色紅物粒・石英砂・輝石を含む。 ②やや緑い。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	脚部は大きく開く。外面は縦、内面は横方向器面調整。脚端部は粘土のもり上がりがあるが、丸みをもつ。		

11号周溝墓出土遺物観察表 (弥生土器) 図104

番号 PL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1864	弥生土器 高杯	脚部破片 底 (13.0cm) 高 2.7cm残	北堀溝 底面上6cm	①白色鉱物粒・黒色鉱物粒・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②織い。 ③にぶい肌5YR7/4	脚部底部は大きく開く。器面調整痕は僅かに残るが、内外面とも器面欠れ。		
1868	弥生土器 甕	底部1/2残存 底 (9.7cm) 高 3.0cm残	周溝 埋設土中	①黒色鉱物粒・夾雑鉱物粒・白色の小礫を含む。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	底部付近から胴部に向け開きはじめる。底部付近は縦。斜方向器面調整。内面と外面底部は器面欠れ。		
1866	弥生土器 甕	肩部破片	周溝 埋設土中	①砂質であり、夾雑鉱物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③明褐色7.5YR7/2	胴部上半は丸みをもつ。肩部付近はやや外反をはじめる。内外面とも横なで。	櫛状工具にする羽状文。	
1867	弥生土器 甕	肩部破片	周溝 埋設土中	①白色鉱物粒・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。 ②織い。 ③褐色7.5YR5/1	胴部上半は丸みをもつ。肩部付近はやや外反をはじめる。内外面とも横なで。	櫛状工具による横線文が2段ある。	

5. 礫床墓の出土遺物

礫床墓出土遺物観察表 (弥生土器) 図105

番号 PL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2252	弥生土器 高杯	杯部下位~胴部残存 底 5.5cm 高 6.6cm残	最終礫面直上	①白色鉱物粒・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい肌5YR7/4	脚部は短く直線状に開き、肩部平坦。杯部は開きながら立ち上がる。	脚部横方向器面調整。外面杯部は縦方向走り。脚部内面を除き磨り。	他彩 10YR4/8

6. 遺構外の出土遺物

包含層 A 出土遺物観察表 (弥生土器) 図108

番号 PL	器種	残法 残量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2212 68	弥生土器 壺	口縁部一底部 破片 口 (17.2cm) 高 13.4cm残	M-37G	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母・輝石を 含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は大きく外反する。 口縁部は横なで。外面頸部は上 位は横方向の差寄せ。	胴部上位には縄文がある。	
2211 68	弥生土器 壺	口縁部破片	M-39G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③明褐色7.5YR 7/2	胴部はくびれる。口縁部は大き く外反する。口縁部は折り返し のあとが残る。内面は横なで。	胴部には縄文と思われる横 縄文があり、頸部から口縁部 にかけては、5単位の垂線波 状文で充填される。	
2060	弥生土器 甕	胴部破片	L-39G	①砂質であり石英 砂を含む。 ②やや硬い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向の器面調整。	地文に縄文があり、太い沈線 が縦方向に走る。	
2068	弥生土器 鉢	口縁部一底部 1/4残存 口 (9.0cm) 底 5.2cm 高 4.3cm	M-37G	①白色・夾雑鉱物 粒・輝石を少量含 む。 ②やや硬い。 ③明赤褐5YR5/6	胴部はわずかに内湾しながら外 方へたちあがる。外面底部は平 底であり、内面は鍋底状を呈す。 内外面とも器面荒れ。外面には 刷毛目が入る。		

包含層 A 出土遺物観察表 (土器器・須恵器) 図109

番号 PL	器種	残法 残量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2063 68	土器器 壺	口縁部1/3残存 口 (16.4cm) 高 6.3cm残	L-37G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③浅黄橙10YR8/4	口縁部外面に鋭い面とりをし、頸部には断面四角形 の突帯を付す。突帯の上面と頸部に斜め方向に磨崖状 工具による斜突文を付している。口縁部外面縦方向刷 毛目の後、丁寧なで調整。内面横方向差寄せ。	4本/1cm
2069 68	土器器 壺	体部下位底部欠 損 口 17.2cm 胴 25.8cm	M-38G	①微細砂・細砂を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7YR7/4	巾状の折り返し口縁を付した、球形胴部の壺形土器。 体部外面斜、横方向刷毛目。内面方向横なで。口縁部内 外面横なで。	
2067 68	土器器 鉢	口縁部一底部一 部欠損 口 (11.5cm) 底 4.8cm 高 12.5cm	L-37G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②軟質。 ③明赤褐5YR5/6	小さな平底の鉢形土器。広口、くの字の口縁部が付 されている。外面横なで調整。内面なで調整。口縁部内 外面横なで。	
2071 68	土器器 小形砂付	杯部一底部 口 (7.5cm) 底 13.5cm 高 9.3cm	M-38・40G	①細砂・砂粒を多量に 含む。 ②軟質。③赤褐2.5YR 4/8・橙5YR6/8	胴部外面横なで、内面斜刷毛目。端部内外面横なで。 器受部内外面横なで。	
2066 68	土器器 高杯	杯部1/2残存 口 18.5cm 高 5.8cm残	L-37G	①細砂を多く含むが、 微塵な胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	上半部が大きく開く高杯杯部。口縁部外面には横い 面とりがある。内外面とも、横方向の細かい差寄せ。	
2061 68	土器器 甕	口縁部一底部 口 (19.4cm) 高 8.4cm残	L-37G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	広口の大型の壺形土器。短い口縁が外反する。頸部 から体部外面斜方向刷毛目 (5本/1cm)。内面横方向刷 毛目。下位横方向横なで。口縁部内外横なで。	
2072 68	土器器 小形壺	口縁部一底部 口 (10.0cm) 高 5.8cm残	M-38G	①微細砂・砂粒を多量 含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	S字帯を横した、小形の台付壺と考えられる。体部外 面横刷毛目。内面なで調整。指頭痕残る。	
2064 68	土器器 S字壺	口縁部一底部上 位1/3残存 口 18.0cm 高 11.7cm残	L-37G	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部中段は外湾し、丸い体部を呈する。外面は羽状 の斜刷毛目後横方向刷毛目 (5本/1cm)。内面は壺 なで後、指押え。口縁部内外面横なで。	

6. 遺構外の出土遺物

包含層A出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図108

番号 FL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2062 68	土師器 S字壺	口縁部1/3残存 口 17.2cm 高 5.8cm残	L-37G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部内面中広の面とりをしている。頸部は締らず、肩部の張らない器形である。体部外面斜刷毛目（7本/1cm）、内面指押さえ。口縁部内外面横なで。	
2070 68	土師器 S字壺	胴部一部 底 8.2cm 高 14.1cm	M-38G	①砂粒を多量に含む。 白色粒子を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	球形のS字壺。体部から胴部斜刷毛目（7本/1cm）上部には横刷毛目が見える。内面上半部横なで。下半部方向なで。胴内面指なで調整。	
2065 68	土師器 S字壺	口縁部～胴部 2/3残存 口 (17.9cm) 高 5.8cm残	L-37G No50	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR 6/3	口縁部中段は、ほぼ直立し、口縁部はゆるやかに外湾する。体部外面斜方向刷毛目（7本/1cm）後肩部外面横方向刷毛目。内面指なで。口縁部内外面横なで。	

包含層A出土遺物観察表〈石器〉 図108

番号 FL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S966 68	台石	19.2・16.3 4.5	粗粒安山岩 2375	不明	周縁から制縁面が5つ認められる。	

包含層B出土遺物観察表〈弥生土器〉 図109

番号 FL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2117 69	弥生土器 壺	頸部破片	V-55G	①黒色・夾雑鉱物 粒・小塵を含む。 ②織い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	僅かに外反する。内外面とも器面寛れ。	3本の平行沈線文の上下に斜向沈線文がある。	
2085 69	弥生土器 壺	肩部破片	R-52G No70	①白色・黒色・夾雑 鉱物粒を含む。 ②やや織い。 ③灰白7.5YR8/2	僅かに外反する内外面とも器面 寛れ。	棒状工具による横線文の下葉 状工具により刷毛文が施され 中に斜向沈線文が充實される。 刷毛文の周には沈線。	
2113 69	弥生土器 壺	体部破片	U-54G	①砂粒を多量に飽 白色鉱物粒も含む。 ②やや織い。 ③灰SYR6/1	胴部は僅かに丸みをもつ。	平行する円形刷毛文がある。	
2083 69	弥生土器 壺	口縁部破片	R-52G No75	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②織い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	頸部はくびれる。口縁部はひろ く。内面は横方向の器面調整。	口縁部から頸部にかけては、 櫛歯状文を2段に入れ頸部 は右回りの等間隔止塵状文。	
2098 69	弥生土器 壺	口縁部破片	T-53G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小塵を 含む。 ②やや織い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部は外反し、口縁部付近 でわずかに内湾する。内面は 横なで。	口縁部から頸部にかけては櫛 歯状文が充實されている。	
2115 69	弥生土器 壺	体部破片	V-55G No1	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小塵を 含む。 ②やや織い ③灰白2.5Y7/1	胴部上位は僅かに丸みをもつ。 内面は横方向の器面調整。	横方向の器面調整後棒状工具 による羽状文を施文。	
2077 68	弥生土器 壺	口縁部一部 上位残存 口 (21.0cm) 高 15.6cm残	Q-52G No9	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む砂 質土。 ②良好。 ③にぶい黄濁 10YR6/4	胴部上位は丸みをもつ。頸部は 大きくくびれ、口縁部は直線状 にひろく。口縁部は僅かにた つ。外面は縦・斜・内面は横方 向の器面調整。	単位10条の櫛状工具押圧文に より頸部は2連止右回りの櫛 状文。胴部は2段の櫛歯状文。	

包含層B出土遺物観察表(弥生土器) 図109

番号 PL	器種	残存 方法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装飾の特徴	文様	備考
2079 68	弥生土器 甕	口縁部-頸部 1/2残存 口 (27.8cm) 高 12.5cm残	Q-53G No5	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む 砂質土。 ②やや緑い。 ③にぶい橙5YR 7/4	頸部は大きくくびれ、口縁部に 向かい大きく外反する。口縁部 は折り返しであり、折り返し部 分には指押さえ痕がつく。外面 は縦、内面は横方向の器面調整。		
2080	弥生土器 甕	体部中位1/2 高 10.5cm	R-52G No25	①砂質土であり石 英砂を含む。 ②緑い。 ③にぶい黄橙 10YR6/4	胴部は大きく張る。内外面は器 面荒れがはげしく、一部に整形 痕がこのころ。		
2078 弥生土器 小形甕	口縁部の一部 欠損 口 9.2cm 底 5.8cm 高 13.4cm	Q-53G No13	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緑い。 ③褐色7.5YR4/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は頸部から外反を はじめ中位から口縁部にかけて はわずかに内湾、全体に歪む。 口縁部は横なで、外面側下半部 は縦方向の器面調整。内面は鉄 分の付着が多く観察不可能。	1単位6条の櫛状工具押圧文 により頸部は右回りの櫛状文。 胴部上位は2段の櫛状波状文 を施文。		
2091 69	弥生土器 甕	口縁部破片 口 16.2cm 高 6.1cm	S-53G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰黒5YR6/2	頸部はくびれる。口縁部は大き く外反する。内外面とも口縁部 横方向の器面調整。頸部付近は 縦方向の器面調整。		
2119	弥生土器 甕	口縁部-頸部 1/4残存 口 (14.0cm) 高 6.8cm	V-56G No4	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ③やや緑い。 ④にぶい橙7.5YR 5/3	胴部は大きく張る。頸部は横か にくびれる。口縁部は直線状外 にひらく。粗雑なつくりで口縁 部は歪み、外面にも輪轡痕が残 る。外面は縦、横方向の器面調 整。内面は輪轡痕が残る、横方 向の器面調整。	口縁部には右回りの櫛状文。 直下に櫛状波状文があり、右 回りの櫛状文を一部で切る。	
2108	弥生土器 鉢	完形 口 11.1cm 底 6.2cm 高 7.1cm	U-54G No3	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ③やや緑い。 ④灰黒5YR5/2	胴部は丸みをもつ。頸部はわず かにくびれる。口縁部は外反す る。全体に粗雑なつくりで歪む。 内外面とも横方向の器面調整。		
2081 69	弥生土器 鉢	中位1/2欠損 口 12.7cm 底 6.2cm 高 6.7cm	R-52G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・砂粒を 含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 6/3	底部から直線状に外方にひらき、 口縁部は大きく外反する。外面 体部下半は褐色円筒形。内外面 口縁部は横なで。内面体部は横 方向の器面調整。		
2086 69	弥生土器 鉢	1/3残存 口 10.1cm 底 4.8cm 高 4.2cm	R-53G No40	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ③やや緑い。 ④灰黄2.5Y7/2 底部黒2.5Y2/1	底部から口縁部に大きくひらく。 口縁部付近で外反。内外面とも 器面荒れ。一部に器面の整形痕 が残る。		
2097	弥生土器 高杯	頸部のみ残存 底 6.2cm 高 5.6cm残	T-52G No17	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	頸部は頸部に向かい大きくひら く。頸部は平坦。外面は縦方向 器面調整。内面は斜方向の器面 調整。		外面赤色塗 彩
2203 69	弥生土器 高杯	頸部のみ残存 底 9.5cm 高 7.4cm	S-51G	①砂質土であり、 小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい37.5YR 5/3 暗赤10R3/4	頸部は外反して頸部にいる。 外面は器面荒れがはげしく塗彩 がわずかに残る。内面は横方向 の器面調整。		

6. 遺構外の出土遺物

包含層B出土遺物観察表(弥生土器) 図109

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
2106 69	弥生土器 ミニチュ ア	ほぼ完形	口 2.8cm 底 2.6cm 高 4.8cm	U-55G	①白色・夾雑物粒・石英砂を含む。 ②やや緑い。 ③にぶい黄褐色	手捏の土器であり器面は滑んで いる。口縁部は横なで。底部付 近は押押え。底部は外面で僅か に上げ底状を呈し歪影。		
2125	弥生土器 ミニチュ ア 蓋	頸部破片	高 2.0cm残	V-56G	①白色・夾雑物粒・小礫を含む。 ②緑い。 ③灰黄褐色10YR6/2	杯部と頸部の接合部の破片。外 面は縦方向の器面調整。全体に 器面荒れ。頸部内面をのぞき歪 影。		
2116 69	弥生土器 ミニチュ ア 高杯	約1/3欠損	高 4.0cm	V-55G	①夾雑物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄褐色 10YR7/2	楕円形で筒形を呈す。底部は僅 かにひろい。器内は底部付近が 肥厚で口縁部付近は薄い。表面 に塗影が僅かにのこる。	胴部には幾何工具により平行 沈線文を本施文後、斜格子 目文を施文している。	

包含層B出土遺物観察表(土師器・須恵器) 図110

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
2207	土師器 壺	肩部破片	高 6.9cm残	S-53G No207・210・ 213	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③浅黄褐色7.5YR8/4	球形胴部になると思われる大形の壺の肩部破片。頸部 から上位は、貼付された部分が剥落しているため、形 状は不明である。体部外面縦方向刷毛目整形。	
3092	土師器 壺	口縁部-頸部 1/2残存	口 15.8cm 高 6.6cm	S-53G No212	①細砂・小礫を含む。 赤色泥物粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/4	ほぼ直立する。頸部に大きく外反する口縁部がつく壺。 口縁部外面は、幅広の面とりがされて、口唇部はつま み上げられている。口縁部内外横なで。	
2118	土師器 壺	口縁部破片	口 (15.5cm) 高 5.6cm残	U-55G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色5YR6/4	短い外反する口縁がつく、変形土器。口縁部外面下位 斜方向刷毛目 (10本/1cm) 口縁部内外面横なで。	
2123	土師器 S字壺	口縁部破片	口 (16.0cm) 高 4.7cm残	V-56G No14	①砂粒・微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	口縁部中段は外反する。肩部外面斜方向刷毛目 (6本 /1cm) 整形。頸部外面に調整の沈線が入る。内面横 方向施刷後、縦方向指なで。	
2101	土師器 S字壺	口縁部-体部破 片		T-54G	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部頸部内面は、面とりが付けられている。肩部外面 縦方向刷毛目 (5本/1cm) 内面指なで。口縁部内外 面横なで。	
2096	土師器 S字壺	口縁部破片	口 (20.1cm) 高 4.4cm残	S-56G	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③明褐色7.5YR7/1	口縁部内面端部にゆるやかな面とりをする。体部外面 斜方向刷毛目 (5本/1cm) 後頸部調整しているがや や下がった位置に施されている。内面横方向施なで後 縦方向指なで。	
2093 69	土師器 S字壺	口縁部-台部上 位1/2残存	口 (10.4cm) 高 14.5cm残	S-54G	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白10YR7/1	小形のS字壺。口縁部の屈曲はゆるやかである。外面 羽状の斜刷毛目 (6本/1cm)。内面なで調整。	
2084	土師器 S字壺	口縁部破片	口 (15.5cm) 高 3.7cm残	R-52G No63	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部中段は外反する。肩部外面縦方向刷毛目 (6本 /1cm)。内面横方向施なで。	
3082	土師器 S字壺	肩部1/3残存 底 (10.5)	高 7.2cm残	R-52G No64	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR6/4	大形S字壺の肩部。外面斜刷毛目 (6本/1cm)。内面 歪なで後指なで。	
2095	土師器 ミニチュ ア	肩部破片	底 5.3cm 高 4.5cm残	S-56G	①砂粒と少量の小礫を 多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR6/3 下部黒2.6GY2/1	ミニチュアの台付壺。肩部破片。体部外面縦方向施刷 り。内面歪なで。臀部内外面押押え。	
2122	土師器 高杯	口縁部-杯部下 位1/4残存	口 (12.8cm) 高 6.0cm残	V-56G No19	①砂粒を含むが、精選 された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	口縁部端部が内湾する。高杯の杯部。杯部下位は縁がつ く。内外面とも丁寧な斜方向施磨きが施されている。	

包含層Ⅱ出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図110

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2112 69	土師器 高杯	脚部のみ残存 底 16.8cm 高 8.5cm残	U-54G	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	裾部が大きく開く高杯の脚部。上半は細く短い。外面上半部縦方向丸磨き。下半横方向丸磨き。内面下半横方向丸磨き。内外面とも磨耗が著しく整形単位は不明。	整形技法は丁寧であるが台付装の可能性もある。
2076 69	土師器 高杯	脚部のみ残存 底(7.3cm) 高 5.6cm残	V-56G No10	①微細砂・砂粒を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	ラッパ状に開く小さな脚部に丸い杯部が付される。外面、縦方向丸磨き。内面横方向丸磨き。	
2215 69	土師器 器台	上部から底部 1/3 口(8.2cm) 底(10.4cm) 高 9.9cm	Q-53G No26	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐色5YR7/3	やや小さな砂受部に、下位が内湾しながら開く脚部をもつ器台。脚部中に1つの円孔が残存する。脚部外面上位縦丸磨き、下位斜丸磨き。脚内面斜方向刷毛目(7本/1cm)後進まで。器受部外面斜丸磨き。内面まで調整。	
2100	土師器 小形器台	残存高 4.7cm残	T-54G	①細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③褐色5YR6/6	ラッパ状に開く脚部の破片。脚部外面縦方向丸磨き。内面横方向丸磨き。	
2121	土師器 埴	口縁部一底部 1/5残存 口(12.3cm) 高 7.2cm	V-56G	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐色7.5YR6/3	頸部のくびれのゆるやかな埴。磨耗が著しく、整形単位は不明であるが、内外面なでられている。	
2104 69	土師器 埴	口縁部欠損 痕 5.2cm 高 9.7cm残	U-53G No1	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐色5YR7/3	頸部がしまり、やや下膨れの算盤玉形を示す。外面は磨耗が激しく整形単位は不明。内面はなで調整。	
2109 69	土師器 鉢	口縁部一底部上 位1/3残存 口(9.5cm) 高 4.5cm残	U-54G No4	①微細砂を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい褐色5YR7/4	短く外反する。口縁部がつく鉢形土器。体部内外面なで調整。口縁部内外面横なで。	
2111 69	土師器 杯	口縁部一底部 1/4残存 口 14.8cm 高 7.7cm	U-54G	①砂粒・細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい褐色5YR6/4	口縁端部が内湾する。内斜口縁の杯形土器。体部は深めで、丸底である。体部から底部外面丸磨き。内面丁寧なで調整。	
2090 69	土師器 杯	口縁部一底部下 位1/4残存 口(14.8cm) 高 6.2cm残	S-53G	①細砂・砂粒を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③褐色2.5YR7/6	口縁端部が小さく内湾する。内斜口縁の杯。内外面とも磨耗が著しく整形技法の単位は明瞭とはいえないが、内外面とも縦方向の丸磨きが施されている。	
2105 69	土師器 杯	口縁部一底部 1/4残存 口(13.6cm) 高 5.8cm残	U-55G	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③褐色2.5YR6/8	短く外反する口縁部をつく内斜口縁の杯。丸底。体部外面丸磨き。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで調整。	
2110 69	土師器 杯	口縁部破片 口(5.75cm) 高 4.9cm残	U-54G	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	口縁端部が直立する。深めの杯。体部内外面磨耗が著しく、整形単位は不明。口縁部内外面横なで。	

包含層Ⅱ出土遺物観察表〈石器〉 図111

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S688 70	打製石斧	13.35・7.0 2.15	黒色頁岩 180.84	O-50G	撥形。 刃部に使用痕が認められる。	
S687 70	打製石斧	8.05・4.8 1.3	凝輪安山岩 73.59	S-54G	頭部を欠損しているが、撥形と考えられる。 刃部に使用痕が認められる。断面残存。	
S693 70	打製石鏃	2.25・1.6 0.4	黒色頁岩 1.17	S-53G	無茎で、基部寄りの両側縁にえぐりが認められる。	先端部の欠損は調査時のものか。
S707 70	ペンダント	3.9・1.95 5.5	蛇紋岩 6.43	O-52G	器種は不明である。 穿孔は両穴だが、失敗した穿孔が認められる。	
S695 70	石鏃未装 品	5.3・2.6 0.4	珠寶摩片岩 6.51	T-52G	根柢の段階である。	
S694 70	スクレーパー	3.5・2.5 0.6	黒色頁岩 6.26	T-52G	縦長割片素材 両側縁、特に裏面に顕著な加工痕が認められる。	

包含層B出土遺物観察表(石器) 図111・112

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S705 70	砥石	8.0・7.3 6.1	二ツ岳輝石 159	S-52G	四面に線状を残す。	
S702 70	スクレーパー	3.2・5.2 1.0	黒色頁岩 15.42	O-51G	不定形割片素材、折衝 両側に加工痕と微細な使用痕を残す。	
S706 71	敲石	13.55・5.1 5.0	瓶粒安山岩 490	S-52G	一端に僅かな敲打痕を残す。	
S714 70	白石	28.9・25.1 6.8	石英閃緑岩 8000	T-53G	一面のほぼ全域に磨り痕が認められる。	
S686 71	敲石	12.75・6.2 3.3	瓶粒安山岩 445	S-53G	両端に顕著に敲打痕を残す。	
S697 71	敲石	8.9・4.7 2.6	瓶粒安山岩 162.78	O-52G	一端及び一面に敲打痕を残す。	
S701 70	凹み石	18.6・11.4 6.8	瓶粒安山岩 1535	R-50G	表面に多数のくぼみが認められる。	
S688 71	敲石	16.3・7.9 4.6	瓶粒安山岩 840	R-52G	両端に敲打痕を残す。	
S685 71	敲石	11.9・9.2 7.45	瓶粒安山岩 973.3	S-54G	一端に敲打痕を残す。	
S700 70	凹み石	7.9・8.4 5.2	瓶粒安山岩 335	R-52G	表面にくぼみが認められる。	
S699 71	凹み石	9.9・9.25 3.0	瓶粒安山岩 440	R-51G	表裏両面のほぼ中央にくぼみが認められる。	

包含層C出土遺物観察表(縄文土器) 図113

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②色調 ③黄皮 ④黄斑 ⑤黄斑 ⑥黄斑 ⑦黄斑 ⑧黄斑 ⑨黄斑 ⑩黄斑 ⑪黄斑 ⑫黄斑 ⑬黄斑 ⑭黄斑 ⑮黄斑 ⑯黄斑 ⑰黄斑 ⑱黄斑 ⑲黄斑 ⑳黄斑 ㉑黄斑 ㉒黄斑 ㉓黄斑 ㉔黄斑 ㉕黄斑 ㉖黄斑 ㉗黄斑 ㉘黄斑 ㉙黄斑 ㉚黄斑 ㉛黄斑 ㉜黄斑 ㉝黄斑 ㉞黄斑 ㉟黄斑 ㊱黄斑 ㊲黄斑 ㊳黄斑 ㊴黄斑 ㊵黄斑 ㊶黄斑 ㊷黄斑 ㊸黄斑 ㊹黄斑 ㊺黄斑	器形・整形・文様の特徴	備 考
2300 71	縄文土器 浅鉢	体部破片	2A-64G	①A型 ②良好 ③にふい黄皮 10YR7/2	器面の風化により、文様構成が不明瞭であるが、口縁部に隆帯による入り組み状の横円区画文を施す。縄文は体部は不明であるが、口縁部はR Lの縦位施文。	加曾判E 3式
2304 71	縄文土器 深鉢	体部破片	2B-64G	①A型 ②良好 ③浅黄2.5YR7/3	半截竹管工具による3本1単位の懸垂文を施し、区画内の縄文を磨り消す。縄文はR Lの縦位施文。内面に炭状灰化物が少量付着。	加曾判E 3式
2305 71	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2B-65G	①A型 ②良好 ③橙5YR6/6	口縁部に横位、以下に逆U字状のモチーフを微隆起帯により施す。区画内にL R縄文を充填し、微隆起帯に沿った部位を半截竹管工具でナテ消す。波状口縁。内面横ナテ。	加曾判E 4式
2302 71	縄文土器 壺形	体部破片	2B-64G	①A型 ②良好 ③黄皮2.5Y6/1	口縁部は無文で、頸部に隆帯をめぐらせ、以下に縦位の横円状区画文を施す。内面は横位へラ研磨。外面は風化により荒れている。	加曾判E 3式
2301 71	縄文土器 深鉢	体部破片	2A-64G	①A型 ②良好 ③にふい黄皮 10YR6/3	半截竹管による対向U字状と1本単位の懸垂文を交互に施す。区画内にはR L縄文を充填する。内外面ともに風化によりかなり荒れている。	加曾判E 3式
2303 71	縄文土器 深鉢	口縁部一底部 口 13.8cm 底 4.8cm 高 17.8cm	2B-64G	①D型 ②良好 ③黄皮7.5YR4/1	4単位の波状口縁を有し、波頂部に多数管状工具による2-3本の刻み目を施す。また各波底部に瘤状の小突起を付し、それを連結するように同工具による横位波線文をめぐらせる。内外面とも器面風化により不明瞭であるが、外面縦位、内面横位の研磨が認められる。	曾谷式

グリッド出土遺物観察表〈縄文時代・土器〉 図114

番号 凡	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②色調 ③焼成	器形・整形・文様の特徴	備考
714 72	縄文土器 深鉢	体部破片	表面採集	①B型 ②良好。 ③にぶい層7.5YR 7/4	隆帯による大柄な渦巻状の横S字状文が、胴上・下半の各々に2単位に施される。区画内外にはL R縄文が充填され、隆帯に沿って加えられる沈線により、ナメ消される。4単位の波状口縁で、屈曲の強いキャリパー形を呈する。内外面ともに風化による変色。	加曾利E 3式
2288 72	縄文土器 深鉢	体部破片	162住	①A型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2 層2.5YR6/6	2本1単位の隆帯により、大柄な渦巻文を施す。内外面ともに被熱による風化。	加曾利E 3式
2283 72	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	154住	①A型 ②良好。 ③にぶい層7.5YR 6/4	半截竹管による逆U字状懸垂文を施した後、その区画外に口縁部は横位に、それ以下は縦位にL R縄文を施す。内面の一部に算状炭化物付着。内外面は風化による変色。	加曾利E 3式
2287 72	縄文土器 深鉢	体部破片	165住	①A型 ②良好。 ③透黄2.5Y7/3	口縁部に隆帯により楕円状区画文を施す。縄文はR Lの横位施文。内面は横位のヘラ研磨。	加曾利E 3式
2290 72	縄文土器 深鉢	体部破片	77土坑	①A型 ②良好。 ③にぶい層7.5YR 7/4	波状沈線文と逆U字状文が交互に入り組み状となるモチーフを施す。縄文はR Lの横位施文で、区画内の外縁は折リ消される。屈曲の強いキャリパー形。内外面は風化による変色。	加曾利E 3式
2284 72	縄文土器 深鉢	体部破片	154住	①A型 ②良好。 ③透黄2.5Y7/3	半截竹管による平行懸垂文を施し、区画内の縄文を磨り消す。縄文はR Lの縦位施文。内外面ともに風化による変色。	加曾利E 3式
2289 72	縄文土器 鉢	体部破片	表面採集	①D型 ②良好。 ③にぶい層7.5Y 6/4	細沈線により幾何学状の区画文を描き、区画内に細い原体のL R縄文を充填する。内外面ともに風化による変色。	瓶之内2式
2282 72	縄文土器 鉢	体部破片	表面採集	①E型 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	棒状工具の横位沈線文と、河川を束ねた縦位波状文を施す。縄文はL Rの縦位施文。	瓶之内2式
2259	縄文土器 深鉢	口縁部破片	Z-59G	①E型 ②良好。 ③明褐色7.5YR 7/2	口縁部に横位隆帯を帯付し、口唇部との間に円形竹管状工具による高文を施す。胴部は無文。内面は横位のヘラ研磨。	瓶之内2式
2285	縄文土器 深鉢	体部破片	北東部 床面上5cm	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	細沈線による横位の区画文が描かれ、内部にL R縄文が充填される。	加曾利B 2式
2295 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-39G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	棒状工具の細沈線を横位に施し、細い原体のL R縄文を横位に施す。内面は被熱により研磨。	加曾利B 2式
2294 72	縄文土器 浅鉢?	口縁部破片	R-51G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	外面は風化により不明瞭であるが、平行状の沈線区画文と縦位の区切り沈線が認められる。区画内にL R縄文が充填される。内面の口縁部には5～6本の平行沈線文と棒状工具による刻目文が施される。	加曾利B 1式
2307 72	縄文土器 鉢	口縁部破片	3号周溝墓	①D型 ②良好 ③にぶい層7.5Y 5/3	内外面ともに風化により文様は不明瞭であるが、口縁部に3本単位の平行沈線文が認められる。	加曾利B 1式
2291 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2号周溝墓	①D型 ②良好。 ③暗灰黄2.5Y5/2	口縁部に平行状の沈線文がめぐり、口唇部との間に()状のモチーフが加えられる。外面は良好に研磨され、内面は風化による変色。	加曾利B 2式

グリッド出土遺物観察表(縄文時代・土器) 図114

番号 PL	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
2298 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	W-56G	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	内外面ともに風化による器面荒れが著しく、文様は不明瞭である。口唇下には内外面ともに横位の沈線文がめぐる。	加曾利B式
2306 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-26G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄7.5YR 6/4	2-3本1単位の横位沈線文が複数段に施され、上段に瘤状の小突起が付される。縄文の施文も認められるが、器面の風化が著しく、原体の種類は不明。	曾谷式?
2296 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-39G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄黄 10YR6/3	横位の沈線文が複数段に施され、上段に瘤状の小突起が付される。沈線文間には2種類の縄文が充満されるが、一つはLRで他は不明。	曾谷式?
2292 72	縄文土器 深鉢	体部破片	2号副溝墓	①D型 ②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	棒状工具による横位沈線を施し、中途に渦巻状の区切りを加える。内外面は風化による若干の荒れ。	加曾利B2式
2286 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	172住	①C型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	突起部の両肩部に各2ヶ所、正面中央部に1ヶ所それぞれ溝文を付す。中央部の溝文は貫通孔であり、この直下に()状の沈線文を施す。	加曾利B2式
2297 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	153住	①D型 ②良好。 ③黄灰2.5Y5/1	平截竹管工具により幾何学文様のモチーフが描かれる。内外面は風化による若干の荒れ。	加曾利B式
2283 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	R-50G	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	粗製の深鉢形土器で、無文となる。内外面ともに風化による荒れ。	後期

グリッド出土遺物観察表(弥生時代中期以前・土器) 図115

番号 PL	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2128 72	弥生土器 壺	胴部破片	W-57G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ、内外面とも僅かに器面荒れ。	施文に縄文を施した後棒状工具により弧状の沈線文。	
2102 72	弥生土器 壺	胴部破片	T-55G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③明褐色7.5YR 7/2	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	施文に縄文を施した後棒状工具により弧状の沈線文。	
2107 72	弥生土器	胴部破片	U-53G	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	直線的な胴部上半で、やや立ち ぎみの胴部である。内面は器面 荒れ。	施文に縄文を施した後棒状工具 により弧状の沈線文。胴部外 面に縦位の劃目目。	外面の1部 に赤色塗彩 か?
2058 72	弥生土器 壺	胴部破片	G-19G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄黄 10YR7/3	胴部上半部は胴部に向かい内向 する。外面は横なで。内面は器 面荒れ。	胴部上半部には烈点文部分が 僅かにたたく。上下に棒状工 具による平行沈線文がある。	
3094 72	弥生土器 壺	胴部上半破片	S-55G 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③褐色5YR4/1	僅かに外反する。外面は横方向 器面調整。内面は器面荒れ。	棒状工具により平行沈線文を 中心とした沈線文がある。	

グリッド出土遺物観察表（弥生時代中期後半～後期・土器） 図116

番号 PL	器 種	残 存 状 態	出 土 位 置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・形 状 の 特 徴	文 様	備 考
2174 72	弥生土器 壺	口縁部破片	2 A-65G	①微細砂であり、 白色・夾雑鉱物 粒・輝石を含む。 ②織い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は受け口状を呈す。内外面 とも器面寛れ。僅かに横方向の 器面調整。	口縁部外面には磨擦波状文が ある。	
2181 72	弥生土器 壺	口縁部破片	2 B-63G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②織い。 ③灰白10YR8/2	口縁部は僅かに厚くつくる。内 面は横方向の器面調整。外面は 器面寛れ。	外面口縁部には黒赤痕が残る。	
2246 72	弥生土器 壺	口縁部破片	A・B-1- 6 G	①砂質土である石 英屑と小礫を含む。 ②織い。 ③黒褐10YR3/2	口縁部は受け口状を呈す。内外 面とも器面寛れがほしい。	口縁部には棒状工具により磨 削文がある。口唇部には縄文 と割み目がある。	
2248 72	弥生土器 甕形土器	口縁部破片	A・B-1- 6 G	①砂質土であり白 色・夾雑鉱物粒・ 輝石を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は僅かになつた。	口縁部表面は磨削状の割み 目がある。	
2196 72	弥生土器 壺	口縁部一頸部 破片	2 C-65G	①砂質土であり白 色・夾雑鉱物粒・ 輝石を含む。 ②やや織い。 ③淡黄橙7.5YR 8/3	口縁部は外反し、口縁端部は内 湾する。外面は縦・内面は横方 向の器面調整。	口縁部には右回りの磨削文。 口縁端部には磨擦波状文。	
2148 72	弥生土器 壺	口縁部破片	Y-62G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部は外反し、内面は横方向 の器面調整。内外面とも僅かに 器面寛れ。	口縁部から頸部にかけて磨削 波状文が充満。	
2197 72	弥生土器 壺	口縁部一腰部 破片	2 D-65G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや織い。 ③灰褐7.5YR5/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部はわずかに開く。 内面は横方向の器面調整。内外 面とも器面寛れ。	頸部には右回りの磨削文。口 縁部から胴部上半には磨擦波状 文。胴部中位にはボタン状貼 付文。	
2147 72	弥生土器 小形壺	口縁部破片	Y-62G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや織い。 ③赤褐10R5/4	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は外反。内面は横 方向の器面調整。内外面とも横 方向の器面調整。	外面は磨擦波状文。	
2186 72	弥生土器 壺	口縁部破片	2 B-65G	①白色鉱物粒・輝 石を含む。 ②織い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部は外反する。口縁部は内湾 しながらひろく。内外面とも器 面寛れ。	頸部は1単位9条の横状工具 による2連止右回りの磨削文。 口唇部から胴部上半には磨擦 波状文。口縁部端部付近には 円形刺突文をうったボタン状 貼付文がある。	
2176 72	弥生土器 小形壺	口縁部破片	2 B-65G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや織い。 ③にぶい黄SYR 7/3	頸部は僅かにくびれる。頸部は わずかに外反する。内外面とも 器面寛れているが横方向の器 面調整。	頸部には2連止右回りの磨削 文。口唇部には円形刺突文の あるボタン状貼付文がある。	
2190 72	弥生土器 壺	口縁部破片	2 B-64G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②織い。 ③灰白10YR8/1	口縁部は僅かに開く。内外面と も横方向の器面調整。	口縁部には地文に縄文を施文 後棒状工具により磨削文。	

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図116

番号 凡	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装形の特徴	文 様	備 考
2103	弥生土器 甕	口縁部破片	T-56G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・輝石を 含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部は外反。口縁部は折り返 してある。内面は横なで。	外反口縁部と頸部には櫛掻波 状文。	
2164	弥生土器 甕	口縁部破片	Z A-61G	①白色鉱物粒を含 む。 ②やや細かい。 ③黒10YR1.7/1	口縁部は僅かに外反。内面は横 なで。	地文に縄文。頸部には点文。 口唇部は縄文押捺。	
2247	弥生土器 甕	体部破片	A・B-1- 6G	①白色鉱物粒・小 礫を含む。 ②やや細かい。 ③暗赤地5YR3/2	僅かに内湾する。	器面には地文に縄文を施した後、 3条の平行沈線文と点文が ある。	
2180	弥生土器 甕	体部破片	2 B-63G	①白色・黒色鉱物 粒・輝石を含む。 ②やや細かい。 ③灰白2.5Y7/1	表面に段をもつ。内外面とも器 面荒れ。	地文に縄文。段の部分に点 文。	
2159 72	弥生土器 甕	肩部破片	Z-63G	①黒色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②普通。 ③灰白2.5YR8/2	外反しながらくびれる。外面は 斜方向の器面調整。内面は器面 荒れ。	鹿状工具による櫛歯文の中に 斜向沈線文により充填する。	
2177 72	弥生土器 甕	頸部破片	2 A-62G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや細かい。 ③浅黄褐色7.5YR 8/4	頸部はくびれる。内外面とも横 方向の器面調整。	頸部付近には円形竹管文を施 文。胴部寄りに塗彩。	
2166 72	弥生土器 甕	肩部破片	2 A-62G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	肩部は僅かに内湾している。内 面は横なで。	櫛掻波状文を充填後ボタン状 貼付文、ボタン状貼付文には 12本の縦刻み目を横線文が切 る。文様を施文。	
2173 72	弥生土器 甕	頸部破片	2 A-65G	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②細かい。 ③灰黄褐色10YR4/2	胴部上半は僅かに内湾。内面は 横方向の器面調整。	胴部には右回りの等間隔止櫛 状文。胴部上半は櫛掻波状文 が充填。	
2175 72	弥生土器 甕	体部破片	2 B-65G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・雲母・ 輝石を含む。 ②やや細かい。 ③にぶい橙5YR 7/4	胴部上半は丸みをもつ。内面は 横方向の器面調整。内外面とも 器面荒れ。	胴部付近には2連止右回りの 櫛状文。胴部上半部分に2段 分の櫛掻波状文。	
2251 72	弥生土器 甕	体部破片	A・B-1- 6G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③黒褐色7.5YR3/1	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向の器面調整。	櫛状工具による羽状文が残る。	
2245 72	弥生土器 甕	頸部破片	A・B-1- 6G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②細かい。 ③灰褐色7.5YR6/2	胴部は僅かに内湾する。頸部は 僅かにくびれ、口縁部に向いひ らきはじめる。内面は横方向の 器面調整。内外面とも器面荒れ。	櫛掻波状文を充填したのち、 櫛状工具により垂下文が切る。	

グリッド出土遺物観察表（弥生時代中期後半～後期・土器） 図116・117

番号	器種	残存法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2179 72	弥生土器 甕	体部破片		2 B-63 G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや穢い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部は僅かに内湾する。	帯掻波状文を充填したのち、胴状工具により垂下文が切る。	
2187 72	弥生土器 壺	体部破片		2 B-64 G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・雲母を含む。 ②やや穢い。 ③灰白10YR8/2	僅かに丸みをもつ。	棒状工具による弧状沈線文4本があり、1つおきに縄文を施文。	
2279 72	弥生土器 壺	体部破片		2 B-62 G	①砂質土である。 ②やや穢い。 ③灰白2.5YR/2	僅かに丸みをもつ。	鹿状工具による渦巻文と思われる一部がある。	
2249 72	弥生土器 壺	体部破片		A・B-1-6 G	①白色・黒色・輝石を含む。 ②穢い。 ③にぶい赤褐5YR 5/3	僅かに丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	棒状工具による沈線文が3状と縄文。	
2250 72	弥生土器 甕	体部破片		A・B-1-6 G	①砂粒が多量に混入している。 ②穢い。 ③赤褐5YR4/5	僅かに丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	棒状工具による沈線文がある。	
2169 72	弥生土器 壺	口縁部-頸部写残存 口 (4.8cm) 高 4.6cm残		2 A-62 G	①細細砂であり、黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は外反する。外面は縦方向の器面調整、内面は横なで。		
2204 73	弥生土器 甕	口縁部-頸部写残存 口 22.5cm 高 11.4cm残		S-50 G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は外反する。外面は頸部から口縁部に向けて縦方向の器面調整を行っており、工具幅は2cm程度である。口縁部は横なで、内面は横方向の器面調整。	頸部には1単位11条の2連止右回り縷状文。下位にひきつづき帯掻波状文がある。	
2171 72	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (16.5cm) 高 8.1cm残		2 B-63 G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや穢い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部は大きくくびれ、口縁部は外反し、口縁部上位で僅かに内湾する。外面頸部付近は縦方向の器面調整、外面口縁部と内面は横方向の器面調整。		
2222 72	弥生土器 甕	口縁部写残存 口 (12.7cm) 高 5.0cm残		2 B-62 G	①白色・夾雑鉱物粒・石英砂・輝石を含む。 ②やや穢い。 ③灰黄2.5Y7/2	頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部は内外面とも横なで。器面荒れている。		
2216 73	弥生土器 甕	頸部破片 高 6.3cm残		U-57 G	①白色・夾雑鉱物粒・雲母を含む。 ②やや穢い。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	頸部は丸みをもつ。頸部は僅かにくびれる。口縁部は内湾する。外面口縁部は縦方向の器面調整、内面は横方向の器面調整。	頸部には1単位7条の2連止右回りの縷状文施文後、直下の胴部上位に帯掻波状文が2段確認できる。	
2129 73	弥生土器 甕	頸部-底部写残存 底 6.0cm 高 13.0cm残		W-61 G	①白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや穢い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	頸部は丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部に向いて外反する。外面胴部下部は縦方向の器面調整、内面は横方向の器面調整、内外面とも器面荒れている。	頸部には2連止の右回りの縷状文。胴部には、2段の帯掻波状文があり、胴部の中位の最大幅部分に塗彩がある。	

グリッド出土遺物観察表（弥生時代中期後半～後期・土器） 図117

番号 PL	器種	残存 方法 容量	出土位置	①胎土・②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2167 72	弥生土器 壺	体部-底部破片 底 (8.0cm) 高 17.4cm残	2 A-62G	①白色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。 ②やや細かい。 ③灰黄褐色10YR4/2	底部から胴部に向い丸みをもたらすがたがたがある。内外面とも斜方向の器面調整。	胴部には磨状工具による羽状文。	
2219 73	弥生土器 壺	胴部-体部下位 高 41.3cm	W-56G	①砂質土であり、白色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい褐色7.5YR 6/3	胴部は大きく張る。胴部はくびれる。外面は多方向に器面調整。内面は横方向の器面調整。	胴部には磨損状文。	
2168	弥生土器 壺	底部破片 底 (9.6cm) 高 3.0cm残	2 A-62G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②やや細かい。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	底部付近は斜方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。	外底部面は木製痕がある。	
2160	弥生土器 高杯	脚部のみ片残存 底 (14.3cm) 高 9.1cm残	Z-62G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③暗赤褐色2.5YR 3/6	脚部は胴部に向い僅かに内湾するもののはは直線状を呈す。端部は平皿。内面は横方向の器面調整。外面は裾付近は横なで。他は磨磨き。外面は塗彩。		
2114 72	弥生土器 高杯?	杯部下位-脚部残存 底 3.6cm 高 4.0cm残	U-59G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや細かい。 ③明褐色7.5YR 7/2	ミニチュア土器と考えられる。脚部は直線状で端部は平皿。外面は縦方向の器面調整。脚部内面は調整痕が残る。		
2221 72	弥生土器 高杯	脚部残存 底 3.7cm 高 3.1cm残	Z-60G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや細かい。 ③にぶい黄2.5Y 6/3	脚部は大きく裾部で広く外面は縦方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。端部は平皿。		手掘・ミニチュア
2124 72	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 8.1cm 高 7.2cm残	X-59G	①白色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。 ②細かい。 ③にぶい褐色7.5YR 6/3	杯部との境から胴部にかけて直線状にひらく。端部は平皿。外面には縦方向の磨磨き。内外面とも器面荒れ。		
2059	弥生土器 ミニチュア	口縁部一部欠損 底 3.1cm 高 2.1cm	K・L-33・34G	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②やや細かい。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	底部は丸みを持つ。底部外面は僅かに凹む。	外面は縦方向に刷毛目。内面は磨理え痕がある。	
2276 72	弥生土器 ミニチュア ア手捏	ほぼ定形 口 3.7cm 底 3.5cm 高 2.2cm	2 A-63G	①白色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。 ②細かい。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	底面は平皿。内面には磨理ええがつく。内外面とも器面荒れ。		
2143 72	弥生土器 鉢	底部破片 底 8.0 × 6.0cm 高 3.6cm残	Y-60G	①白色鉱物粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③黄褐色2.5Y7/3	底部は小判形を呈す。底部短弧面側片方の胴部最下部が他に比して外反が大きい。磨磨き痕が残る。		

グリッド出土遺物観察表（弥生時代中期後半～後期・土器） 図118

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
2139	弥生土器 土製円盤	ほぼ完形 長 4.6cm 巾 4.0cm 厚 0.6cm	X-58G	①白色・黒色・夾雑 鉱物粒を含む。 ②織い。 ③灰白10YR5/1	転用材。周辺をわる。円形に近い。	刷毛目が表面に残る。	
2151 73	弥生土器 紡錘車	片残存 長 4.0cm 巾 (2.2cm) 厚 0.8cm 孔 1.0cm	Y-63G	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや織い。 ③橙7.5YR7/6	円形と推測できる。中心部に円 形孔がある。断面形では中心部 にある孔付近が厚く、外縁部が うすくなる。		
2185 73	弥生土器 土製円盤	完形 長 3.4cm 巾 3.3cm 厚 0.7cm	2B-64G	①砂質土であり、 石英砂・黒色鉱物 粒を含む。 ②やや織い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	土器からの転用。外形をこまか く打ち削って円形状にしている。 表面面とも器面見え。		
2308	弥生土器 紡錘車	片残存 長 6.5cm 厚 0.9cm	X-60G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②織い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	破片であり、中心孔部分は不明。 断面で僅かにドーム状になる。 一面の一部に塗彩。		
3073 73	弥生土器 土製円盤	完形 長 4.0cm 厚 0.85cm	M-32G	①白色鉱物粒・輝 石を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR6/2	土器からの転用である。外縁部 分は打ちかかっている。		
2274 73	弥生土器 紡錘車	片残存 長 5.3cm 巾 (2.7cm) 厚 1.9cm	W-58G	①白色鉱物粒・石 英砂を含む。 ②やや織い。 ③灰白2.5YR/2	円形を呈すと考えられる。中心 より僅かにすれて円形孔直径約 1cmがある。		
2136 73	弥生土器 土製勾玉	完形 長 3.4cm 厚 1.1cm	X-63G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	手捏である。円柱形の粘土ひも の両端をまるめた痕がある。円 形孔の表面には粘土が僅かにも り上がっている。		

グリッド出土遺物観察表（古墳時代前期・土器） 図119

番号 PL	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
2133 73	土師器 台付甕	口縁部破片	X-57G	①微細砂を多く含む。 ②焼質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁端部があまり反らないS字状を呈する。内外面 はよくなでられており、口縁部外面中位には刷毛目が つけられている。	
2141 73	土師器 S字甕	口縁部破片	Y-58G	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③黒褐7.5YR3/2	口縁部上端に面とりがある。内外面で。口縁部外面 中位には、刷毛目が付されている。	
2188 73	土師器 甕	胴部一帯破片	2B-64G	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR8/1	ややくびれた胴部から丸くなる部品の破片。外面は斜 横方向の叩き目。内面は横方向なで調整。	2194と同一個 体
2194 73	土師器 甕	体部破片	2B-64G	①微細砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰褐7.5YR6/2	やや丸い体部を呈すると考えられる変形土器の体部。 外面には横方向の平行叩き目。内面横方向なで。	
2150 73	土師器 S字甕	口縁部破片	Y-63G	①微細砂・雲母を多量 に含む。 ②焼質。 ③ナリーブ黒7.5Y3/1	口縁部中段はほぼ直立し、端部は外反する。口縁部 内面には面とりがある。体部外面縦方向刷毛目（4本 /1cm）胴面内面にも刷毛目整形が残る。	

6. 遺構外の出土遺物

グリッド出土遺物観察表(古墳時代前期・土器) 図119・120

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2158 73	土師器 高杯	脚部破片		Z-63G	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい體SYR6/4	裾部が急に開く高杯の脚部破片。外面に2条の沈線によって区切られた文様帯の間に沈線による山形文が付けられている。内面はなで調整。	
2134 73	土師器 高杯	脚部破片		X-57G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③陥伏N3/0	裾部の大きく開く高杯の脚部破片。脚部外部周部に面とりをする。外面には、2条の沈線で区切られた文様帯の中に、櫛歯状工具による羽状の刻み目が付けられている。	
2126 73	土師器 高杯	脚部破片		V-59G	①微細砂を含むが、比較的精選された胎土である。 ②やや軟質。 ③にぶい體SYR7/4	大きく裾部の開く高杯形土器の脚部破片。外面周部には3-4条の、櫛歯直線文の間に、同じ工具による波状文が施されている。	
2280 73	土師器 埴	脚部破片		2 C-65G	①砂粒を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい體SYR7/4	内湾する埴の口縁部と考えられる。外面腹方向横毛目(6本/1cm)内面横溝で、口縁部内外面横溝で。	
2135 73	土師器 蓋	体部破片		X-61G	①砂粒・小礫を少量含む。 ②硬質。 ③體SYR6/5	外面は横方向横毛目(6本/1cm)整形。内面は丁寧なで調整。	
2182 73	土師器 蓋	口縁部破片		2 B-63G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	いわゆるパレス型蓋の口縁部破片。複合口縁の外面には3条の沈線文が付けられている。垂影部分有り。	
2193 2195 73	土師器 蓋	体部破片		2 C-65G	①砂粒と少量の雲母を含む。 ②軟質。 ③體SYR6/5	体部外面には沈線文の山形文と平行線文が交互に2段みられる。	
2154 不明	土師器 不明	体部破片		Y-60G	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y8/1	丸い体部に突帯が付けられた破片。突帯には沈線による刻み目が付けられている。	
2155 不明	土師器 不明	体部破片		Y-64G	①微細砂・細砂を多く含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y8/2	丸い体部に突帯の付された破片。突帯には櫛歯状工具で刻み目が入っている。	
2278 73	土師器 高杯	脚部破片		2 B-64G	①緻密な胎土であるが、細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③體SYR6/5	高杯脚部の裾部破片と考えられる。外面には、2条の沈線で区切られた文様帯の中に平行沈線で充填された三角文が施されている。	2277と同一個体か?
2277 73	土師器 高杯	脚部破片		2 B-64G	①緻密な胎土であるが、細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③體SYR6/5	大きく開く高杯。脚の裾部破片と考えられる。内外面とも丁寧になでられており、一孔が穿たれている。沈線2条の上部に櫛歯状工具で斜方向の刺突文、下部に同じ工具に山形文が付けられている。	
2183	土師器 蓋	口縁部一帯部1/4 残存 口 12.9cm 高 9.0cm残		2 B-64G	①細砂・小礫を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい體7.5YR7/3	頸部外面に突帯がめぐる。口縁部外面で調整。体部斜面で調整。口縁部内面横溝方向に櫛歯。体部内面横溝で。櫛歯み痕残る。	
2191 74	土師器 蓋	口縁部一帯部残存 口 14.0cm 高 6.0cm残		2 B-65G	①小礫を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい體SYR6/4	巾広の折返し口縁の球形割部の成形土器。口縁部外面には3-4条の不整形な凹線がめぐる。2本1組の棒状付文が添付されている。口縁部内面に面とりがある。口縁部内外面横溝で。	
2234 74	土師器 蓋	口縁部破片 口 20.0cm 高 2.7cm残		2 C-64G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい體10YR7/3	口縁部中に段をもつ。有段口縁の蓋。段上位外面には凹形付文が、つまみあげられた口縁部外面の面とりには凹形の刻み文が付けられている。口縁上段は大きく外反する。	

グリッド出土遺物観察表(古墳時代前期・土器) 図120・121

番号 PL	器種	残存 位置	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2225 74	土師器 壺	体部下半片残存 底 5.2cm 高 12.8cm残	2 C-64G	①細砂を含むが精選さ れた胎土である。 ②硬質。 ③黄7.5YR6/6	やや扁平な球形胴部の壺。体部外面上半斜刷毛目の後 で調整。下半横方向の後、横方向調整。内面上 半には横刷毛目が残るが体部下半は横方向調整で。	
2075 74	土師器 壺	頸部一底片残存 底 5.0cm 高 4.2cm残	N-46G	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③明褐色7.5YR5/5	小さな平底の頸の張る壺。口縁部の形状は欠損の為、 不明。外面横方向の調整で後、横方向調整。内面下 半横調整で。上半指押え。	
2281 74	土師器 壺	口縁部片残存 口 (15.7cm) 高 4.2cm残	2 C-64G 2 B-64G	①微細砂を少量含む。 ②硬質。 ③にぶい黄7.5YR7/3	口縁部は直下へ縁をもち、直立して短く立ちあがる。 外面縦方向刷毛目。内面で調整。口縁部内外面横 調整で。	
2120	土師器 壺	上位片残存 口 (18.0cm) 高 13.2cm残	U-58G	①細砂・小礫を多く含 む。 ②やや軟質。 ③にぶい赤褐色5YR5/4	体部の丸い広口の壺形土器。体部外面は斜方向刷毛目 (6本/1cm) 後上位は指で調整。内面横方向刷毛 目の後横方向調整で。口縁部内外面横調整で。	
2220 74	土師器 広口壺	口縁部破片 口 (16.4cm) 高 4.1cm残	Y-58G	①微細砂を含むが、精 選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄7.5YR7/4	口縁部外面に巾6mmほどの面とりをする。外湾する 短い口縁部。体部上半外面には巾広の刷毛目 (3本/ 1cm) が残る。内面横調整で。口縁部内外面横調 整で。	
2223 74	土師器 壺	上位片残存 口 (14.6cm) 高 12.8cm残	2 B-64G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	丸い胴部の壺。ゆるやかに外方に開く広口の口縁部 である。体部外面斜方向調整。内面横方向調整で。 口縁部内外面横調整で。	
2243	土師器 S字壺	口縁部破片 口 (14.2cm) 高 3.5cm残	A B-1-6 G	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は外反し。体部外面には、斜刷毛目 (7本/ 1cm) 後、横方向刷毛目。内面指で。	
2144	土師器 S字壺	口縁部一断面破片 口 (13.3cm) 高 6.4cm残	Y-59G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/2	口縁部中段が直立するS字壺。体部外面上半は放射状 に刷毛目 (6本/1cm)。下半は斜刷毛目。上半には 横刷毛目も混る。内面横調整し後、指押え。	
2142	土師器 S字壺	口縁部一断面破片 口 (15.0cm) 高 8.5cm残	Y-59G	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR6/3	口縁部中段が外方に開くS字壺。口縁部内面の面とり も明瞭でない。外面羽状刷毛目 (6本/1cm)。胴部 下には、横刷毛目も混る。内面指で。	
2172 74	土師器 台付壺	脚部片残存 底 (10.0cm) 高 7.0cm残	2 A-64G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	端部がやや内湾する。台付壺の脚部。脚部外面斜方向 刷毛目 (8本/1cm) 接合部指押え。内面で調整。 体部内面丁寧な調整で。	
2189 74	土師器 壺	口縁部一断面破片 口 (21.2cm) 高 28.0cm残	2 B-64G	①砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③明褐色7.5YR7/2	巾の狭い折り返し口縁部付した広口の壺。体部は球形 を呈する。体部外面縦方向刷毛目 (6本/1cm) 後 で調整。内面横方向調整で。部分的に縦指で。口縁 部内外面横調整で。	
2138 74	土師器 S字壺	脚部のみ片残存 底 9.0cm 高 6.6cm残	Y-58G	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐色5YR5/6	やや短いS字壺脚部。外面斜刷毛目 (6本/1cm)。 内面指で。	
2132 74	土師器 S字壺	脚部のみ片残存 底 8.6cm 高 5.6cm残	X-60G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄7.5YR7/3	小形のS字壺の脚部。外面斜刷毛目 (8本/1cm)。 内面指で。	砂底
2156 74	土師器 台付壺	脚部残存 底 (8.8cm) 高 6.0cm残	Y-58G	①微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい黄7.5YR7/3	外面斜刷毛目 (6本/1cm)。内面指で。底部内面 には粘土貼りつけ痕が残っている。	
2130	土師器 壺	体部中段一断面破片 底 18.7cm残	W-61G	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	外面縦方向刷毛目 (6本/1cm)。内面横方向調整で。	
2199 74	土師器 瓶	片残存 口 (14.0cm) 底 3.7cm 高 8.0cm	J-27	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR6/4	上方に大きくラッパ状に開く。小さな底部には一孔 を穿つ。外面上半斜刷毛目。下位で調整。内面指 で後、横方向調整。口縁部内外面横調整で。	

グリッド出土遺物観察表〈古墳時代前期・土器〉 図121

番号 凡	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2217 74	土師器 鉢	1/4残存 口 10.6cm 底 (5.4cm) 高 7.5cm残	U-57G	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	小さな平底の鉢。口縁部はやや内湾し、内面口縁部下位に稜をもつ。体部外面縦磨けずり。内面下位磨けずり。上半横磨きで。口縁部内外面横なで。	
2210 74	土師器 高杯	杯部1/4残存 口 (9.8cm) 高 5.2cm残	K・I-33- 34G	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄褐色10YR7/4	丸い碗形の杯部。口縁部は内湾する。杯部外面横方向磨きで。内面横方向磨きで。上半部は丁寧になでた後、縦方向磨き。	
2201 74	土師器 高杯	杯部1/4残存 口 11.5cm 高 4.9cm残	K・M-35・ G	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐色7.5YR6/3	やや内湾する口縁部をもつ高杯。杯部が外面は横方向なで。内面斜方向、横方向磨き。口縁部内外面横なで。	
2209 74	土師器 鉢	1/4残存 口 7.6cm 高 4.7cm	I-22G	①砂粒・細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄褐色10YR5/2	うす手で小形鉢。外面横方向なで。内面には指痕が残る。口縁部内外面横なで。	
2178	土師器 鉢	上半1/4残存 口 (9.6cm) 高 4.9cm残	2B-62G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤褐色5YR5/6	小さく外方に開く口縁部が付された鉢。外面は磨けずり後、上半なで調整。内面横方向磨きで。口縁部内外面横なで。	
2273	土師器 高杯	口縁部破片 口 18.2cm 高 3.5cm残	V-57G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	やや内湾する大形の杯部。内面には磨面状工具による山形文と平行線文が交互に4段施されている。外面は丁寧になで調整。	
2184	土師器 高杯	脚部1/4残存 底 (14.5cm) 高 7.1cm残	2B-64G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明褐色7.5YR5/6	杯部は大きく開く高杯脚部。中位に1段3孔を穿つ。外面縦方向磨き。脚部横なで。内面横方向磨きで。	
2242	土師器 高杯	脚部基部欠損 高 6.0cm残	A・B-1- 6G	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい褐色7.5YR7/3	大きく杯部が開く脚部と考えられる。2段3孔を穿つ。脚外面縦方向磨き。内面下半横磨き目(6本/1cm)。上半横磨けずり。	
2165 75	土師器 小形器台	口縁部~頸部 1/2 口 (10.0cm) 高 4.0cm残	2A-62G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	口縁部は短く外方に開く。小形器台器受部。外面縦磨き。内面横方向なで。	
2244	土師器 小形器台	口縁部破片 口 (9.4cm) 高 2.3cm残	A・B-1- 6G	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③褐色7.5YR6/6	器受部中位に2段の稜をもつ。内外面丁寧になで調整。	
2099 75	土師器 小形器台	口縁部~台形中位、 底部欠損 口 8.8cm 高 2.7cm残	T-57G	①砂粒・微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	器受部中位に稜をもつタイプの小形器台。口縁部は外反する。内外面ともよく磨かれている。	
2157 75	土師器 小形器台	口縁部~体部 1/2 口 7.5cm 高 4.4cm残	Z-59G	①やや砂粒は含むが、 精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい褐色5YR7/3	器受部の下位に稜をもつ小形器台。口縁部は大きく外湾する。脚部には1段3孔が残存している。	内外面赤色塗彩
2131 75	土師器 小形器台	脚部1/2欠損 口 7.7cm 底 (11.6cm) 高 6.3cm	X-58G	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③明褐色7.5YR7/2	口縁部外面に面とりする器受部をのせや低い。脚をもつ器台。脚中位よりやや上方に2段3孔を穿つ。器受部は内外面なで調整。脚部外面上半縦磨き。下半横磨き。内面なで調整。	
2137 75	土師器 小形器台	脚部1/3残存 底 (9.6cm) 高 6.2cm残	Y-56G	①微細砂および小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄褐色10YR7/3	ラバ状に開く短い器台脚部。脚上位に1段3孔を穿つ。外面縦方向磨き。下位横方向なで調整。内面横方向磨きで。	
2161 75	土師器 小形器台	口縁部~脚部 基部3/4欠損 口 9.5cm 底 (12.2cm) 高 10.0cm	2A-56G	①砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい褐色7.5YR7/4	外方に開く器受部をのせた足高の器台。脚外面の縦方向磨き。内面横磨きで。脚部横方向磨きで。器受部内面丁寧になで調整。口縁内面端部は面とりをする。1段3孔を穿つ。	

グリッド出土遺物観察表〈石器〉 図122-124

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S891 75	UF	3.2・2.2 1.1	黒曜石 5.96	V-54G	不定形剥片素材、礫面残存 端縁及び一側縁に加工痕と微細な使用痕を残す。	
S890 75	石礫未製品	4.1・2.0 0.3	珪質準片岩 3.47	2A-65G	分割剥片である。	
S892 75	磨製石礫	2.2・1.45 0.25	珪質準片岩 0.96	Y-63G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分に稜があるが、作りはやや雑である。	
S761 75	有孔磨製石礫	2.3・2.05 0.25	珪質準片岩 1.5	X-50G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分に稜があるが、作りはやや雑である。基部の穿孔は1孔で片状である。	
S709 75	磨製石礫	4.6・2.0 0.3	緑色片岩 3.27	T-57G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分に稜がある。	
S722 75	有茎石礫	3.9・2.35 0.7	黒色頁岩 6.10	X-57G	有茎で基部は挟入せずに茎部に接く。	
S710 75	打製石礫	2.75・1.35 0.35	黒色安山岩 1.21	T-54G	無茎で基部の挟入が浅い。	
S708 75	打製石礫	2.68・2.05 0.35	黒色安山岩 1.36	2A-63G	無茎で基部に挟入がある。	
S763 75	有茎石礫	2.2・1.2 3.5	砂岩 0.97	2A-64G	有茎で基部は直線的である。	
S730 75	石包丁	4.4・3.2 0.5	黒色頁岩 9.77	2A-63G	形状は外湾月半月形で、根孔部分で欠損しているが、二孔で両側の穿孔と推定される。根孔の端部縁に種ずれ痕が認められる。	
S738	砥石	7.0・4.1 0.8	砂岩 37.4	K-58G	表面の左半分を磨り面として利用している。	
S727 76	磨製石斧	11・4・6.2 3.1	変質玄武岩 425.0	2A-64G	刃部及び一側縁に敲打痕を残すことから、磨製石斧の未製品か、敲石に再利用したものか。	
S764 75	大形給刃磨製石斧	16.1・6.7 4.0	はんれい岩 763.0	H・I-20G	頭部に打撃痕と剝離面が認められる。 刃部に万縁と直交する顕著な縁状痕と、刃こぼれ痕が認められる。	
S719 76	打製石斧	10.9・7.1 1.5	細粒安山岩 144.64	Y-60G	頭部の一部を欠損していると考えられるが分銅形である。 礫面残存	
S713 76	打製石斧	5.1・4.8 1.6	細粒安山岩 50.73	V-55G	調整は少ないものの、打製石斧の頭部と考えられる。 礫面残存	
S703 76	打製石斧	13.75・7.3 2.4	黒色頁岩 256.0	V-55G	頭部部分の作出が雑であるが短冊形を呈する。	
S720 76	打製石斧	7.35・4.2 1.85	黒色頁岩 57.24	X-59G	調整が少なくないものの、打製石斧の頭部と考えられる。	
S746 76	打製石斧	4.7・4.7 1.0	黒色頁岩 33.2	Z-65G	両端を欠損しているが、短形と考えられる。	
S723 76	砥石	8.0・1.7 0.8	頁岩 20.90	W-56G	四面を砥ぎ面としている。 両端に剝離が認められる。	
S744 76	砥石	12.05・1.75 1.4	頁岩 48.7	M-39G	面を砥ぎ面としている。	
S689 76	スクレーパー?	10.8・10.7 4.6	黒色頁岩 640.0	2A-64G	分割礫素材 一端に剝離を加え、片刃の刃部を作り出している。	
S748 76	スクレーパー	6.6・5.8 1.8	黒色頁岩 87.1	W-57G	剥片素材、礫面残存 周縁から両面への求心的な剥片剝離を施し円盤状を呈する。	
S755 76	スクレーパー	4.95・5.7 0.8	黒色頁岩 33.2	I-22G	狭長剥片素材 周縁部分に加工痕が認められる。	
S786 76	スクレーパー	5.0・6.8 1.65	黒色安山岩 45.6	L-33・34G	狭長剥片素材 端縁及び両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S752 76	スクレーパー	4.55・6.4 1.2	黒色頁岩 27.2	K-26G	狭長剥片素材 打面縁と先端縁に加工痕が認められる。	
S728 77	スクレーパー	4.8・7.1 1.7	黒色頁岩 83.02	2A-62G	縦長剥片素材、礫面残存 一側縁及び両端縁に加工痕、使用痕を残す。	
S756 77	スクレーパー	4.1・4.8 6.7	黒色頁岩 13.9	2C-65G	狭長剥片素材 端縁に加工痕が認められる。	
S768 77	スクレーパー	4.3・7.3 1.3	珪質頁岩 46.0	A・B-I-6G	縦長剥片素材 一側縁と先端縁に加工痕が認められる。	
S717 77	スクレーパー	4.2・4.4 15.8	黒色頁岩 31.42	W-58G	狭長剥片素材、礫面打面、礫面残存 一側縁に細かな加工痕が認められる。	

グリッド出土遺物観察表(石器) 図125・126

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S749 77	スクレー パー	7.65・9.0 6.4	黒色頁岩 80.9	Z-63G	縦長切片素材、確面残存 周縁部分に加工痕が認められる。	
S757 77	スクレー パー	3.4・3.5 0.8	黒色頁岩 9.3	K-26G	縦長切片素材 先端縁に加工痕が認められる。	
S767 77	スクレー パー	2.2・3.7 0.5	黒色安山岩 5.3	KL-33・34 G	不定形切片素材 三縁に加工痕が認められる。	
S751 77	スクレー パー	5.5・5.85 1.65	黒色頁岩 52.6	2B-65G	縦長切片素材 先端縁に使用痕、一側縁に加工痕が認められる。	
S758 77	スクレー パー	2.9・3.75 1.0	黒色頁岩 12.9	W-56G	縦長切片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S753 77	スクレー パー	7.1・5.5 1.4	黒色頁岩 52.6	V-54G	縦長切片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S752 77	スクレー パー	2.2・2.75 4.5	黒色頁岩 3.1	V-55G	不定形切片素材 表裏両面の両側縁に加工痕が認められる。	
S718 77	スクレー パー	1.25・2.9 1.1	珪質頁岩 4.25	W-56G	不定形切片素材 加工痕が僅かに認められる。	
S760 77	スクレー パー	3.2・2.25 0.55	黒曜石 2.6	X-50G	縦長切片素材、確面残存 両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S754 77	スクレー パー	5.55・3.8 1.1	黒色頁岩 21.9	W-56G	縦長切片素材、確面残存 両側縁に僅かに使用痕を残す。	
S759 77	スクレー パー	4.1・1.8 0.6	黒色頁岩 5.2	U-56G	縦長切片素材 一側縁に使用痕が認められる。	
S743 77	スクレー パー	3.4・2.9 0.9	頁岩 10.0	Y-63G	縦長切片素材 両側縁に使用痕が認められる。	
S725 77	スクレー パー	4.35・4.4 1.5	砂岩 30.90	2B-64G	縦長切片素材、確面残存、折衝 両側縁に加工痕、折衝面に使用痕を残す。	
S724 77	石核	8.85・6.2 3.95	黒色頁岩 182.01	2B-64G	切片素材、確面残存 周縁から両面への求心的な切片縁を施す。	
S715 77	石核	5.5・4.7 1.9	黒色頁岩 62.63	T-53G	切片素材、確面残存 周縁から両面への求心的な切片縁を施す。	
S704 77	礫器	9.35・7.85 3.65	黒色頁岩 285.0	V-54G	礫素材か。 横門縁の一端に数回の刻痕を加え、片刃の刃部を作り出している。	
S745 77	礫石	11.4・5.8 3.6	流紋岩 385.0	2D-65G	両端に顕著に敲打痕を残す。	
S739 77	礫石	7.0・5.0 3.6	粗粒安山岩 195.0	Z-61G	一端に敲打痕を残す。	
S716 77	礫・凹石	11.1・9.7 2.5	粗粒安山岩 387.0	W-58G	周縁の一部に敲打による刻痕が認められる。 表面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	
S721 77	凹み石	15.25・13.1 6.5	粗粒安山岩 1672.0	X-58G	表面のほぼ中央に二つのくぼみ痕が認められる。	

グリッド出土遺物観察表(古代・土器) 図127

番号 PL	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②色調	③焼成	器形・整形の特徴	備 考
2146 78	土師器 杯	1/3残存 口(13.5cm) 高 7.3cm	Y-61G	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。	③焼2.5YR6/6	肩の張る丸い杯部をもった内斜口縁の杯。器面は荒れており、整形痕はよくわからない。	
2145 78	土師器 杯	口縁部-底部 1/3残存 口(13.4cm) 高 5.0cm残	Y-61G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい焼5YR6/4		最大径が口縁部になる。内斜口縁の杯。口縁部は丸く内湾する。内外面とも丁寧に作られている。	
2182 78	土師器 杯	ほぼ定形 口 13.4cm 高 5.2cm	2B-65G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤焼5YR5/6		最大径が口縁部になるやや浅めの内斜口縁杯。外面はなでられ、内面は磨かれているが、摩耗が著しく単位は不明である。	

グリッド出土遺物観察表(古代～近代・土器) 図127

番号 PL	器種	残存 性状	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装飾の特徴	備考
2200 78	土師器 鉢	口縁部～底部 2/3残存 口(10.8cm) 底(3.5cm) 高 5.8cm	L-27G	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	小さな平底の鉢。口縁部は短く外湾する。外面上平服 刷毛目。下半斜削けずりの後で調整。内面斜方向な で調整。口縁内外面積など。	
2202 78	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口(10.6cm) 高 3.2cm	S-50G	①微細砂・砂粒を含む。 ②きわめて硬質。 ③橙5YR6/6	体部中位にすどい稜をもつ小形の杯。底部外面削け ずり。内面などで調整。口縁部内外面積など。	
2231 78	土師器 杯	完形 口 11.3cm 高 3.0cm	P-49G	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	中位に稜をもつ小形で浅い杯。底部外面削けずり。内 面丁寧なで調整。口縁部内外面積など。	
2089 78	土師器 杯	1/4残存 口(11.2cm) 高 4.3cm	S-50G	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	口縁端部が短く内傾する小形の杯。外面は削けずり。 内面は丁寧なで調整。口縁部内外面積など。	
2205 78	土師器 杯	口縁部1/3残存 口(6.0cm) 高 3.5cm残	F-52G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	口縁端部が丸く内湾する丸底の杯。体部内外面などで調 整。口縁部内外面積など。	
2206 78	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口(12.0cm) 底(7.4cm) 高 2.9cm	F-4G	①微細砂・砂粒を多く 含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部中位でゆるやかな段をもって広がる杯。口縁部は 内湾する。底部外面削けずり。体部・口縁部内外面な で調整。	
2208 78	土師器 杯	1/4残存 口 12.4cm 高 3.2cm	H-6G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	小形の整形の杯。口縁端部はやや内湾する。底部外面 削けずり。内面丁寧なで調整。口縁部内外面積など。	
2074	須恵器 杯	口縁部1/6残存 口(12.4cm) 高 3.2cm残	M-36G	①細砂を少量含む。黒 色鉱物粒が目立つ。 ②還元焰焼成。硬質。 ③灰5Y6/1	黒転ロクロ整形。外面には自然釉が付着している。	
2218 78	須恵器 蓋	1/4部残存 口(9.3cm) 高 4.3cm残	R-51・52G	①細砂を多く含む。白 色粒子が目立つ。 ②還元焰焼成。 ③灰7.5Y5/1	ロクロ整形。天弁部外面手持り寛削り。	
2163	須恵器 蓋	口縁部破片 口(14.5cm) 高 2.35cm残	2A-60G	①黒色鉱物粒が目立つ。 ②還元焰。 ③灰N6/	大形の蓋の破片。天弁部外面回転削けずり。	
2198	須恵器 高台付椀	口縁部～体部下 位1/6残存 口(14.6cm) 高 5.3cm残	G-2G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②硬質。 ③灰N4/	右回転ロクロ整形。	
2214	形象埴輪 太刀	鞘尻残存 高 14.7cm残	M-39G	①砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	鞘の下部と鞘尻のみ残存。鞘尻は、幅7cm、長さ16cm、 短径13cmの倒卵形である。外面縦方向刷毛目。鞘尻部 はなで。内面は斜方向刷毛目整形後、指押え。	
2213	形象埴輪 太刀	鞘尻残存 高 30.2cm残	M-39G	①砂粒・小礫を含む。 ②硬質。 ③明赤焼2.5YR5/6	鞘の下半部と鞘尻の一部残存。鞘の上部は、長さ 10.5cm、短径9cmの倒卵形の断面を呈する。外面縦方 向刷毛目。内面斜方向刷毛目整形後、指押え。	
2250 78	陶器 菊皿	体部下位～底部 1/2残存 高 2.5cm	N-29-32 G・M-32G	①やや硬い。 ②普通。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面の菊花は整形し。内面に三叉トナリ痕2ヶ所残 る。内面から外面体部下位まで灰釉を施す。	瀬戸美濃系 17世紀
2258	軟質陶器 蓋?	破片	N-29-32 G・M-32G	①金雲母?含む。 ②やや軟質。瓦質。 ③暗ナリマブツ2.5GY 4/1	ロクロ調整。	在地製 江戸～明治
2265	須恵器 高台付椀	高台部1/2残存 底(9.6cm) 高 2.0cm残	N-29-32 G・M-32G	①微細砂を含む。黒色 鉱物粒が含まれている。 ②還元焰焼成。軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。回転糸切り難し。無調整。付高台。	

グリット出土遺物観察表(古代～近代・土器) 図127

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2267	須恵器 盤	口縁部～底部破 片	口 (27.2cm) 底 (22.0cm) 高 2.8cm	N-29-32 G・M-32G	①白色磁物粒を多く含 み、黒色粒を少量含む。 ②良好。 ③灰N6/I	底部は回転造り痕がある。口縁部はわずかに外反し 踵部はほぼ平用である。	
2268	土製品 土罐	完成品	長 5.2cm 巾 1.75cm 孔 0.2cm	N-29-32 G・M-32G	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y4/I	やや左右非対称に膨らむ。穿孔はやや曲っている。	
2266	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残	口 (12.5cm) 底 (8.0cm) 高 4.3cm	N-29-32 G・M-32G	①微細砂を含む。黒色 磁物粒が目立つ。 ②礫元岩焼成。軟質。 ③灰白7.5Y7/I	やや大きな底部の深めの杯。右回転ク口整形。回転 糸切り難し。無調整。	
2260	陶器 筒埴輪	口縁部・把手・ 台部欠損		N-29-32 G・M-32G	①白色・黒色磁物粒含 む。黒色磁物粒吹き出 す。 ②焼き締まる。 ③におい煙	ロクロ成型後、体部と頸部を接合。把手は欠損。底 に脚一封貼り付ける。被熱の痕跡は認められない。無 軸。	大瀬相馬 明治～大正

グリット出土遺物観察表(古代・瓦) 図128

番号 PL	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2047 78	瓦 男瓦	厚 1.4cm		R-53G	①黒色粒子含 ②灰白5Y7/I	①焼質 ②硬質 表面に回転の撫痕があり平截作。側面面取り3回。	秋岡。
2162 78	瓦 男瓦	厚 1.4cm		2A-60G	①黒色粒子含 ②灰白5Y7/I	①硬質 ②硬質 表面に回転撫であるため平截作。裏面に布合目痕あり。 側面面取り3回。	秋岡。
2088 78	瓦 女瓦	厚 1.5cm		R-53G	①黒色粒子含 ②灰白2.5Y8/I	①硬質 ②硬質 一枚作か輪巻作か青木染痕は不明瞭。表面に粘土板糸 切痕なし。裏面に絡縄文あり。側部は面取り後焼。	秋岡。
2262 78	瓦 男瓦	厚 2.8cm		N-29-32G	①白色粒子含。 ②焼締 ③灰7.5Y6/I	①焼締 ②硬質 回転染痕はなく、平截作か一枚作か不明。布目はやや 粗い。表面は書文。	吉井。
2261 79	瓦 女瓦	厚 2.3cm		N-29-32G	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y6/I	①焼締 ②硬質 表面に青木染痕があり輪巻作。裏面は回転の撫痕。粘 土板の合目あり。側面面取1回。	秋岡。
2264 79	瓦 女瓦	厚 1.4cm		N-29-32G	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰7.5Y6/I	①硬質 ②硬質 側部に布圧痕があり、一枚作。裏面に絡縄文と磨砂あ り。側部は造削り後焼丸。	秋岡。

7. 表面採集の遺物

表面採集遺物観察表〈縄文・弥生土器〉

図129

番号 PL	器種	残法	容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2258 80	縄文土器 鉢	口縁部破片		表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。②やや硬い。③にぶい焼7.5YR 6/3	頸部は大きくひろく。内外面とも器面完れ。	口縁部端部には刻み目。内面には黒点文や平行波線文が入る。	
2253 80	弥生土器 甕	口縁部破片		表面採集	①黒色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。②良好。③灰黄2.5YR 6/1	口縁部は外反し、端部は僅かにたつ。内面は横なで。	口縁部外面端部に刻み目が入る。	
2282 80	弥生土器 甕	口縁部破片		表面採集	①白色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。②普通。③焼成7.5YR 6/1	口縁部は受口状を呈す。内外面とも横なで。	外面口縁部は矢羽根状の幾種文様が入る。	
2257 80	弥生土器 甕	頸部破片		表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含む。②良好。③灰黄2.5Y4/1	頸部はくびれる。内面は器面完れ。	頸部は3本の平行波線文の間を円形刺突文を配す。内面の一部に塗彩が残る。	
2270 80	弥生土器 甕	頸部破片		表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。②普通。③灰白10YR 7/1	頸部は僅かにくびれる。内面は横方向の器面調整。	頸部は左回りの等間隔止塵状文。肩部は7条1単位位の波状文。	

表面採集遺物観察表〈土師器・須恵器〉

図129

番号 PL	器種	残法	容量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
13 80	土師器 高杯	脚部破片		表面採集	①細砂・黒色鉱物粒を多く含む。②硬質。③にぶい黄橙10YR 7/3	外面なで、2-4条の細い波線文帯の間に長さ5-7mmの彫面状工具による5mmおきの刺突文が、羽状に施されている。端部外面には幅5mmほどの面とりがされている。内面なで。端部のみ横なで。文様施文後、焼成前に小孔が穿たれている。	外采系
2254	土師器 杯	口縁部一部破片 1/5残存 高 4.1cm残		表面採集	①細砂を多く含む。②硬質。③にぶい橙7.5YR 7/1	口縁部下位が限る内斜口縁の杯形土器。口縁部は欠損する。体部外面丁寧なで調整。内面細かい縦方向幾種文。	
2253	土師器 小形高杯	杯部・脚部欠損 口 8.0cm 高 4.7cm残		表面採集	①砂粒を多量に含む。②やや軟質。③橙7.5YR 6/6	内外面なで調整。脚部内面横方向幾種文。	
2229 80	土師器 杯	完形 口 12.0cm 底丸底 高 3.8cm		表面採集	①夾雑物が少なく精選された胎土である。②硬質。③橙7.5YR 7/6	底部外面幾種文。口縁部内外面および体部内面は丁寧なで調整。	
8	土師器 杯	口縁部一部破片		表面採集	①多量の細砂を含む。②普通。③橙7.5YR 6/6	底部外面幾種文。内面なで。指頭文が残る。口縁部内外面横なで。外反する口縁と丸底の底部の境には鋭い稜がつけられている。	
733	土師器 土鉢	完形		表面採集	①硬質。②硬質。③灰黄2.5Y7/2	外面指なで調整。中央をややはずれて焼成前穿孔。	
6 80	土師器 台付甕	ほぼ完形 口 9.0cm 底 9.5cm 高 14.2cm		確認面表採	①細砂・雲母を多量に含む。②普通。③にぶい橙7.5YR 6/4	頸部、脚部外面幾種文の残、丁寧なで調整。内面横方向幾種文。口縁部内外面横なで。	
7 80	須恵器 高台付甕	口縁部一底部 3/4残存 口 14.5cm 底 6.6cm 高 5.7cm		確認面表採	①細砂・長石粒・赤色鉱物粒を含む。②酸化鉛焼成。軟質。③にぶい橙7.5YR 7/3	粘土緑釉き上げ成形。右回斜口口整形。底部鉛釉赤切り層し。付高台。高台接合部なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は丸く肥厚する。	

7. 表面採集の遺物

表面採集遺物観察表（灰輪陶器・陶器） 図120・130

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
14	灰輪陶器 碗	体部下位一底部 残存 底 7.8cm	表面採集	①緻密。 ②硬質。 ③灰白7.5Y8/1	貼り付け高台。高台端部は使用により摩滅。	
17	灰輪陶器 碗	体部下位一底部 残存 底 9.0cm	表面採集	①緻密。 ②硬質。 ③灰白10Y7/1	高台の貼り付けは部。底部内面中央は使用により平滑。	
12	灰輪陶器 小瓶	頸部一底部残存 口縁部欠損。 底 5.0cm	表面採集	①緻密。②硬質。 ③用オリーブ灰2.5GY 7/1	底部右側糸切り。外面灰輪。底部付近黒色物質付着。	
2	軟質陶器 火鉢又は 風炉	体部一上部破片 底 (21.2cm)	表面採集		高台にえぐり。高台境に針金による補修痕。	在地製 不詳
3	軟質陶器 鉢形鍋	体部一底部破片 底 (20.0cm)	表面採集		底部外面は高台状。体部・底部外面煤付着。	在地製 17~18C
1	陶器 輪軸輪	口縁部一底部 1/4残存 口 (10.2cm) 底 5.0cm 高 7.8cm	表面採集		口縁部下位は僅かにくぼむ。体部外面中位まで磨削り。高台脇以下無輪。	瀬戸・美濃系 18C前半
4	陶器 皿	口縁部一底部 1/4残存	表面採集		高台以外に長石輪痕。輪は板状を呈する。内外面に目度1ヶ所。やや焼成不足気味で焼き締まりはない。	瀬戸・美濃系 17C
9	陶器 碗	口縁部破片	表面採集		器壁厚。外面はワリガキ筆による2重割目文。内面は無輪。	肥前系 18中一後半
359	陶器 鉄輪徳利	底部のみ残存 底 13.0cm	表面採集		底部周縁回転痕有り。外面鉄輪を施し、底部の輪を拭い取る。	瀬戸・美濃系 18~19C
360	陶器 皿	体部破片	表面採集		唐津系の青緑輪。内底此ノ目状に輪をかき取る。高台脇以下は無輪。	肥前系 17C後~18C前
10	陶器	口縁部一底部 破片	表面採集		内面磨押し、外面はノミ状工具により施文。灰輪のみで鋼輪は施さない。高台脇以下無輪。	瀬戸・美濃系 17C
11	土製品 大黒様	完形	表面採集		土質の素焼製品。型造り。	在地製 江戸~大正か

表面採集遺物観察表（石器） 図130

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S711	勾玉	1.6・1.06 4.5	滑石 1.03	表面採集	半珠状である。穿孔は両端である。	
S639	UF	3.4・1.8 0.25	黒曜石 1.55	表面採集	縦長削片素材。両縁縁に微細な使用痕を残す。	
S328	削片	1.8・1.6 0.9	準片岩 4.48	表面採集	右側縁を部分的に研磨している。	滑石質。上 下両端は筋 理面が割れ ている。
S159	UF	3.6・4.8 0.8	黒色安山岩 12.71	表面採集	縦長削片の下縁に不規則な剝離痕が認められる。打面は自然面。	
S158	RF	4.9・6.9 0.9	頁岩 32.06	表面採集	縦長削片の下縁に細かい剝離痕が施されている。打面は欠失している。表面は自然面。	
S160	UF	3.1・4.0 0.7	黒色安山岩 7.13	表面採集	縦長削片の縁辺部使用。	
S161	RF	6.5・6.3 0.7	黒色安山岩 34.50	表面採集	削片の両側縁の鋭い部分に若干の調整を施し、削器として使用している。	
S23	磨製石斧	6.2・3.5 2.4	変玄武岩 74.9	表面採集	欠損後。上端から重打し調整してそのまま使用している。	刃部に刃痕 れあり。
S22	打製石斧	9.5・7.0 3.4	粗粒安山岩 294.0	表面採集	比較的厚手。あまり身は反らない。両縁は打いて潰れている。	刃部欠損
S156	砥石	9.3・3.1 3.0	福片石 125.82	表面採集	中央部が厚く、上下両側が薄くなり、断面形状は山形を呈する。上下両端は使用されていない。	
S157	礫器	5.8・5.6 1.9	かんらん岩 94.85	表面採集	裏面には刃ならし形状の線状痕を有する。表面には数回の剝離が施されているが、縁辺はあまり鋭くない。	

表面採集遺物観察表（石器） 四131・132

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重量 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S27 87	礫石	11.5・3.1 3.1	黒色片岩 106.1	表面採集	右側縁に1か所鋭いた痕跡があり、剥離面が表裏面に生じている。	
S27 81	磨石	6.9・5.7 2.5	粗粒安山岩 171.66	表面採集	表裏両面は磨痕が明確に付き、やや光沢をもつ。裏面の縁状痕は特にはっきりしている。	側面から裏面は黒変してやや光沢をもつ。
S20 87	礫石・磨石	12.6・10.0 4.8	粗粒安山岩 850.4	表面採集	楕円形を呈する。周辺部には敲打痕が残る。表裏両面は磨れているものと思われるが、方向不明。	風化している。
S152 82	磨石・礫石	13.8・13.7 4.0	閃緑岩 1435.7	表面採集	扁平な一面に磨り裏が認められるとともにススが付着している。周縁に敲打痕が認められる。	
S154	磨石	9.5・8.5 4.6	粗粒安山岩 418.9	表面採集	表面の一部と裏面に光沢痕が認められる。側面には敲打痕、あるいは光沢痕はない。	表面の一部は割れている。
S474 81	礫石	7.2・6.1 4.4	未固結凝灰岩 135.0	表面採集	幅広い縁状痕?が認められる。	
S153 81	磨石・礫石 凹石	11.9・11.8 6.1	粗粒安山岩 1173.6	表面採集	礫を4分割したものの一つを磨って整形している。剥離面の研磨は様子が明確に残る。表面に回転による凹みを残す。側面に部分的に敲打痕有り。	
S155 81	磨石	16.5・12.4 7.8	粗粒安山岩 1994.1	表面採集	角礫を用いて平坦面を使用している。表面も平坦ではあるが縁状痕あるいは光沢等は認められない。	磨痕のある側二面は若干熱を受けている。
S30 81	砥石	24.0・22.3 8.6	粗粒安山岩 5400.0	表面採集	表面中央の磨面は滑らかにゆるく凹む。幅1-2mm位の太い縦状痕が長軸方向に走る。細い鉄器用の砥石と考えられる。部分的に敲打痕を残す。裏面は使用されていない。	

遺構外出土獣骨一覧表

番号	出土遺構	種 名	部 位 名	左右	年令	性別	加工	焼骨	写真	備 考
300		IV面	同定不可					○		
301		IV面	同定不可					○		
302	2C-64G	IV面	ニホンシカ?					○		
303	Y-58G	IV面	同定不可					○		
304	Y-62G	IV面	ニホンシカ			♂		○		
305	Y-62G	IV面	同定不可					○		
306	Y-62G	IV面	ニホンシカ			♂		○		
307	Y-83G	IV面	同定不可					○		
308	W-61G	IV面	同定不可					○		
309	W-61G	IV面	同定不可					○		
310		IV面	ニホンシカ					○		
311	2B-62G		ニホンシカ		2.5才					
312	2C-65G		同定不可		成	♂		○		
313	V-57G		同定不可					○		
314	Y-58G		イノシシ		2.5才			○		
315	2B-64G	V面	同定不可					○		
316	N-32G		ニホンシカ					○		
317	N-32G		イノシシ					○?		
318	不明		同定不可							
319	不明		イノシシ							
320	不明		同定不可							
321	不明		ニホンシカ					○		
322	不明		同定不可					○?		

8. 第1分冊補遺

1号河川跡出土遺物観察表〈ガラス器〉 図133

資料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G 2	半欠	ターコイズブルー(596/8)	小玉	3.0	3.2	円形	1.0	0.03+α	B

2号河川跡出土遺物観察表〈ガラス器〉 図133

資料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G 1	半欠	シアン(584/8.5)	丸玉	5.5	3.95	円形	1.8	0.07+α	B

2号河川跡出土遺物観察表〈土師器〉 図133

番号 PL	器種	残存 状況	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
Z310 82	土製 土玉	ほぼ完形 長 1.0cm 幅 1.65cm 厚 1.5cm 孔径 0.25cm	2D-83G W333の中	①緻密 ②硬質 ③にぶい黄橙 10YR7/4	球形を孔を穿った方向から僅かにつぶした形状をしている。表面には僅かに作成時のきずがある。孔は円形であり、表面との境は僅かに割れている。		

下り櫛地区1号井戸出土遺物観察表〈石器〉 図133

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S656 82	礫石	12.45・9.3 6.9	粗粒安山岩 1185.0	埋没土中	一端及び一側縁に敲打痕を残す。	

下り櫛地区3号井戸出土遺物観察表〈石器〉 図133

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S655 82	礫石	13.9・13.65 4.9	石英閃緑岩 1560.0	埋没土中	一端に敲打痕を残す。 表面にススが附着している。	
S653 82	礫石	9.3・5.8 3.2	礫沢石 215.0	埋没土中	西面を砥ぎ面としている。	
S654 82	礫石	9.5・4.8 4.5	礫沢石 315.0	埋没土中	西面を砥ぎ面としている。	

新保田中村前遺跡Ⅲ

《遺物観察表編》

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

平成5年3月26日 印刷

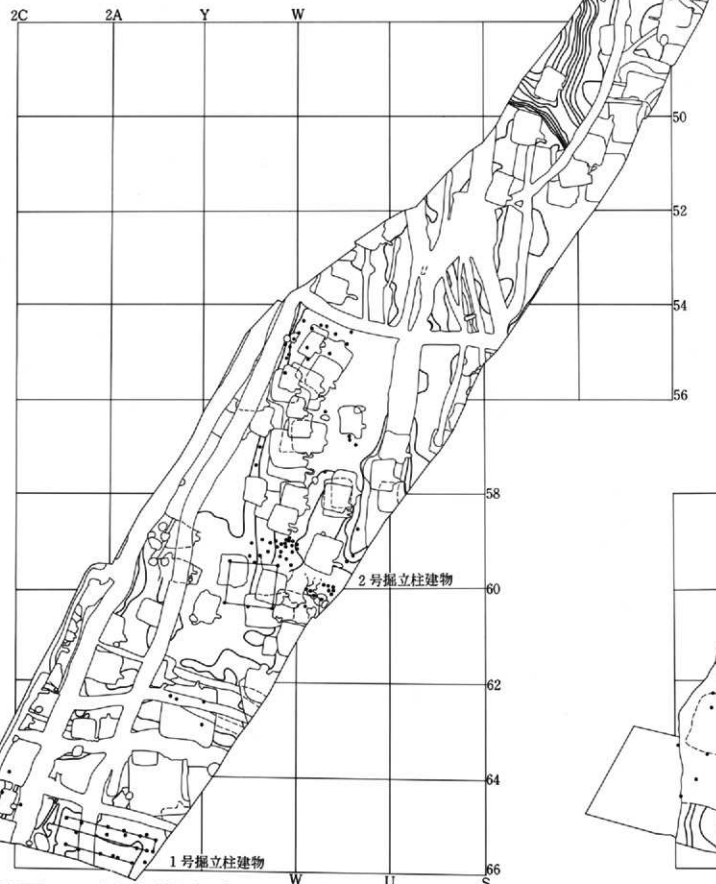
平成5年3月29日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

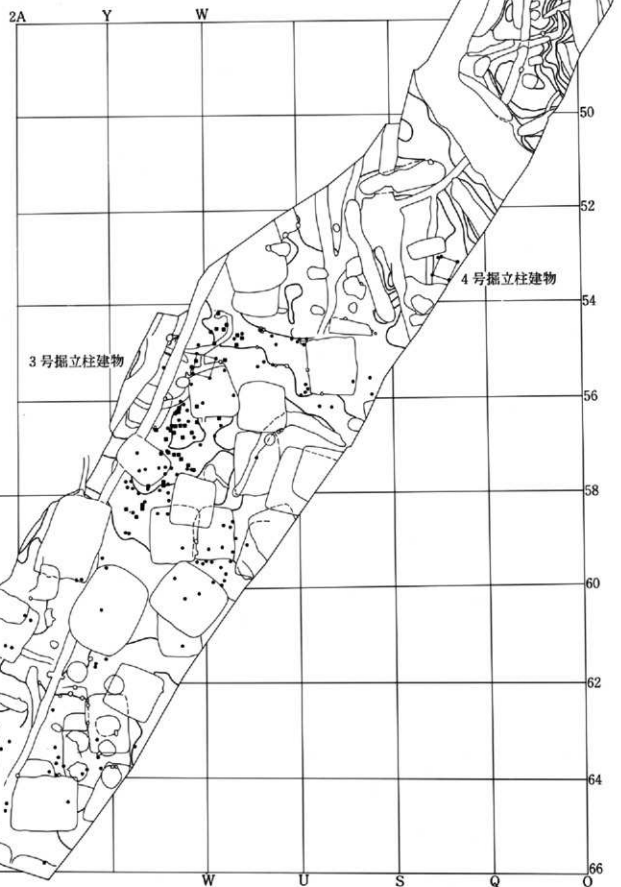
発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

1-1. I・II面

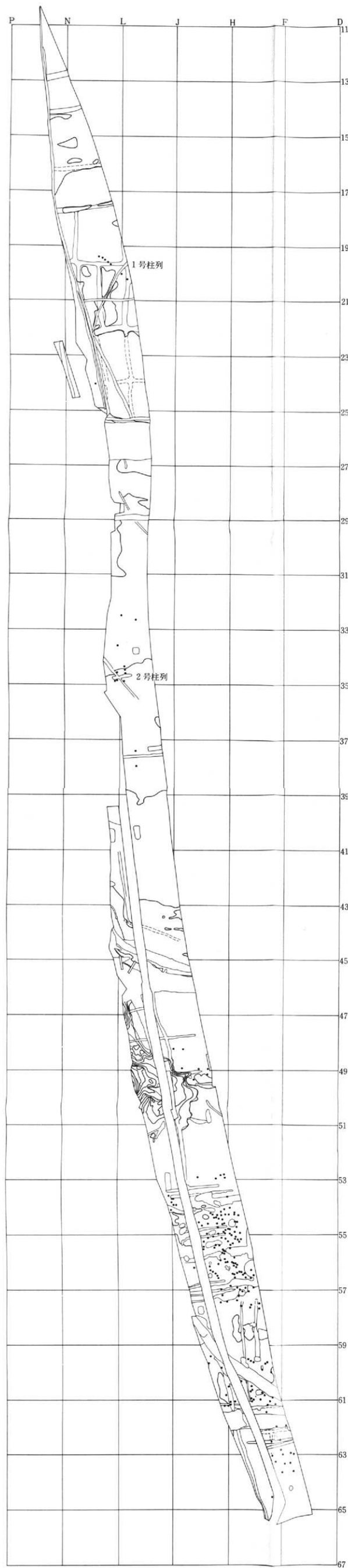


1-2. IV・V面

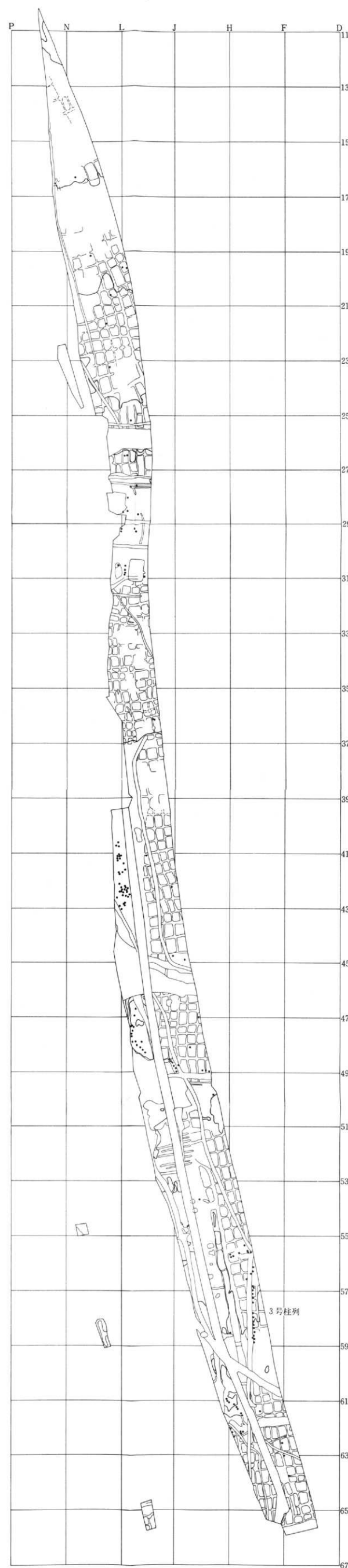


付図1. 村前地区ピット群平面図 S=1:400

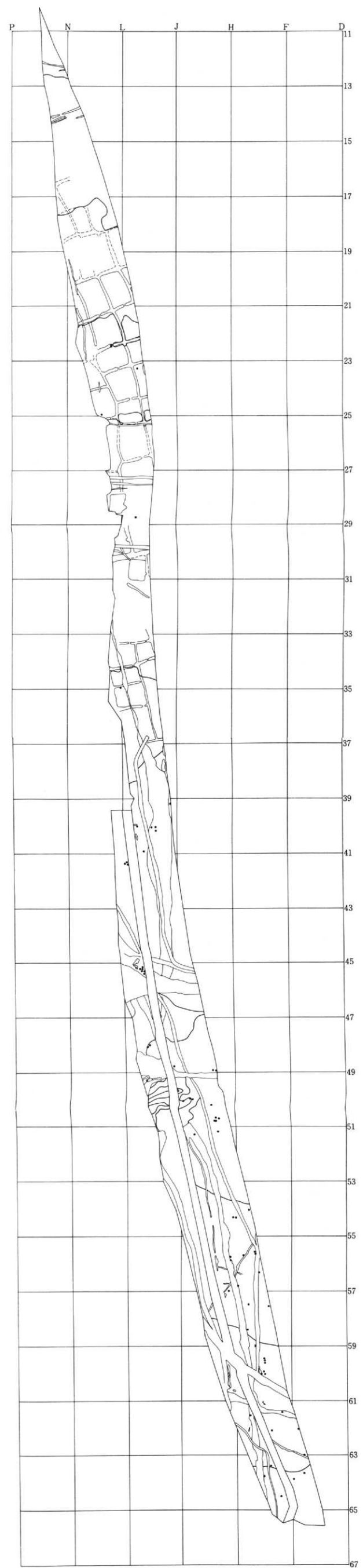
2-1. I面As-B下

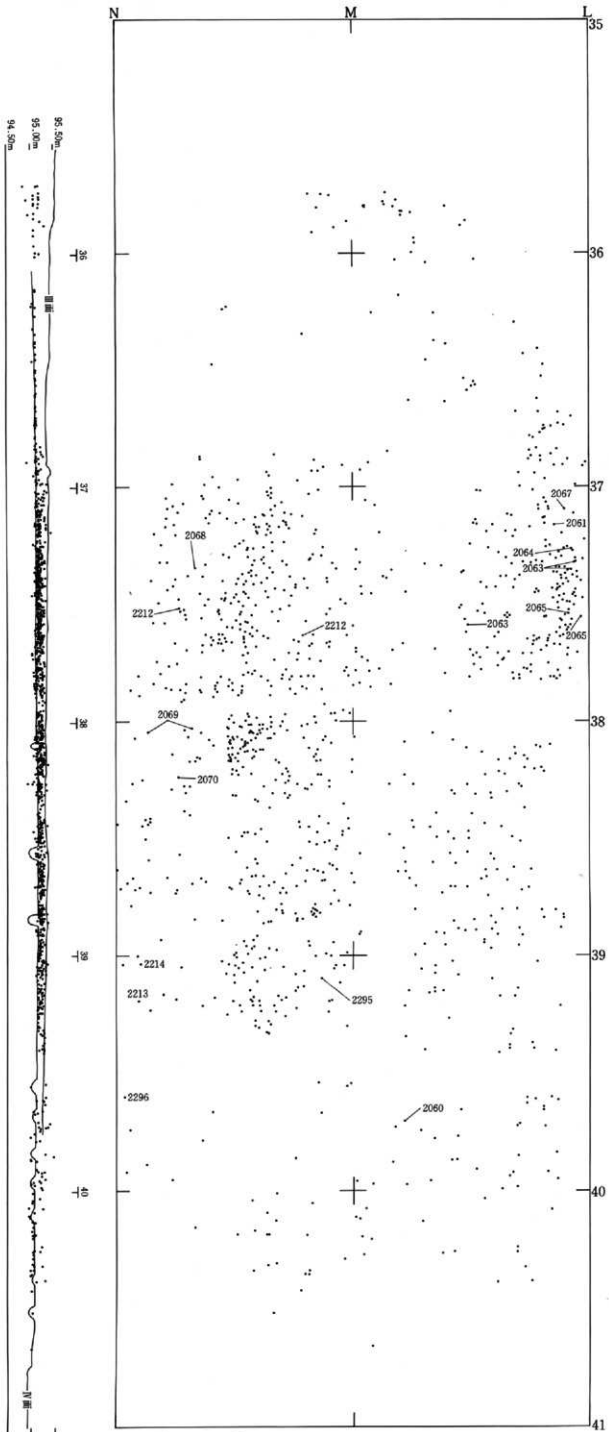


2-2. II面Hr-FA下

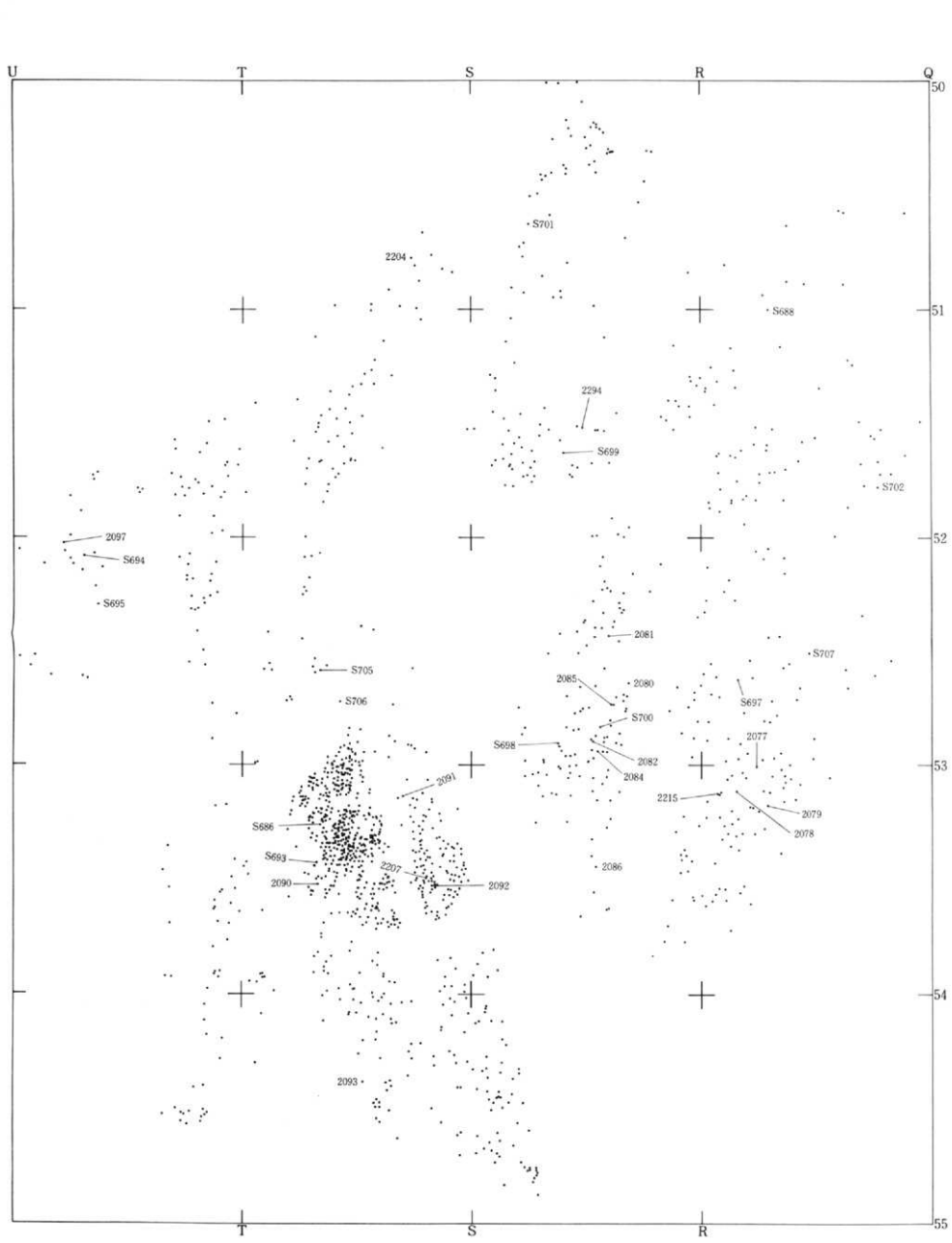


2-3. III面As-C下

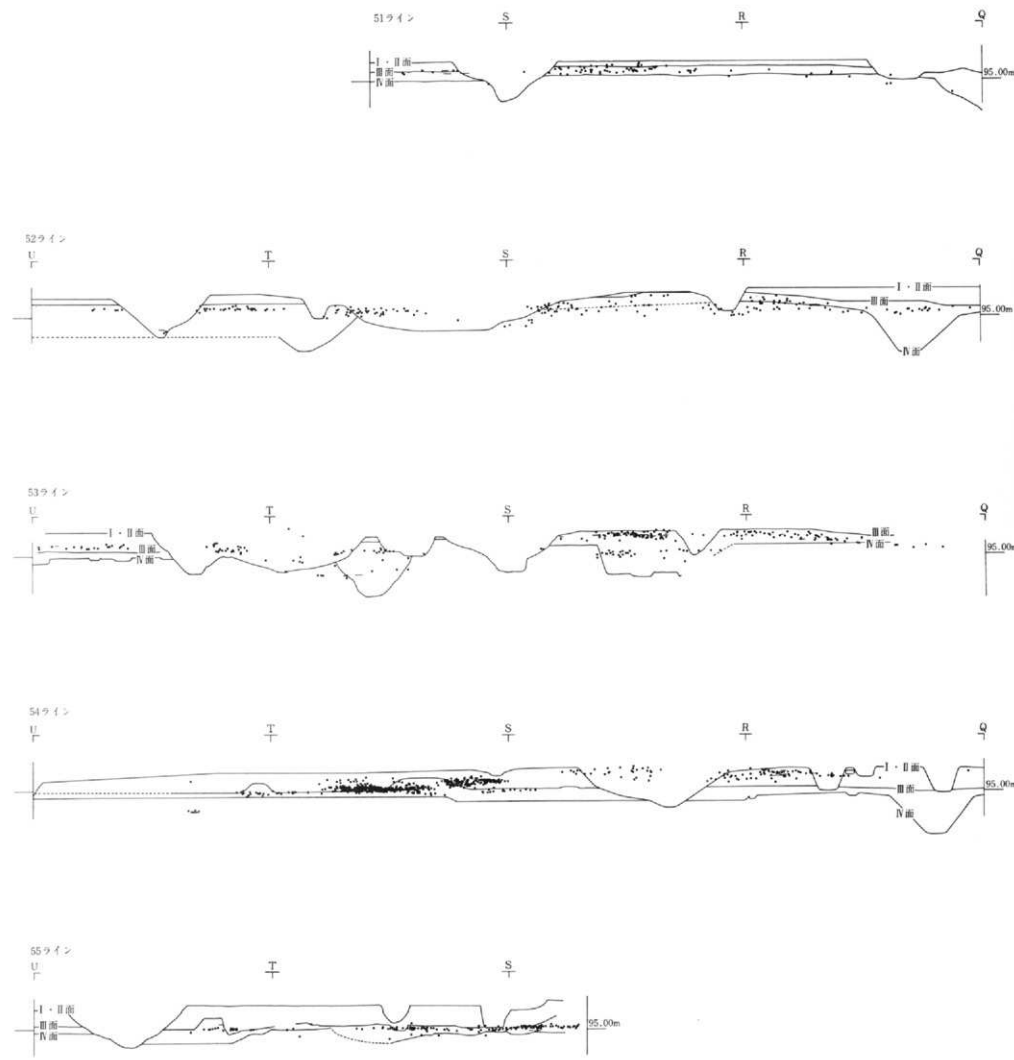




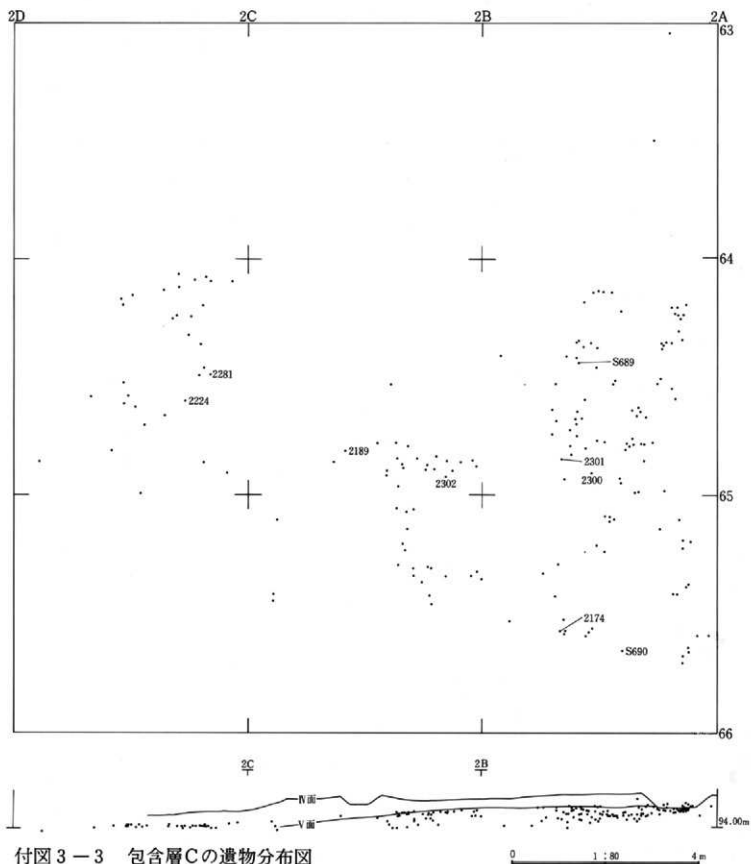
付図 3-1 包含層 A の遺物分布図



付図 3-2 包含層Bの遺物分布図



0 1:80 4m



付図3-3 包含層Cの遺物分布図